SONY PCV-T710MR/T510R

SONY

3-861-405-**02** (1)

パーソナル コンピューター

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

VAIO

PCV-T710MR/T510R

© 1997 by Sony Corporation

ソニー株式会社 〒141-0001 東京都品川区北品川6-7-35

使い方のご相談、技術的なお問い合わせは
ITテクニカルレスポンスセンターへ
● 0466-30-3000

カスタマー登録、一般的なお問い合わせは
VAIOカスタマー専用デスクへ
● 03-3584-6651

お電話の前に、必ず付属の「VAIOサービス・サポートのご案内」をご覧ください。

Printed in Japan

⚠警告 安全のために

ソニー製品は安全に十分配慮して設計されています。しかし、電気製品はまちがった使い方をすると、火災や感電などにより人身事故につながることがあり危険です。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

安全のための注意事項を守る

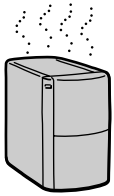
6〜10ページの注意事項をよくお読みください。製品全般の注意事項が記載されています。

故障したら使わない

すぐにITテクニカルレスポンスセンター修理窓口、または販売店にご連絡ください。

万一異常が起きたら

- **煙が出たら**
- **異常な音、においがしたら**
- **内部に水、異物が入ったら**
- **製品を落としたり、キャビネットを破損したとき**



❶ 電源を切る
❷ 電源コードや接続ケーブルを抜く
❸ ITテクニカルレスポンスセンター修理窓口、または販売店に連絡する

データはバックアップをとる

ハードディスク内の記録内容は、バックアップをとって保存してください。ハードディスクにトラブルが生じて、記録内容の修復が不可能になった場合、当社は一切その責任を負いません。

警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなどの人身事故につながることがあります。

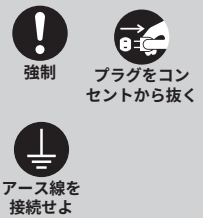
⚠注意

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の物品に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号

行為を禁止する記号

行為を指示する記号



電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づく第二種情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

漏洩電流自主規制について

この装置の本体およびディスプレイは、それぞれ社団法人日本電子工業振興協会のパソコン基準（PC-11-1988）に適合しております。

瞬時電圧低下について

本装置は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをお薦めします。

（社団法人日本電子工業振興協会のパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインに基づく表示）

レーザー安全基準について

この装置には、レーザーに関する安全基準（JIS・C-6802、IEC825）クラス1適合のCD-ROMドライブが搭載されています。

- VAIOはソニー株式会社の商標です。
- Microsoft、MS、MS-DOSおよびWindowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- IBMおよびPC/AT、PS/2は、米国International Business Machines Corporationの商標および登録商標です。
- So-netは、ソニーコミュニケーションネットワーク株式会社の登録商標です。
- その他、本書に記載されているシステム名、製品名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。なお、本文中では™、®マークは明記していません。

本機をお使いになる前に、必ずお買い上げのパソコンに添付のソフトウェア使用許諾契約書をお読みください。

□ 権利者の許諾を得ることなく、本機に付属のソフトウェアおよび取扱説明書の内容の全部または一部を複製すること、およびソフトウェアを賃貸することは、著作権法上禁止されております。
□ 本機に付属のソフトウェアを使用したことによって生じた金銭上の傷害、逸失利益、および第三者からのいかなる請求等につきましても、当社は、一切その責任を負いかねます。
□ 万一、製造上の原因による不良がありましたらお取り替えいたします。それ以外の責はご容赦ください。
□ 本機に付属のソフトウェアは、本機以外には使用できません。
□ 本機に付属のソフトウェアの仕様は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご容赦ください。

目次

⚠警告 ・⚠注意 6
モデルの構成 11
こんなことができます 12
マニュアルの使いかた 14
コンピューターの基礎知識 15

操作編

基本的な使いかた

電源を入れる 18
　電源を切るには 19
マウスを使う 21
キーボードを使う 24
文字を入力する 27
　日本語入力を準備する 27
　入力のしかたを選ぶ 29
　文字を入力する 30
CD-ROM／CD-Rを使う 35
　トレイアダプターを使う 36
　キャディを使う 41
　使用できるディスク 44
　CD-R FSを使う 45
フロッピーディスクを使う 52
　フロッピーディスクを入れる 52
　データを書き込み禁止にする 54
　初期化について 54
　使用できるフロッピーディスク 55

VAIOを使いこなす

インターネットを楽しむ 56
　インターネットとは 56
　インターネットを始めるには 57
　インターネットを始める 59
パソコン通信を楽しむ 60
電話／ファックスを使う 62
　電話／ファックスを準備する 62
　電話をかける 66
　電話を受ける 67
　ファックスを送信する 68
　ファックスを受信する 69
赤外線（IrDA）でデータを交換する 70
DV機器から静止画を取り込む 72
ビデオ編集をする（PCV-T710MRのみ） 73
音楽CD／ビデオCDを再生する 74
テレビを見る（PCV-T710MRのみ） 75
いろいろなソフトウェアを使う 76

周辺機器を接続する

電話回線につなぐ 77
　電話回線のコンセントの種類 79
赤外線通信アダプターをつなぐ 80
AV機器をつなぐ 82
　アンテナをつなぐ（PCV-T710MRのみ） 83
　DV機器をつなぐ 85
　ビデオ機器をつなぐ（PCV-T710MRのみ） 86
　デジタルスチルカメラを使う 88
　テレビにつなぐ 89
プリンターをつなぐ 91
ジョイスティック／MIDI機器をつなぐ 92

リファレンス編

本体を拡張する

拡張ボードを増設する 94
- 拡張ボードの種類 94
- プラグアンドプレイについて 94
- リソースについて 95
- 拡張ボード取り付けの流れ 96
- 拡張ボードを取り付ける 97

メモリーを増設する 103
- RAMボードを取り付ける 103

デバイスを増設する 108
- デバイスを取り付ける 108
- 前面パネルのベイカバーを取りはずす 111

BIOSセットアップメニューを使う

BIOSセットアップメニューの概要 ... 112
- BIOSセットアップとは 112
- BIOSセットアップメニューの特長 .. 113
- BIOSセットアップメニューを起動する 114
- BIOSセットアップメニューの構成 .. 114
- BIOSセットアップメニューでのキー操作 115

Mainメニュー（ハードウェア資源の割り当て） 116

Advancedメニュー（システム構成の詳細の設定） 121

Securityメニュー（パスワード、セキュリティの設定） 128

Powerメニュー（電源管理に関する設定） 131

Bootメニュー（起動オプション、電源供給関連の設定） 133

Exitメニュー（BIOSセットアップメニューの終了） 136

Windowsの設定を変更する

操作環境を自分の好みに合わせる 138
- コントロールパネルとは 138
- ディスプレイの設定を変更する 139
- 音質の設定を変更する 147

モデムのATコマンド表

コマンド一覧 149
レジスターの機能一覧 156

その他

使用上のご注意 160
お手入れ 164
保証書とアフターサービス 166
主な仕様 167
リカバリーCDで本機を再セットアップする 169
各部の名称と働き 171
キーボードショートカット 175
故障かな？と思ったら 176
索引 181

⚠警告

火災　感電

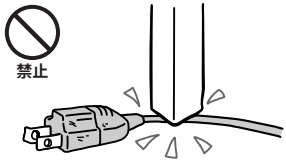
下記の注意事項を守らないと火災・感電などにより死亡や大けがの原因となります。

電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となることがあります。

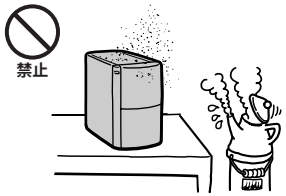
- 設置時に、製品と壁やラック（棚）などの間に、はさみ込んだりしない。
- 電源コードを加工したり、傷つけたりしない。
- 重いものをのせたり、引っ張ったりしない。
- 熱器具に近づけたり、加熱したりしない。
- 電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。

万一、電源コードが傷んだら、ITテクニカルレスポンスセンター修理窓口、または販売店に交換をご依頼ください。



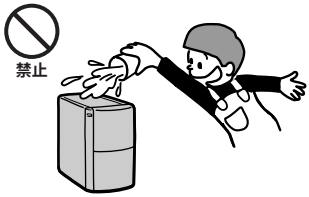
油煙、湯気、湿気、ほこりの多い場所には設置しない

上記のような場所に設置すると、火災や感電の原因となることがあります。取扱説明書に記されている使用条件以外の環境での使用は、火災や感電の原因となることがあります。



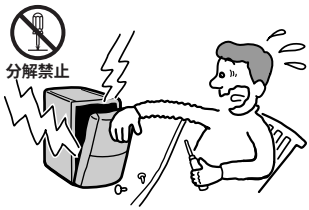
内部に水や異物を入れない

水や異物が入ると火災や感電の原因となることがあります。万一、水や異物が入ったときは、すぐに電源を切り、電源コードや接続コードを抜いて、ITテクニカルレスポンスセンター修理窓口、または販売店にご相談ください。



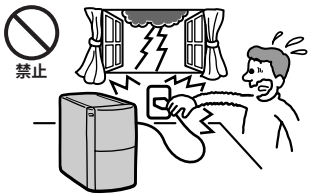
むやみに内部を開けない

- 内部には電圧の高い部分があり、ケースやフロントカバーをむやみに開けたり改造したりすると、火災や感電の原因となることがあります。内部の点検、修理はITテクニカルレスポンスセンター修理窓口、または販売店にご依頼ください。
- 各種の拡張ボード（基板）を取り付けたりメモリーを増設する場合など、コンピューターの内部を開ける必要があるときは、取扱説明書の周辺機器の拡張のページで指定された方法に従い、部品や基板などの角で手や指にけがをしないように注意深く作業してください。また、指定されている部分以外には触れないでください。指定以外の部分にむやみに触れると、火災や感電の原因となることがあります。



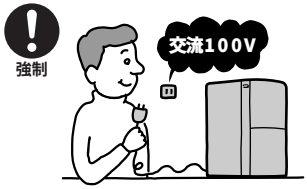
雷が鳴り出したらアンテナ線や電源プラグに触らない

感電の原因になります。



本機は日本国内専用です

交流100Vでお使いください。
海外などで、異なる電圧で使うと、火災や感電の原因となることがあります。



⚠警告 下記の注意事項を守らないと、健康を害するおそれがあります。

ディスプレイを長時間継続して見ない

ディスプレイなどの画面を長時間継続して見続けると、目が疲れたり、視力が低下するおそれがあります。
ディスプレイ画面を見続けて体の一部に不快感や痛みを感じたときは、すぐに本機の使用をやめて休息してください。万一、休息しても不快感や痛みがとれないときは医師の診察を受けてください。

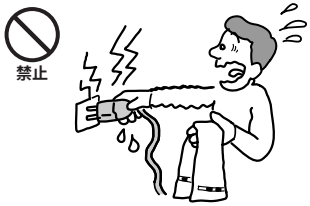
キーボードを使いすぎない

キーボードやマウスなどを長時間継続して使用すると、腕や手首が痛くなったりすることがあります。
キーボードやマウスなどを使用中、体の一部に不快感や痛みを感じたときは、すぐに本機の使用をやめて休息してください。万一、休息しても不快感や痛みがとれないときは医師の診察を受けてください。

⚠注意 下記の注意事項を守らないと**けが**をしたり周辺の**物品**に**損害**を与えたりすることがあります。

ぬれた手で電源プラグをさわらない

ぬれた手で電源プラグを抜き差しすると、感電の原因となることがあります。



接続の際は電源を切る

電源コードや接続コードを接続するときは、電源を切ってください。感電や故障の原因となることがあります。

指定された電源コードや接続コードを使う

取扱説明書に記されている電源コードや接続コードを使わないと、感電や故障の原因となることがあります。

安全アースを接続する

安全アースを接続しないと感電の原因となることがあります。安全アースを取り付けることができない場合は、販売店にご相談ください。

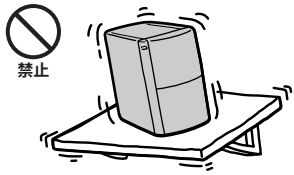
通風孔をふさがない

通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災や故障の原因となることがあります。風通しを良くするために次の項目をお守りください。

- 壁から10cm以上離して設置する。
- 密閉されたせまい場所に押し込めない。
- 毛足の長い敷物（じゅうたんや布団など）の上に設置しない。
- 布などで包まない。
- あお向けや横倒し、逆さまにしない。

不安定な場所に設置しない

ぐらついた台の上や傾いたところに設置すると、倒れたり落ちたりしてけがの原因となることがあります。また、設置・取り付け場所の強度も充分にお確かめください。



運搬時は慎重に

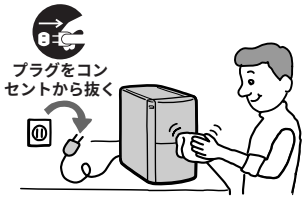
コンピューターを運搬するときは、底面全体を保持し、安定した姿勢で運んでください。前面および後面パネル部分に手をかけて持たないでください。運搬中にバランスを崩すと落下によりけがの原因となることがあります。また、本体と設置面との間に指を挟まないようにご注意ください。

製品の上に乗らない、重い物を乗せない

倒れたり、落ちたり、壊れたりして、けがの原因となることがあります。

お手入れの際は電源を切ってプラグを抜く

電源を接続したままお手入れをすると、感電の原因となることがあります。



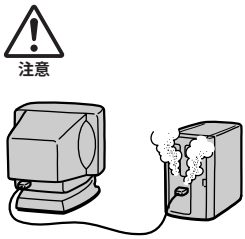
移動させる時は電源コードや接続コードを抜く

接続したまま移動させると、コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。

⚠注意 下記の注意事項を守らないと**けが**をしたり周辺の**物品**に**損害**を与えたりすることがあります。

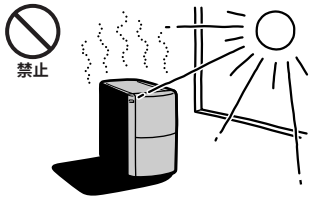
コネクターはきちんと接続する

- コネクター（接続端子）の内部に金属片を入れないでください。ピンとピンがショート（短絡）して、火災や故障の原因となることがあります。
- コネクターはまっすぐに差し込んで接続してください。斜めに差し込むとピンとピンがショートして、火災や故障の原因となることがあります。
- コネクターに固定用のスプリングやネジがある場合は、それらで確実に固定してください。接続不良が防げます。
- アース線のあるコネクターには必ずアースを接続してください。



直射日光の当たる場所や熱器具近くに設置・保管しない

内部の温度が上がり、火災や故障の原因となります。



大音量で長時間つづけて聞きすぎない

耳を刺激するような大きな音量で長時間つづけて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。特にヘッドホンで聞くときはご注意ください。呼びかけられて返事ができるくらいの音量で聞きましょう。

モデルの構成

この取扱説明書は、ソニーVAIOシリーズミニタワー型パーソナルコンピューターPCV-T710MRとPCV-T510Rについて記載しています。
お買い上げいただいたモデルがどちらかによって、下の点が異なります。

- PCV-T710MRには前面および後面パネルに映像／音声入力端子が付いています。S映像ケーブル、映像／音声ケーブルでビデオデッキやビデオカメラレコーダーと接続することにより、ビデオデッキの再生画像やビデオカメラレコーダーで撮影した映像を見たり、映像を取り込んで編集することができます。
- PCV-T710MRには後面パネルにアンテナ端子が付いています。アンテナをつなぐことにより、テレビ番組を見たり録画したりすることができます。

PCV-T510Rをお買い上げのかたへ

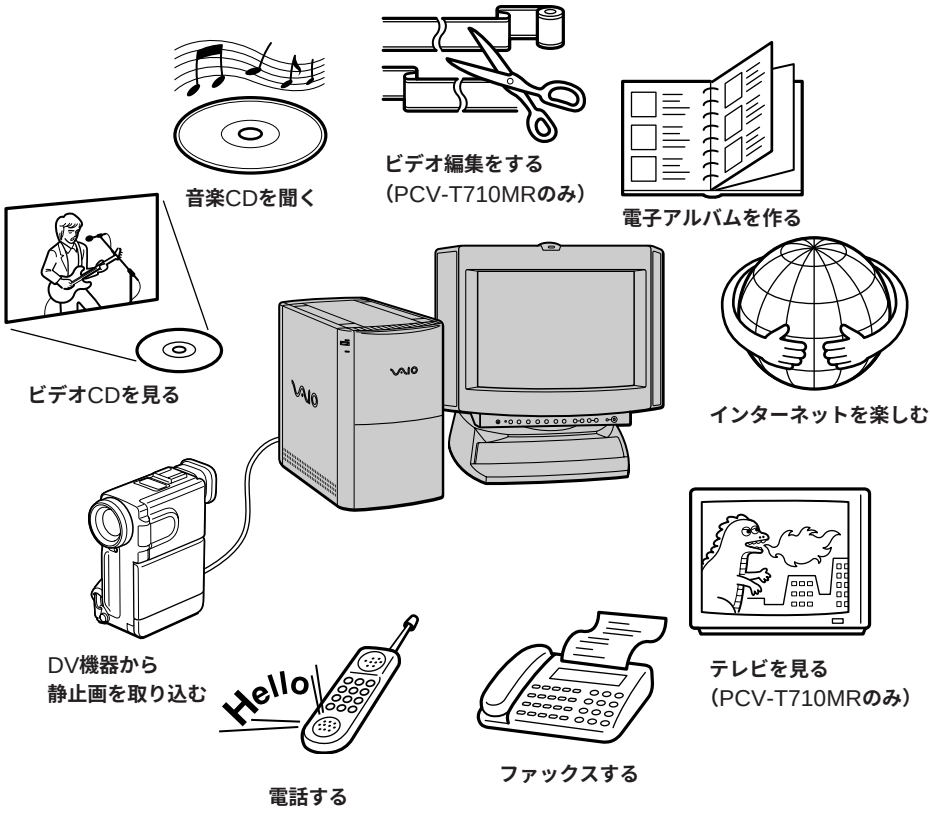
映像／音声入力端子およびアンテナ端子が付いた拡張MPEG1リアルタイムエンコーダーボードの「アップグレードキット」によるアップグレードサービス（有償）も行っております。申し込み期限・費用などについて詳しくはITテクニカルレスポンスセンターへお問い合わせください。

本書で使われている本機のイラストについて

本書の説明の中で使われているイラストは、断りがない限り、PCV-T710MRのイラストです。

こんなことができます

本機は、テレビやビデオデッキ、ビデオカメラレコーダーなどのAV機器と組み合わせて使うことを想定して設計された、ソニーならではのパソコンです。
ここでは、本機を使ってできることの例をあげてみましょう。



DV機器から画像を取り込む

DV端子を持つデジタルビデオカメラレコーダーなどのDV機器から、デジタル信号のままで美しい静止画を取り込めます。

取り込んだ画像や映像を自由自在に活用する

別売りのソニーデジタルスチルカメラDSC-F1／F2／F3「サイバーショット」やデジタルビデオカメラレコーダーなどのDV機器から取り込んだ静止画は、付属のPictureGear Liteソフトウェアで簡単に管理できます。付属のAdobe PhotoDeluxeソフトウェアを使えば、取り込んだ画像にタイトルを入れたり、特殊効果をかけたりできます。

PCV-T710MRでは、ビデオデッキやビデオカメラレコーダーから取り込んだ映像を、付属のSlipclipソフトウェアを使って、一本の映像にまとめてビデオCDにすることもできます。PCV-T710MRは前面パネルにもAV入力端子を標準装備しており、AV機器と簡単につなげます。

AV再生を楽しむ

付属のMedia Barソフトウェアを使って、音楽CDやビデオCDを再生できます。

インターネットを楽しむ

通信用のモデムを内蔵しているため、インターネットに接続して世界中の情報に接したり、電子メールをやり取りしたりできます 。

ファックス電話として活用する

ファックスを送受信したり、本機を電話として使うこともできます。

実用的なソフトウェアを使う

ワープロや表計算、家計簿などの市販のソフトウェアを使って、本機を実用的な用途に使えます。

テレビを見る（PCV-T710MRのみ）

PCV-T710MRにアンテナをつなぐと、パソコンを使いながらテレビ番組を楽しむことができます。

著作権について

あなたが本機で録画・録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断では使用できません。

また、著作者の許可なく、取り込んだ映像・画像・音声に変更・切除その他の改変を加え、著作物の同一性を損うことは禁じられています。

マニュアルの使いかた

本書は、以下の3章で構成されています。

❑ 操作編

ここでは、本機の基本的な使いかた、一歩進んだ使いかた、周辺機器の接続のしかたを説明しています。本機の操作に慣れていないかたはここからお読みください。

❑ リファレンス編

ここでは、本機の拡張のしかたや設定の変えかたを説明しています。パソコンについて習熟されており、本機をさらに拡張してお使いになりたいかたはこちらもお読みください。

❑ その他

本機をお使いになる際のご注意やお手入れのしかたなどについて説明しています。本機がうまく動作しないときは、「故障かな？と思ったら」をお読みください。

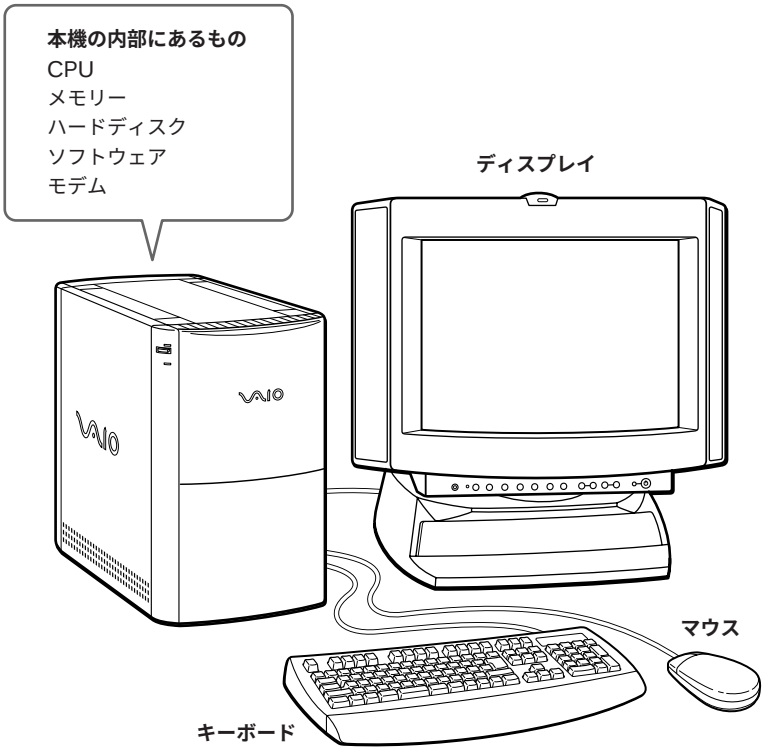
本機でできることの一部をご紹介します。それぞれ詳しくは右側の参照先の説明をご覧ください。また、本機にどんなソフトウェアが付属されているかは、別冊の「付属ソフトウェア一覧」をご覧ください。

こんなことがしたい	詳しくは
インターネットを利用したい	「インターネットを楽しむ」(56ページ)
DV機器から静止画を取り込みたい	「DV機器から静止画を取り込む」(72ページ)
映像の編集をしてみたい	「ビデオ編集をする（PCV-T710MRのみ)」(73ページ)
CDを聞きたい	「音楽CD／ビデオCDを再生する」(74ページ)
電話をかけたい	「電話／ファックスを使う」(62ページ)
テレビを見たい	「テレビを見る（PCV-T710MRのみ)」(75ページ)
デジタルスチルカメラを使いたい	「デジタルスチルカメラを使う」(88ページ)
DV機器をつなぎたい	「DV機器をつなぐ」(85ページ)
他のパソコンのデータをこのパソコンで使いたい	「赤外線（IrDA）でデータを交換する」(70ページ)

コンピューターの基礎知識

ここでは、基本的なコンピューターの用語を説明します。

用語解説



❑ CPU（シーピーユー）

Central Processing Unitの略で、中央演算処理装置のことです。パソコンの内部にあり、パソコンの頭脳にあたります。

❑ メモリー

パソコンの内部にある記憶装置のことです。CPUで作業（メガ）した結果などを一時的に蓄えておきます。PCV-T710MRでは64Mバイト、PCV-T510Rでは32M（メガ）バイトのメモリーを搭載しています。電源を切ると記憶した内容は消えてしまいます。

次のページにつづく

❑ **ハードディスク**

メモリーが一時的に作業結果を蓄えておく記憶装置であるのに対して、ハードディスクは長期間、作業結果を保存しておく記憶装置です。パソコンで作った文書や絵の他、ワープロや表計算などのソフトウェアもハードディスクに保存されています。電源を切っても記憶した内容は保持されます。

❑ **ソフトウェア**

ワープロ、表計算、データベース、ゲームなど、パソコンを使う上での具体的な機能を果たすものです。

❑ **キーボード**

文字や数字を入力するための機器です。

❑ **マウス**

本機でのほとんどの作業に使用します。パソコンでは文字や数字を入力するだけでなく、画面上のある場所を示すという操作が必要です。マウスがその「示す」という操作に使われます。マウスを机の上で滑らせると、その動きに合わせて画面上の矢印（ポインター）も動きます。

❑ **ディスプレイ**

使用しているソフトウェアや作成している文書などを表示します。

❑ **モデム**

パソコンを電話回線につなぐために使用します。パソコンのデータを、電話回線でやりとりできるように信号を変換します。

操作編

第1章

この章では、本機の基本操作やうまく使いこなすための情報やヒントを説明しています。本機の操作にあまり慣れていない方は、ここからお読みください。

基本的な使いかた

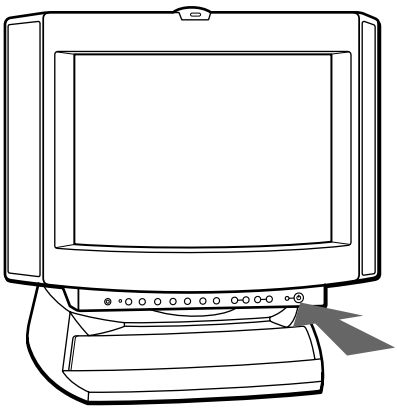
電源を入れる

電源を入れる前に確認してください

- ディスプレイ、キーボード、マウスが正しく接続されているか。
- 電源コードがきちんと接続されているか。
- フロッピーディスクがフロッピーディスクドライブに入ったままになっていないか。もし入っている場合はフロッピーディスクイジェクトボタンを押して取り出してください。(53ページ)

接続について詳しくは、別冊の「はじめにお読みください」をご覧ください。

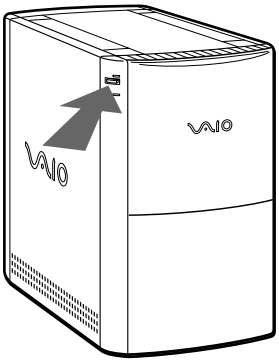
1 ディスプレイの電源スイッチを押す。



2 本機の電源スイッチを押す。

本機の電源が入り、電源ランプが点灯し、Windows 95が起動します。

初めて電源を入れたときは、Windows 95のセットアップ画面が表示されます。Windows 95のセットアップ画面については、別冊の「はじめにお読みください」をご覧ください。



電源を切るには

本機の電源を切るときは、次の手順で操作してください。

ご注意

以下の手順に従って電源を切らないと故障の原因になったり、作成した文書などが使えなくなったりすることがあります。

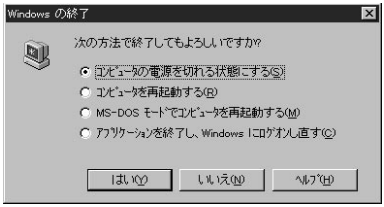
1 タスクバーの［スタート］ボタンをクリックする。

「スタート」メニューが表示されます。

次のページにつづく

2 **メニューの［Windowsの終了］をクリックする。**

「Windowsの終了」が表示されます。



3 **［コンピューターの電源を切れる状態にする］をクリックして選び、つぎに［はい］をクリックする。**

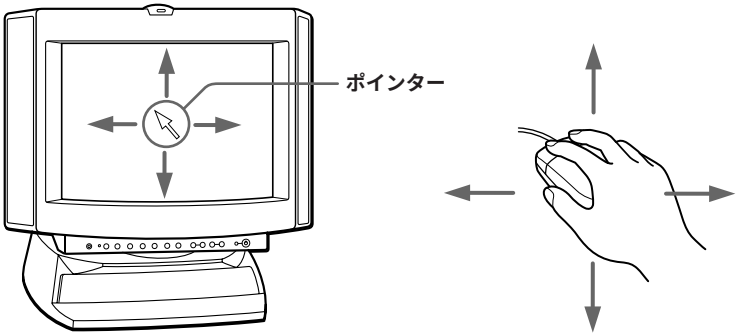
「しばらくお待ちください」と数秒表示されてから、本機の電源が自動的に切れます。

ご注意

本機の電源を切った後、10秒以内に電源を入れないでください。

マウスを使う

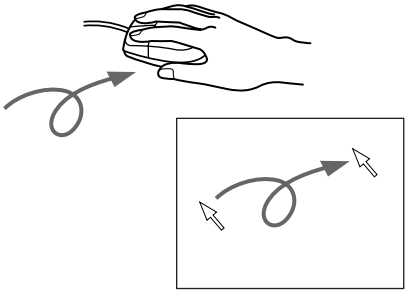
マウスを動かすと、その動きに合わせて画面上のポインターも同じ方向に移動します。



ポインターを目的の位置まで動かして左または右のボタンを押すことで、メニューを選んだりさまざまな命令をコンピューターに伝えることができます。

マウスを動かす

机の上など平らな場所に置き、滑らせるように動かします。マウスを動かすときは、腕全体を使うようにします。マウスを動かしていて机の端まで行ってしまったら、マウスを持ち上げて元の位置に戻して動かします。



次のページにつづく

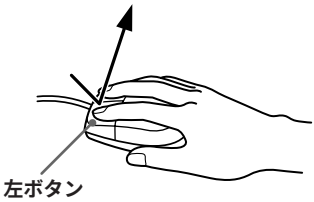
ポイントする

ポインターを希望の位置に合わせることです。メニューを選ぶときなどに使います。

クリックする

左ボタンをカチッと1回押してすぐ離すことです。

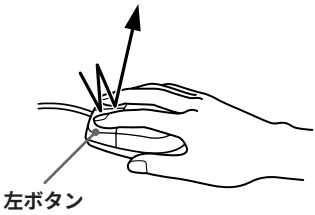
［OK］や［キャンセル］などのボタンを押したり、メニューを選ぶときなどに使います。



ダブルクリックする

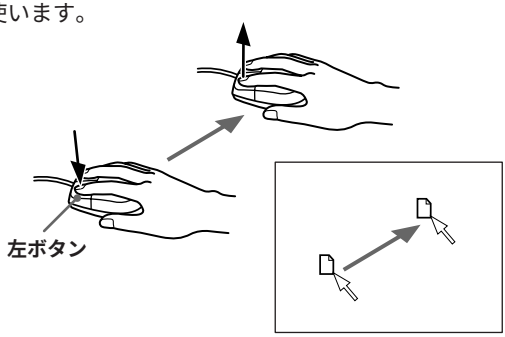
左ボタンをカチカチッと2回すばやく押してすぐ離すことです。

ソフトウェアを実行したり、作成した文書のファイルを開くときなどに使います。



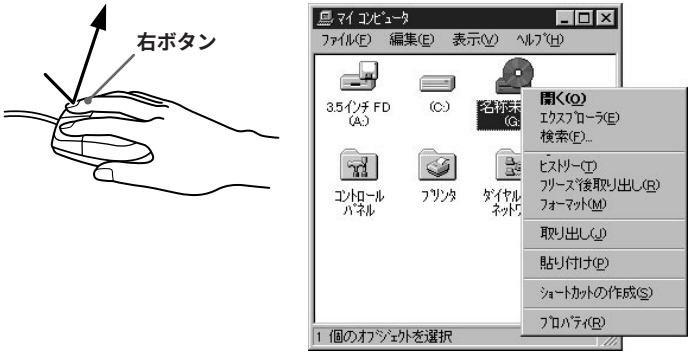
ドラッグする

左ボタンを押して、そのまま希望の位置まで動かしてからボタンを離すことです。ファイルを移動したり、ウィンドウの大きさを変更するときなどに使います。



右クリックする

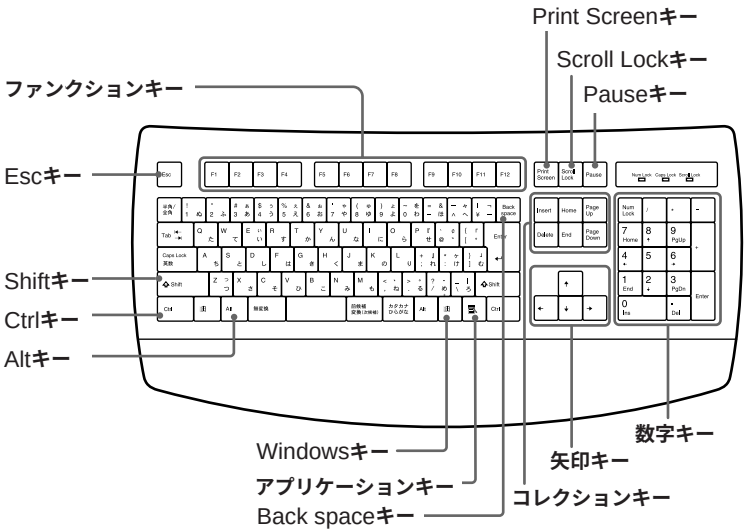
右ボタンを1回押してすぐ離すことです。押したときのポインターの位置によって、さまざまな内容のショートカットメニューが表示されます。



キーボードを使う

キーボードを使って文字や記号を入力したり、パソコンへ命令を送ることができます。ここでは、他のキーと組み合わせて使う、特殊なキーのなまえと機能を紹介します。

文字の入力のしかたについては、「文字を入力する」（27ページ）をご覧ください。



なまえ	機能
ファンクションキー	使用するソフトウェアによって働きが異なります。詳しくは各ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。
Ctrl（コントロール）キー	文字キーなどと組み合わせて使うと、特定の機能を実行します。使用するソフトウェアによって働きが異なります。詳しくはWindows 95のファーストステップガイドまたは各ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。 例）Ctrlキーを押しながら、Sキーを押す。 メニューから「保存する」を選ばずに、ファイルを保存できます。

なまえ	機能
Alt（オルト）キー	文字キーなどと組み合わせて使うと、特定の機能を実行します。 使用するソフトウェアなどによって働きが異なります。詳しくはWindows 95のファーストステップガイドまたは各ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。 例）Altキーを押しながら半角／全角キーを押す。 押すたびに入力する文字を漢字または英数字に切り換えます。
Shift（シフト）キー	文字キーと組み合わせて使うと、大文字を入力できます。Caps Lockランプがついている状態で、文字キーと同時に押した場合は、小文字を入力できます。また、文字キーと他の機能キーと組み合わせて使うと、特定の機能を実行できます。
Windows（ウィンドウズ）キー 	Windows 95の「スタート」メニューが表示されます。 他のキーと組み合わせて使うと、特定の機能を実行できます。詳しくはWindows 95のファーストステップガイドをご覧ください。 「Windowsキーとの主な組み合わせと機能」（175ページ）をご覧ください。
数字キー	Num Lock（ナム・ロック）キーを押し、Num Lockランプが点灯しているときは、数字を入力できます。消灯しているときは、矢印キーやコレクションキーと同じ働きをします。
矢印キー	画面上のカーソルを動かしたり、数ページにわたる画面の次ページまたは前ページを表示するときなどに使います。Num Lockランプが消灯しているときは、数字キーの一部も矢印キーとして使えます。
アプリケーションキー 	マウスで右ボタンを押したときと同じ働きをします。
Esc（エスケープ）キー	設定を取り消したり、実行を中止するときなどに押します。

次のページにつづく

なまえ	機能
Print Screen（プリントスクリーン）キー	表示されている画面を取り込みます。取り込んだ画像は「ペイントブラシ」などのソフトウェア上に貼りつけられます。
Back spaceキー	画面上のカーソルの左の文字を消すときに押します。
コレクションキー	Num Lockランプが消灯しているときは、数字キーの一部もコレクションキーとして使えます。
• Insert（インサート）キー	文字入力のモードを切り換えます。1回押すごとに画面上のカーソルの位置に文字を挿入するモードと、カーソルの位置から文字を上書きするモードとが切り換わります。
• Delete（デリート）キー	画面のカーソル上の文字を消すときに押します。
• Home（ホーム）キー	行の先頭にカーソルを持っていくときに押します。
• End（エンド）キー	行の最後にカーソルを持っていくときに押します。
• Page Up（ページアップ）キー	数ページにわたる画面の、あるページを表示しているとき、前のページに戻りたいときに押します。
• Page Down（ページダウン）キー	数ページにわたる画面の、あるページを表示しているとき、次のページに行きたいときに押します。
Scroll Lock（スクロール・ロック）キー	使用するソフトウェアによって働きが異なります。詳しくは各ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。
Pause（ポーズ）キー	使用するソフトウェアによって働きが異なります。詳しくは各ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

文字を入力する

ここでは、文字の入力のしかたについて説明します。文字を入力するにはキーボードを使います。本機に付属している、「ワードパッド」という文章を作成するためのソフトウェアを使って、文字入力を練習してみましょう。

キーボード上の各キーの名前と働きについて詳しくは、「キーボードを使う」（24ページ）をご覧ください。

日本語入力を準備する

ここでは、ワードパッドを起動して、日本語を入力できるようにするまでの手順を説明します。

1 ワードパッドを起動する

まず、ワードパッドを起動します。

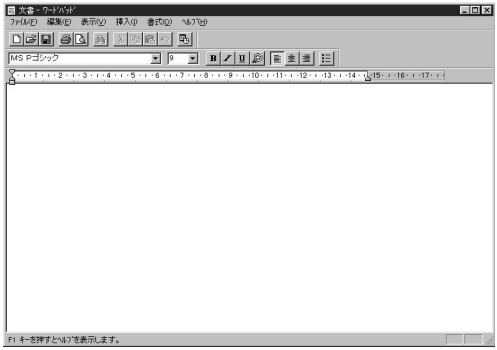
1 ［スタート］ボタンをクリックする。

スタートメニューが表示されます。

2 ［プログラム］をクリックして、ポインターを［アクセサリ］に合わせてから、［ワードパッド］をクリックする。

次のページにつづく

ワードパッドが起動し、文字を入力する画面が表示されます。



2 日本語入力を選ぶ

キーボード上の各キーにはアルファベットやひらがなが印刷されていますが、ただキーを押しても、漢字やカタカナは入力できません。
日本語を入力するためには、画面に表示されているMS-IME97のツールバーを使って、入力文字を切り換える必要があります。

MS-IME97**ツールバー**

1 MS-IME97**ツールバーのいちばん左側の［A］をクリックする。**
文字入力選択メニューが表示されます。

2 **［全角ひらがな］をクリックする。**
画面上に表示されているツールバーのいちばん左側の表示が［A］から［あ］に変わり、日本語を入力できるようになります。

［A］から［あ］に変わる。

ツールバーが表示されていないときは

タスクバーの右側にあるをクリックして、「ツールバーを表示」をクリックします。

ツールバーについて詳しくは、ツールバーにあるをクリックして、表示されるオンラインヘルプをご覧ください。

入力のしかたを選ぶ

日本語を入力する方法として、ローマ字入力方式とかな入力方式があります。お好みにあわせて、入力方法を選んでください。

なお、お買い上げ時は、ローマ字入力に設定されています。

❑ ローマ字入力

キーボード上のアルファベットを組み合わせて、ローマ字で日本語を入力する方法です。1文字を入力するために複数のキーを組み合わせるので、操作が多少めんどうですが、英文タイプライターに慣れているかたはこちらが便利です。

❑ かな入力

キーボード上の各キーに印刷されているひらがなを使って、日本語を入力する方法です。1文字につき1つのキーを押せばよいので操作は楽ですが、50音それぞれのキーの配置を覚える必要があります。

かな入力とローマ字入力を切り換える

Ctrlキーを押しながら、英数キーを押す。

ローマ字入力とかな入力とが切り換わります。

かな入力

KANAの文字が黒で表示されます。

Ctrlキーを押しながら英数キーを押す。

ローマ字入力

KANAの文字が灰色で表示されます。

文字を入力する

ここでは、具体的な文字の入力のしかたを説明します。
例として、「世界中にひろがったVAIOミニタワー」という言葉を入力してみます。

1 漢字を入力する

1 「世界中に」の読みを入力する。

- **ローマ字入力の場合**
  S、E、K、A、I、J、U、U、N、Iの順にキーを押します。
- **かな入力の場合**
  せ、か、い、し、゛（濁点）、ゅ（Shiftキーを押しながら「ゆ」を押します）、う、に、の順にキーを押します。

キーを押すごとに、カーソルが文字の入力位置に動きます。

2 スペースキーを押す。

入力した読みに当てはまる漢字が表示されます。
まちがった漢字が表示されたときは、正しい漢字が表示されるまで、何回かスペースキーを押します。

3 Enterキーを押す。

変換が確定します。

間違って入力したときは

次のキーを使って修正します。

Backspace**キー**：カーソルの直前の1字を消し、カーソルの位置が戻ります。

Delete**キー**：カーソルのある位置の1字を消します。

Esc**キー**：確定していない文字をすべて消去します。

2 ひらがなを入力する

1 「ひろがった」の読みを入力する。

- **ローマ字入力の場合**
  H、I、R、O、G、A、T、T、Aの順にキーを押します。
- **かな入力の場合**
  ひ、ろ、か、゛（濁点）、っ（Shiftキーを押しながら「つ」を押します）、た、の順にキーを押します。

キーを押すごとに、カーソルが文字の入力位置に動きます。

次のページにつづく

2 Enterキーを押す。

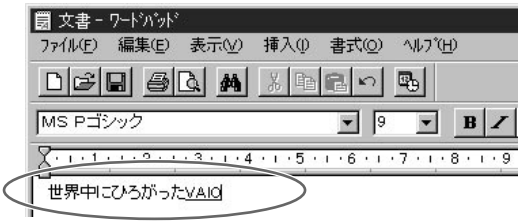
変換する必要がないので、スペースキーを押す必要はありません。

3 英字を入力する

1 MS-IME97のツールバーのいちばん左側の［あ］をクリックして、［半角英数］を選ぶ。

ツールバーのいちばん左側が「A」になり、アルファベットが入力できる状態になります。

2 Shiftキーを押しながら、V、A、I、Oの順にキーを押す。



アルファベットの小文字や数字を入力するときは、Shiftキーを押す必要はありません。

3 Enterキーを押す。

変換する必要がないので、スペースキーを押す必要はありません。

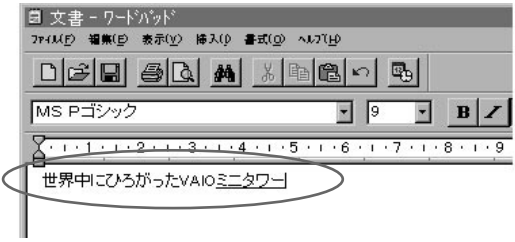
4 カタカナを入力する

1 MS-IME97のツールバーのいちばん左側の［A］をクリックして、［全角カタカナ］を選ぶ。

ツールバーのいちばん左側が「カ」になり、カタカナが入力できる状態になります。

次のページにつづく

2 「ミニタワー」の読みを入力する。



- **ローマ字入力の場合**

  M、I、N、I、T、A、W、A、–（ハイフン）の順にキーを押します。
- **かな入力の場合**

  み、に、た、わ、ー の順にキーを押します。

キーを押すごとに、カーソルが文字の入力位置に動きます。

3 Enterキーを押す。

変換する必要がないので、スペースキーを押す必要はありません。

これで「世界中にひろがったVAIOミニタワー」と入力できました。

キーボード上にない文字や記号の入力のしかたや、漢字に変換する文節の位置の調節のしかたなどについて詳しくは、ツールバーにあるをクリックして、表示されるオンラインヘルプをご覧ください。

CD-ROM／CD-Rを使う

CD-ROMは、コンピューターで扱うプログラムやデータを記録した、読み取り専用の記録メディアです。大容量のデータを保存することができますが、読み取り専用なので、自分で作った文書ファイルなどを保存することはできません。市販のプログラムやゲームなどで使われることが多いメディアです。

CD-Rは、CD-ROMと似ていますが、コンピューターで扱うプログラムやデータを一度だけ書き込むことができる記録メディアです。付属のCD-R FS（CD Recordable File System）ソフトウェアを利用することにより、ハードディスクと同じような感覚で扱えます。

ここでは、CD-ROM／CD-Rの使いかたと、CD-Rの書き込み時の留意点について説明します。

CD-Rのフォーマットについて

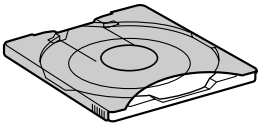
CD-R FSを利用して未使用のCD-Rを使うには、「フォーマット」という作業が必要です。

CD-Rのフォーマットの方法については、「CD-R FSを使う」（45ページ）をご覧ください。

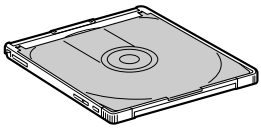
トレイアダプターとキャディについて

CD-ROMおよびCD-Rは、直接本機に入れず、付属のトレイアダプターまたはキャディに入れて使います。

トレイアダプター



キャディ



CD-ROM	トレイアダプターとキャディのどちらでも使えます。
CD-R	キャディをお使いください。

ご注意

キャディはディスクを保護するためのものです。トレイアダプターは構造上ほこりが付着しやすいため、CD-Rをお使いのときは必ずキャディをご使用ください。

トレイアダプターを使う

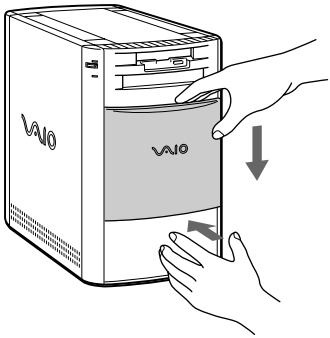
ここではトレイアダプターを使ってCD-ROMをCD-ROM／CD-Rドライブに入れる方法を説明します。

ご注意

CD-Rをお使いのときは必ずキャディをご使用ください。

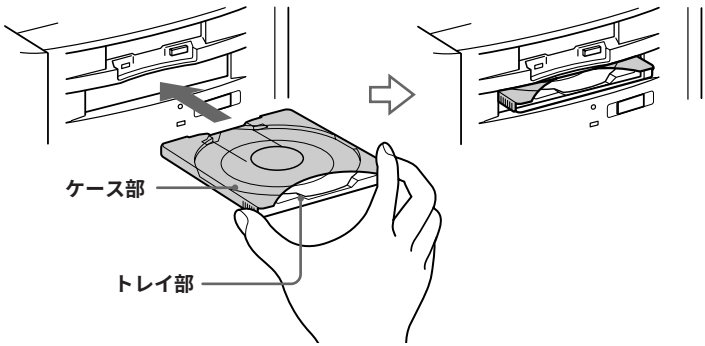
1 本機の電源が入っていることを確認する。

2 本機の下の前面パネルを押し込んでから、上の前面パネルを下にずらす。



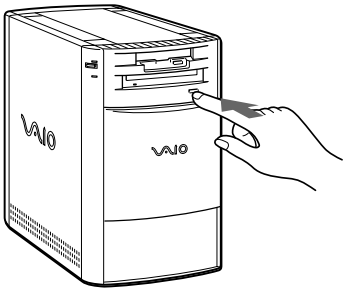
3 トレイアダプターをCD-ROM／CD-R**ドライブに入れて、カチッと音がするまでトレイ部を軽く押し込む。**

トレイアダプターがCD-ROM／CD-Rドライブにセットされます。この状態でトレイ部だけ引き出せます。

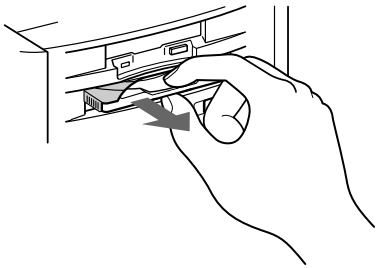


押し込みすぎてトレイアダプターがドライブ内に引き込まれてしまった場合は

CD-ROMイジェクトボタンを押すと、トレイ部が引き出されます。

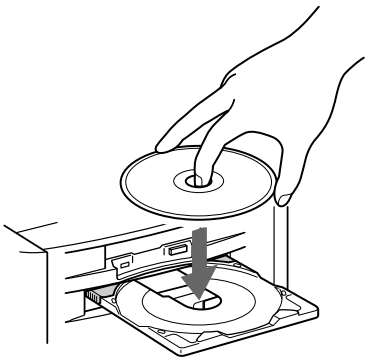


4 トレイアダプターの「DISC EJECT」と表示されてある部分をつまんでトレイ部を引き出す。



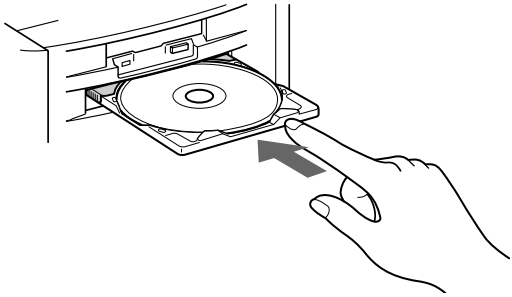
5 レーベル面（文字が書いてある面）を上にしてディスクをトレイ部の中央に置く。

ディスクの信号面（文字が印刷されていない面）には触れないようにご注意ください。



次のページにつづく

6 トレイ部の前面を軽く押し、さらにケース部ごとトレイアダプターを押し込む。



ディスクの内容が読み込まれます。データを読み始めると、CD-ROM／CD-Rドライブアクセスランプがオレンジ色に点灯します。

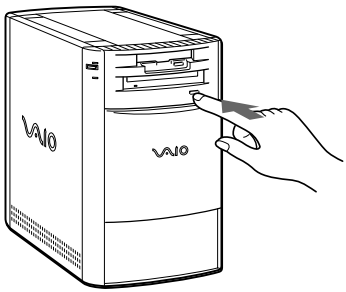
ご注意

- CD-ROM／CD-Rドライブをお使いのときは前面パネルを閉めないでください。
- ディスクを入れたまま、本機の電源を切らないでください。

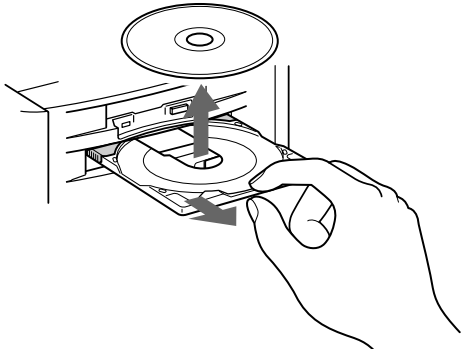
ディスクを取り出すには

1 CD-ROM／CD-Rドライブアクセスランプがオレンジ色に点灯していないことを確認してから、CD-ROMイジェクトボタンを押す。

トレイアダプターが自動的に引き出されます。



2 トレイ部を手でつまんで引き出し、ディスクを取り出す。



- 別のCD-ROMを再生したいときは、CD-ROMをトレイアダプターのトレイ部に置いて、トレイアダプターを押し込みます。
- トレイアダプターを取り出すには、「トレイアダプターを取り出すには」（40ページ）をご覧ください。

ご注意

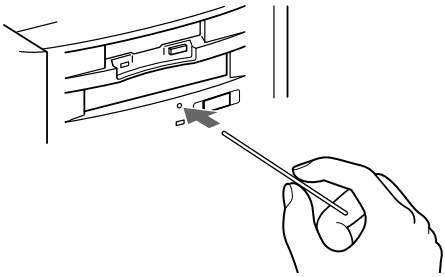
CD-ROMイジェクトボタンは、本機の電源が入っていないと動作しません。

ディスクが取り出せないときは

「ディスクを取り出すには」の操作を行ってもトレイアダプターが取り出せないときは、次の手順にしたがってください。

1 本機の電源を切る。

2 太い針金のようなもの（伸ばしたクリップでも代用可能）を、マニュアルイジェクト穴にまっすぐ押し込む。



ご注意

針金などを使ってディスクを取り出すときは、手や指にけがをしないように充分注意してください。

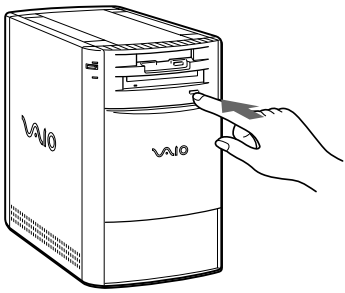
次のページにつづく

トレイアダプターを取り出すには

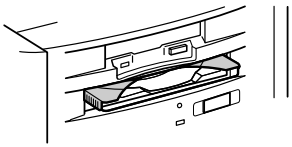
キャディをお使いになりたいなどの場合、あらかじめトレイアダプターを取り出しておく必要があります。

1 CD-ROM**イジェクトボタンを押す。**

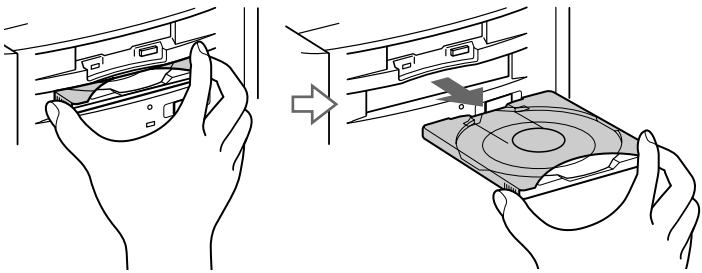
トレイアダプターが自動的に引き出されます。



2 **トレイ部を押し込んでケース部に収納し、トレイ部とケース部をそろえる。**



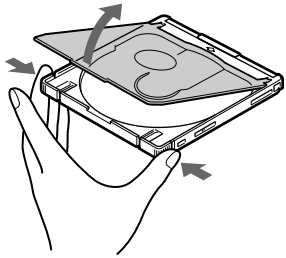
3 **トレイアダプターのケース部の「**CADDY EJECT**」と表示してある部分をつまんで、まっすぐ引き抜く。**



キャディを使う

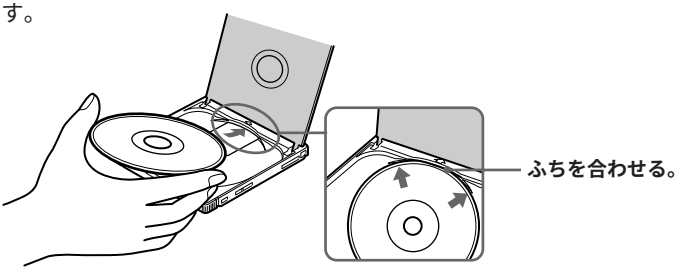
ここではキャディを使ってCD-ROMまたはCD-RをCD-ROM／CD-Rドライブに入れる方法を説明します。

1 キャディの両端のタブを押しながら、キャディのカバーを開ける。

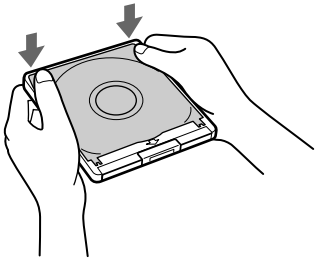


2 レーベル面を上にしてディスクをキャディに入れる。

CD-Rディスクを入れるときは、記録面には絶対に触れないようにしてください。記録面が汚れると、データの書き込みができなくなります。



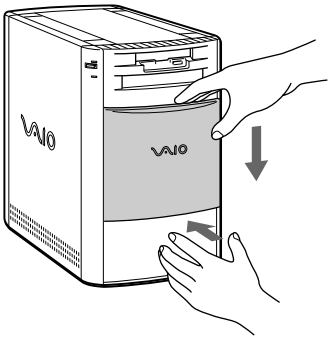
3 キャディのカバーを閉める。



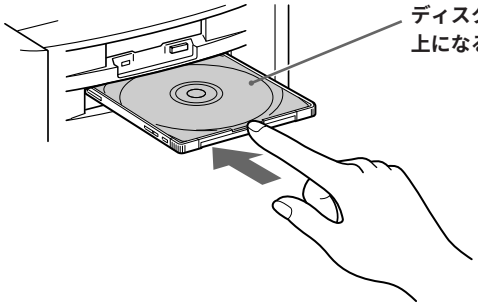
4 本機の電源が入っていることを確認する。

次のページにつづく

5 **本機の下の前面パネルを押し込んでから、上の前面パネルを下にずらす。**



6 **キャディをCD-ROM／CD-Rドライブに入れて、キャディがセットされるまで軽く押し込む。**



すでに書き込まれたCD-RまたはCD-ROMを入れたときは、データの内容が読み込まれます。データを読み始めると、CD-ROM／CD-Rドライブアクセスランプがオレンジ色に点灯します。

ご注意

- トレイアダプターがCD-ROM／CD-Rドライブに入っているとキャディをセットすることはできません。トレイアダプターの取り出しかたについては、「トレイアダプターを取り出すには」（40ページ）をご覧ください。
- CD-ROM／CD-Rドライブをお使いときは前面パネルを閉めないでください。
- ディスクを入れたまま、本機の電源を切らないでください。

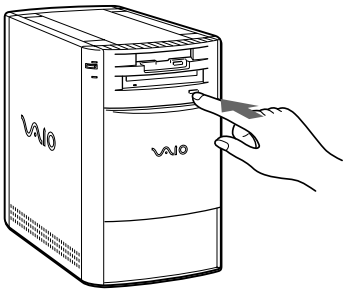
ディスクを取り出すには

ご注意

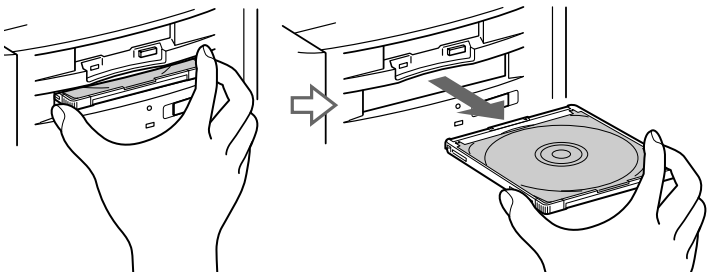
CD-RはCD-ROMイジェクトボタンでは取り出せません。CD-Rの取り出しかたについて詳しくは、「ディスクを取り出す」（49ページ）をご覧ください。

1 **CD-ROM／CD-Rドライブアクセスランプがオレンジ色に点灯していないことを確認してから、CD-ROMイジェクトボタンを押す。**

キャディが自動的に引き出されます。



2 **キャディをCD-ROM／CD-Rドライブから取り出す。**



3 **キャディのカバーを開けてディスクを取り出す。**

ご注意

CD-ROMイジェクトボタンは、本機の電源が入っていないと動作しません。

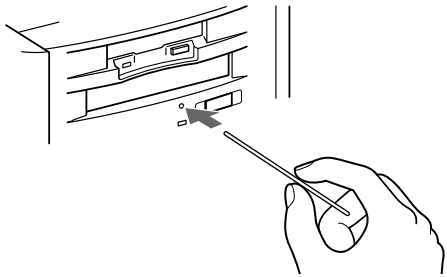
ディスクが取り出せないときは

「ディスクを取り出すには」の操作を行ってもキャディが取り出せないときは、次の手順にしたがってください。

次のページにつづく

1 **本機の電源を切る。**

2 **太い針金のようなもの（伸ばしたクリップでも代用可能）を、マニュアルイジェクト穴にまっすぐ押し込む。**



ご注意

針金などを使ってディスクを取り出すときは、手や指にけがをしないように充分注意してください。

使用できるディスク

本機のCD-ROM／CD-Rドライブで再生できるディスクは以下の通りです。

ディスクの種類	マーク
CD-ROM	COMPACT disc
音楽CD	COMPACT disc DIGITAL AUDIO
CD Extra	COMPACT disc+ DIGITAL AUDIO
ビデオCD	COMPACT disc DIGITAL VIDEO　VIDEO CD
CD-R	COMPACT disc Recordable　COMPACT disc DIGITAL AUDIO Recordable

CD-R FSを使う

本機には、CD-Rを使うためのCD-R FSソフトウェアがインストールされています。CD-R FSを利用すると、CD-Rをハードディスクを扱うような感覚で使うことができます。

ここではCD-R FSの使いかたのうち、以下について説明します。

- フォーマット
- ファイル操作
- ディスクの取り出し
- フリーズ

さらに詳しい操作内容については、CD-R FSのヘルプをご覧ください。

CD-Rをフォーマットする

未使用のCD-Rを使うにはあらかじめ「フォーマット」と呼ばれる作業が必要です。次の手順にしたがって操作します。

ご注意

CD-R FSを使うときは、未使用のCD-Rは、必ずフォーマットを行ってください。フォーマットを行わないと本機はそのCD-Rを認識することができないため、CD-Rを使うことができません。 ただし「Slipclip」ソフトウェアを使ってビデオCDを作成する場合はフォーマットを行なわないでください。

1 未使用のCD-Rをキャディに入れて、CD-ROM／CD-Rドライブに入れる。

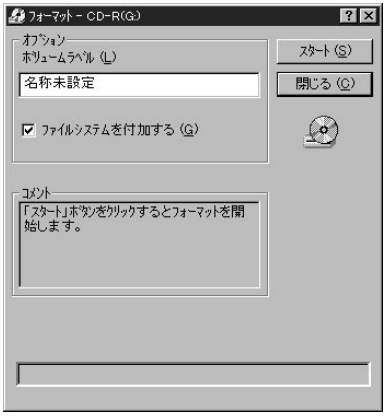
CD-ROM／CD-Rドライブへのキャディの入れかたについては、「キャディを使う」（41ページ）をご覧ください。

次の画面が表示されます。

次のページにつづく

2 **［はい］をクリックする。**

フォーマット画面が表示されます。



3 **以下、画面の指示に従って操作する。**

操作が分からなくなったら

ヘルプをご覧ください。ヘルプを見るには、［?］ボタンをクリックしてから、知りたい項目の上にポインターを合わせてもう一度クリックします。

ファイルを操作する

CD-Rのファイル操作のしかたは、Windows 95でフロッピーディスクやハードディスクを操作するのとまったく同じです。しかし、CD-Rでは常にデータを書き足して（追記）いるので、フロッピーディスクやハードディスクのデータの書き換え（上書き）や削除と異なり、書き換えや削除をしたデータが消えてしまうわけではありません。このため、CD-Rでは誤ってデータを削除してしまっても、ヒストリー機能を使ってデータを再現できます。

ご注意

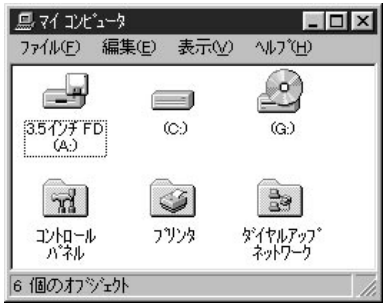
CD-Rでは常にデータを書き足すため、CD-Rの容量がいっぱいになると、それ以上書き込むことができなくなります。その際は、新しいCD-Rをご使用ください。

ヒストリー機能とは

ヒストリー機能とは、「書き込んだ」という事実を履歴（ヒストリー）としてディスク上に残しておく機能です。ヒストリー機能はCD-R上につけた「タグ」と呼ばれるマークを手がかりにしています。タグを追加するなど、ヒストリー機能を使うには、以下の手順にしたがって操作します。

1 **［マイコンピュータ］をダブルクリックする。**

「マイコンピュータ」ウィンドウが表示されます。



2 **Gドライブのアイコンを右ボタンでクリックする。**

ショートカットメニューが表示されます。

次のページにつづく

3 ［ヒストリー］をクリックする。

ヒストリー画面が表示されます。

CD-R上にタグがないときは、次の画面が表示されますので、［OK］をクリックするとヒストリー画面が表示されます。

4 以下、画面の指示に従って操作する。

操作が分からなくなったら

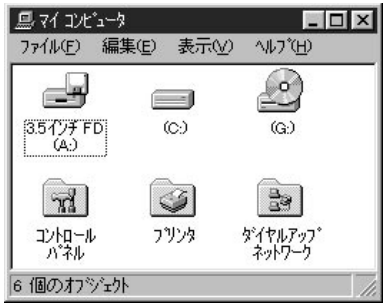
ヘルプをご覧ください。ヘルプを見るには、［?］ボタンをクリックしてから、知りたい項目の上にポインターを合わせてもう一度クリックします。

ディスクを取り出す

CD-RはCD-ROMイジェクトボタンでは取り出せません。CD-RをCD-ROM／CD-Rドライブから取り出すには、以下の手順にしたがって操作します。

1 **［マイコンピュータ］をダブルクリックする。**

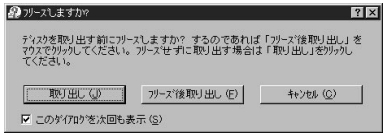
「マイコンピュータ」ウィンドウが表示されます。



2 **Gドライブのアイコンを右ボタンでクリックする。**

3 **［取り出し］をクリックする。**

以下の画面が表示されます。



4 **［取り出し］をクリックする。**

キャディが引き出されます。

書き込んだCD-Rを別のパソコンで読み込む（フリーズ）

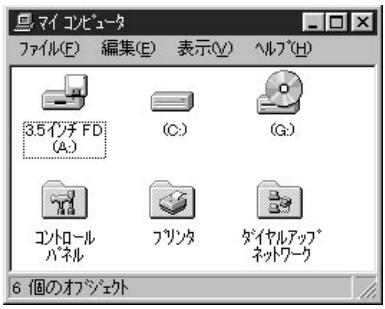
本機で書き込み操作を行ったCD-Rを別のパソコンのCD-ROMドライブで読み込むには、あらかじめ「フリーズ」という操作を本機側で行う必要があります。フリーズを行うには、CD-Rディスク上に13.5Mバイトの空き容量が必要となります。

別のパソコンのCD-ROMドライブでは、フリーズを行う直前までのディスクの状態を読み込むことができます。フリーズ後に行ったファイルの追加、削除などの編集の結果をCD-ROMドライブで読むにはさらにフリーズを行う必要があります。

フリーズを行うには、以下の手順にしたがって操作してください。

1 **［マイコンピュータ］をダブルクリックする。**

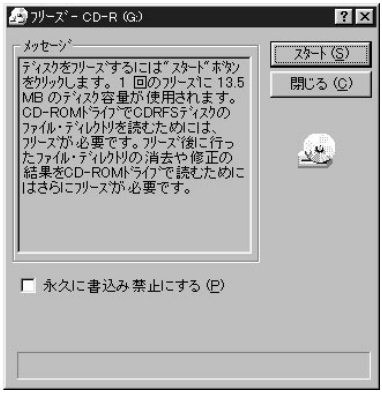
「マイコンピュータ」ウィンドウが表示されます。



2 **Gドライブのアイコンを右ボタンでクリックする。**

3 **［フリーズ後取り出し］をクリックする。**

以下の画面が表示されます。



4 **［スタート］をクリックする。**

フリーズを行った後、以下の画面が表示されます。

5 **［OK］をクリックする。**

キャディが引き出されます。

操作が分からなくなったら

ヘルプをご覧ください。ヘルプを見るには、［?］ボタンをクリックしてから、知りたい項目の上にポインターを合わせてもう一度クリックします。

書き込み操作を行ったCD-Rを別のパソコンで使うには

CD-Rの読み取りを行うパソコン側にもCD-R FSがインストールされている必要があります。インストールされていない場合は、フォーマットしたCD-RをCD-ROMドライブに入れるとCD-R FS（読み取り専用版、Windows 95用）のセットアッププログラムが自動的に起動し、インストールが行われます。画面の指示に従って操作してください。

ご注意

- CD-ROMドライブやパソコンによっては、CD-R FSに対応していないものがあります。
- 「CD-Rをフォーマットする」の手順2（46ページ）で「ファイルシステムを付加する」チェックボックスをチェックしていない場合は、CD-RをCD-ROMドライブに入れてもセットアッププログラムは起動しません。

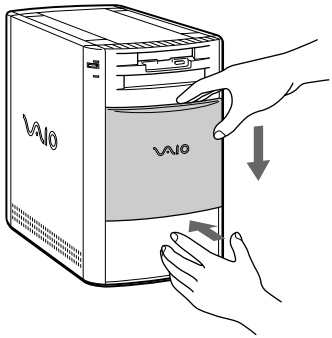
フロッピーディスクを使う

フロッピーディスクは、薄くて軽く、手軽に取り扱うことのできる記録メディアです。自分で作った文書ファイルなどのデータを保存することができます。
ここでは、フロッピーディスクの取り扱いについて説明します。

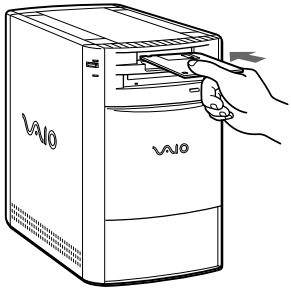
フロッピーディスクを入れる

次の手順にしたがってフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに入れます。

1 本機の下の前面パネルを押し込んでから、上の前面パネルを下にずらす。



2 フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに入れる。



フロッピーディスクが完全にセットされるまで静かに押し込む。

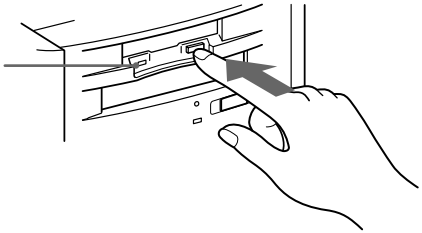
本機で使うフロッピーディスクは、あらかじめ初期化しておく必要があります。初期化とは何かについては、「初期化について」(54ページ) をご覧ください。市販されているフロッピーディスクをお使いになるときは、「DOS／V 1.44MBフォーマット済」のものをご購入ください。初期化する必要がなくなります。その他、本機で使えるフロッピーディスクについて詳しくは、「使用できるフロッピーディスク」(55ページ) をご覧ください。

フロッピーディスクを取り出すには

フロッピーディスクドライブアクセスランプが点灯していないことを確認してから、フロッピーディスクイジェクトボタンを押します。

ご注意

フロッピーディスクドライブアクセスランプが点灯しているときにフロッピーディスクイジェクトボタンを押すと、ディスクの破損の原因となります。



データを書き込み禁止にする

大切なデータを誤って消してしまうことのないように、フロッピーディスクには書き込み禁止のタブがついています。このタブを上下に動かして、フロッピーディスクを書き込み可能に、あるいは書き込み禁止にできます。

❑ 書き込み可能

データの書き込みが可能な状態です。次のような場合には書き込み可能な状態にしておきます。

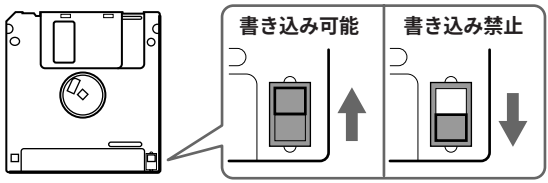
- 初期化するとき
- 別のディスクの内容をコピーするとき
- ソフトウェアのデータディスクとして使うとき

❑ 書き込み禁止

穴が見える位置にタブをスライドさせると、書き込み禁止の状態になります。データの読み出しはできますが、書き込みはできません。次のような場合に書き込み禁止にしておきます。

- 内容を読み出すことはあっても、書き込みは行わないとき

フロッピーディスク裏面



初期化について

フロッピーディスクを使うには、「初期化」という作業が必要です。初期化とは、ちょうど真っ白なノートに罫線を引き、罫ごとに番号をふって、何ページのどこにどんなことを書き込んだか分かりやすくする作業に似ています。国によっていろいろな言語があるように、コンピューターの種類によって初期化の形式もさまざまです。お使いのコンピューターにあった初期化の形式でなければなりません。本機で初期化する方法については、Windows 95のファーストステップガイドをご覧ください。
最近ではすでに初期化されたフロッピーディスクも市販されているので、これをお買い求めになれば、すぐに使うことができます。

ご注意

すでにデータが書き込まれているフロッピーディスクを初期化した場合は、そのデータは消去されます。

使用できるフロッピーディスク

3.5型フロッピーディスクには、2HD（両面高密度）タイプと2DD（両面倍密度倍トラック）タイプのものがあり、フォーマットによって2HD 1.44Mバイト、2DD 720Kバイト、2HD 1.2Mバイトの3種類に分けることができます。
本機はこれらのフロッピーディスクに対応しています。

種類	本機でできること
2HD 1.44Mバイト	フォーマット、読み書きともに可。
2DD 720Kバイト	フォーマット、読み書きともに可。
2HD 1.2Mバイト	読み書きともに可。 FORMAT、SYS、DRVSPACE（ドライブスペース）、DISKCOPYコマンドは実行不可。

ご注意

- データを保存するときは、2HD 1.44Mバイトまたは2DD 720Kバイトタイプのフロッピーディスクをご使用ください。
- 他のパソコンとデータのやりとりをする場合は、下記のフロッピーディスクをご使用ください。

データをやりとりしたいパソコンのフロッピーディスクドライブの種類	使用するフロッピーディスク
1.44Mバイトのフロッピーディスクドライブ	2HD 1.44Mバイトまたは2DD 720Kバイト
1.2Mバイトのフロッピーディスクドライブ	2HD 1.2Mバイトまたは2DD 720Kバイト

- 2HD 1.2Mバイトタイプのフロッピーディスクのデータを利用するときは、いったん2HD 1.44Mバイトタイプのフロッピーディスクへコピーしてから利用することをおすすめします。
- 市販のアプリケーションソフトはフロッピーディスクの種類に関係なく作られていますが、一部のソフトウエアには2HD 1.44Mバイトおよび2DD 720Kバイト専用に作られているものがあります。これらのソフトウエアから2HD 1.2Mバイトのフロッピーディスクに読み書きを行ったときは、一部の機能が正しく動作しない場合があります。

VAIOを使いこなす

インターネットを楽しむ

ここでは、インターネットとは何か、どうやってインターネットに接続するかについて説明しています。

インターネットとは

世界中のコンピュータがつながった、地球規模のネットワークのことです。インターネットにつながったパソコンを使うことで世界中の情報を入手したり、世界に向けて自分の情報を発信したりすることができます。電子メールを利用すれば、ほとんど同時に国内だけではなく、世界中の友人・知人に連絡を取ることもできます。

世界中の情報を入手する

自宅やオフィスに居ながら、世界中の情報を入手できます。情報の種類もさまざまで、学術情報や企業の情報など仕事に使えるものから、趣味や遊びに関するものまで幅広く入手することができます。

世界に向けて情報を発信する

インターネットを経由して、お使いのパソコンから、文字や音声、画像などさまざまな情報を発信できます。

電子メールを利用する

電子メールとはインターネット上の手紙のようなもので、国内外を問わず瞬時に複数の相手に送ることができます。

インターネットを始めるには

世界中の情報に接することのできるインターネットですが、インターネットを始めるにはインターネットサービスプロバイダー（以下、「プロバイダー」と略します）と呼ばれる接続業者と契約し、電話回線を通じて接続する必要があります。

インターネットを始めるために必要なものは以下の通りです。

電話回線

電話回線には一般電話回線とISDN回線の2種類があります。本機では一般電話回線を使用します。

モデム

パソコンの情報を電話回線を通じてやり取りするために必要です。本機には内蔵されています。

次のページにつづく

プロバイダー

インターネットにつなぐために、プロバイダーと契約する必要があります。 プロバイダーはインターネットと本機との間を仲介する役割を持っています。 プロバイダーと契約すると、WWW（ワールドワイドウェブ）を使って、いろいろな情報を記述したホームページを簡単に見ることができます。また、「電子メールアドレス」という、あなたの住所のようなものが契約時に用意されます。電子メールアドレスは、電子メールを送受信するときの宛先になります。これらのサービスの他に、契約するプロバイダーによっていろいろなサービスがあります。

プロバイダーと契約すると、サービスに応じた接続料金がかかります。また、インターネットを楽しんでいる間、プロバイダーまでの電話料金がかかります。

現在では、数多くのプロバイダーがありますので、料金やサービスの内容をご検討のうえで、ご自分にあったプロバイダーと契約するようおすすめします。料金やサービスの内容について詳しくは、それぞれのプロバイダーにお問い合わせください。 また、契約時にクレジットカードが必要になるプロバイダーもあります。

ソフトウェア

プロバイダーと契約することで、インターネットに接続することはできますが、実際に情報を受け取ったり、発信したりするためには専用のソフトウェアが必要になります。本機には、WWWを使ってホームページを見るためのソフトウェア（ウェブブラウザー）として、「Internet Explorer」と「Netscape Communicator」が付属しています。

インターネットを始める

インターネットを始めるには以下の流れに沿って行います。

準備1　電話回線につなぐ

本機に内蔵しているモデムを電話回線につなぎます。
詳しくは「電話回線につなぐ」(77ページ) をご覧ください。

準備2　インターネットサービスプロバイダーと契約する

- 本機にはソニーコミュニケーションネットワーク（株）の運営する、So-netのスターターキットが付属しています。このスターターキットを利用すると、契約とその後の設定をより簡単に行えます。詳しくは付属の「会員募集のご案内」をご覧ください。
- パソコン通信の運営会社にもインターネットのサービスを提供しているところがあります。詳しくは、本機に付属の各社のパンフレットをご覧ください。
- ご自分にあったプロバイダーがない場合は、他のプロバイダーを探します。画面上の［The Microsoft Network］アイコンをダブルクリックして、表示されるメッセージに従って操作してください。

準備3　接続のための設定をする

プロバイダーと契約したあとの設定内容は、プロバイダーの指示に従ってください。

準備4　ソフトウェアを起動する

使用するサービスに応じてソフトウェアを起動します。本機では、WWWでホームページを見るためのソフトウェアとして、「Internet Explorer」と「Netscape Communicator」の2種類が付属しています。

パソコン通信を楽しむ

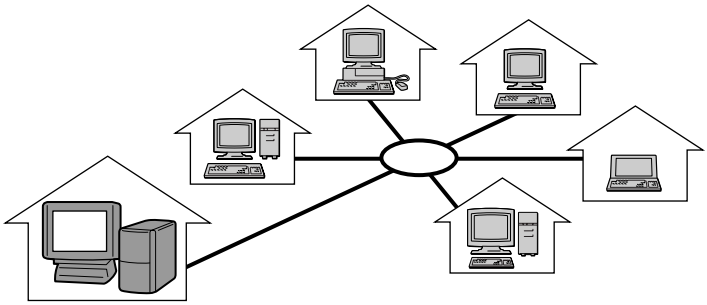
パソコン通信を楽しむためには、パソコン通信の運営会社と契約する必要があります。
会員が多い、自分の興味・関心のある分野に詳しい人が多く参加している、どうしても利用したいサービスがある、などといった基準で運営会社を選ぶと、よりパソコン通信を楽しめます。

「パソコン通信」とは？

パソコン通信には多くの人が参加しており、運営主体である大手の運営会社が多数設立されています。
パソコン通信の良いところは、自分の興味のある分野の電子会議室を利用することで、同じような関心を持っている人と、ネットワーク上で交流を深めることができる点です。このような会議室は、さまざまな分野で開設されています。また、ネットワーク上の商店を利用したオンラインショッピングも楽しめます。
「地球規模のインターネット」に対して、「生活に密着した地域中心」を方針としている小規模なパソコン通信のネットワークもあります。また、現在ではパソコン通信を通してインターネットにつなぐこともできるようになりました。

パソコン通信を利用して、以下のようなことができます。

- フォーラムなどの電子会議室に参加する
- 有料データベース、オンラインショッピングを使う
- 電子メールをやり取りする



パソコン通信の運営会社について

現在では数多くのパソコン通信の運営会社がありますので、料金やサービスの内容をご検討のうえで、ご自分にあった運営会社と契約するようおすすめします。料金やサービスの内容について詳しくは、それぞれの運営会社にお問い合わせください。また、契約時にクレジットカードが必要になる運営会社もあります。

準備1 電話回線につなぐ

本機に内蔵しているモデムを電話回線につなぎます。
詳しくは「電話回線につなぐ」(77ページ) をご覧ください。

準備2 パソコン通信の運営会社と契約する

本機には、パソコン通信運営会社のパソコン通信のスターターキットが付属しています。このスターターキットを利用すると、契約とそのあとの設定をより簡単に行えます。

準備3 パソコン通信用ソフトウェアを起動する

利用するパソコン通信に応じたソフトウェアを起動します。パソコン通信用ソフトウェアの種類については別冊の「付属ソフトウェア一覧」をご覧ください。

電話／ファックスを使う

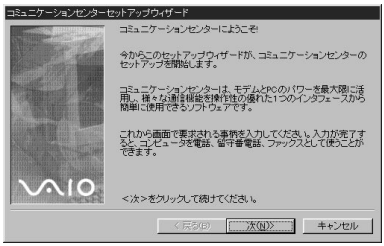
本機に電話回線をつなぐと、普通の電話と同じように電話をかけ、相手と話せます。また、本機に内蔵しているモデムはファックスにも対応していますので、電話回線をつないでファックスを送受信することもできます。
電話をかけたりファックスを送ったりするためには、付属の「Communication Center」ソフトウェアを使用します。
電話回線へのつなぎかたについては、「電話回線につなぐ」（77ページ）をご覧ください。
ここでは、①電話をかける、②電話を受ける、③留守番電話として使う、④ファックスを送信する、⑤ファックスを受信する、という基本的な使いかたのみ説明します。
機能の詳細な説明や制限事項などについては、「Communication Center」ソフトウェアに付属しているヘルプをご覧ください。

電話／ファックスを準備する

本機で電話／ファックスを使うためには、本機を電話回線につないでから、Communication Centerソフトウェアを起動する必要があります。

1 **本機を電話回線に接続する。**
電話回線へのつなぎかたについて詳しくは、「電話回線につなぐ」（77ページ）をご覧ください。

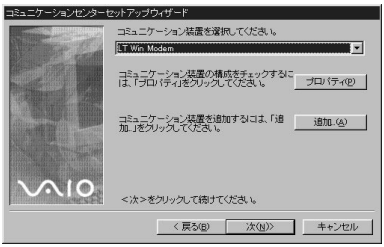
2 **［スタート］ボタンをクリックして、ポインターを［プログラム］、［Communication Center］の順に合わせ、［Communication Centerの起動］をクリックする。**
「Communication Center」ソフトウェアが起動し、「セットアップウィザード」が表示されます。



3 **［次>］をクリックする。**

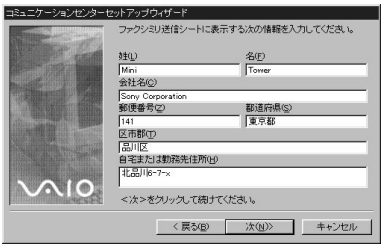
画面の指示にしたがって必要な情報を入力し、［次>］をクリックします。

前の画面を見るには、［<戻る］をクリックします。



4 **ファクシミリ送信シートに表示する情報を入力する。**

姓名、会社名、郵便番号などを入力します。姓名以外の情報は必要がなければ空欄のままでもかまいません。



5 **電話の種類を選ぶ。**

お使いの電話回線の種類を選びます。

お使いの電話回線がプッシュホン回線のときは［トーンダイヤル］を、ダイヤル回線のときは［パルスダイヤル］をクリックして選びます。

次のページにつづく

6 電話番号を入力する。

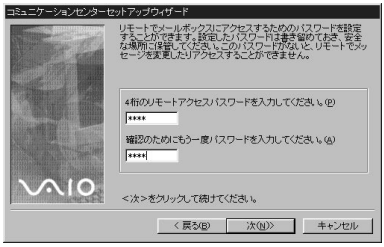
自宅電話番号を入力します。勤務先電話番号、ファックス番号は必要がなければ空欄のままでもかまいません。

7 電子メールアドレスを入力する。

インターネットの電子メールアドレスを入力します。電子メールを使わない場合は空欄のままでもかまいません。

8 パスワードを設定する。

リモートでメールボックスにアクセスするための英数字4桁のパスワードを入力します。必要がなければ空欄のままでもかまいません。

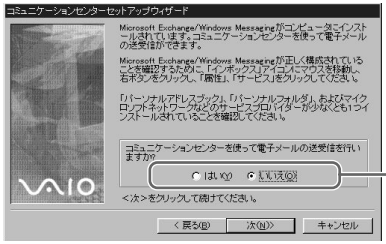


9 応答の設定をする。

応答メッセージや、自動応答するまでの呼び出し回数などを設定します。

10 電子メール送受信の設定をする。

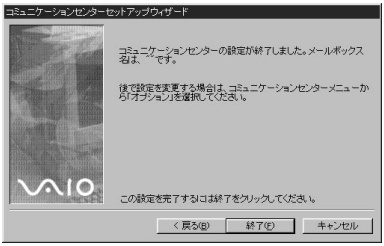
コミュニケーションセンターを使って電子メールの送受信を行うかどうかを設定します。



コミュニケーションセンターを使うときは［はい］を、使わないときは［いいえ］をクリックして選びます。

11 ［終了］をクリックする。

画面の指示に従ってすべて入力したら、［終了］をクリックします。



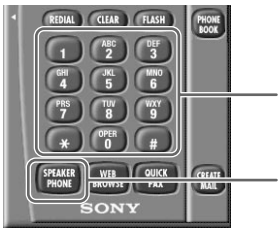
これで電話をかけたりファックスを送受信できるようになりました。

電話をかける

62ページの「電話／ファックスを準備する」が終わったら、電話をかけてみましょう。

1 画面上の電話番号ボタンをクリックして、相手先の電話番号を入力する。

電話番号はキーボードでも入力できます。

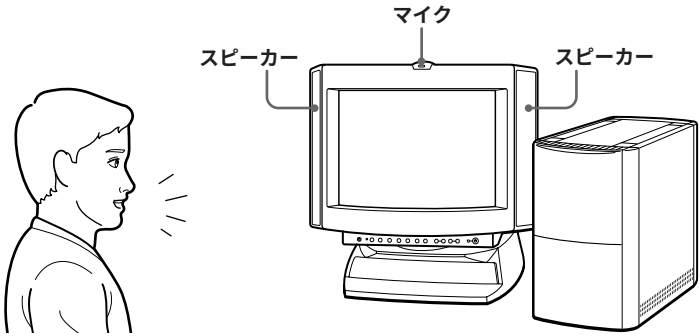


電話番号を入力すると、左下の「SPEAKER PHONE」ボタンが「DIAL」ボタンに変わります。

2 [DIAL] をクリックする。

手順1で指定した電話番号に自動的にダイヤルします。
ダイヤルを始めると、左下の「DIAL」ボタンが「HANGUP」ボタンに変わります。

3 相手が電話に出たら、ディスプレイに内蔵のマイクまたはつないだマイクに向かって話す。



本機専用のディスプレイをつないだときは、相手の音声はディスプレイの内蔵スピーカーから聞こえます。アクティブスピーカーをつないだときは、そのスピーカーから相手の音声が聞こえます。受話器を取る必要がないので、キーボードを操作していて手がふさがっているときでも話せます。

電話を切るには

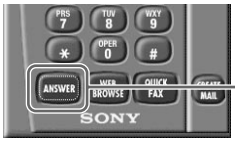
画面左下の［HANGUP］をクリックします。

電話を受ける

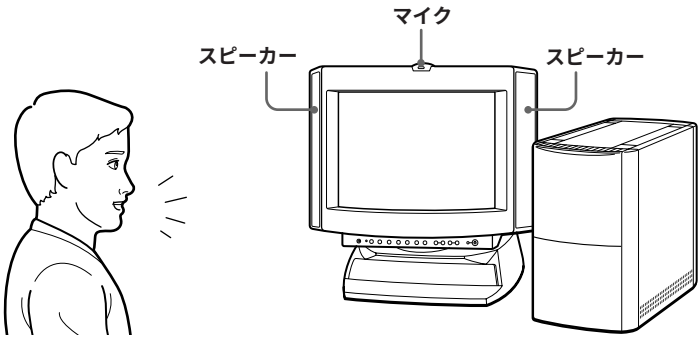
本機で電話を受けることもできます。

1 画面左下の［ANSWER］をクリックする。

電話がかかってくると、画面左下の「SPEAKER PHONE」ボタンが「ANSWER」ボタンに変わります。



2 ディスプレイに内蔵のマイクまたはつないだマイクに向かって話す。



本機専用のディスプレイをつないだときは、相手の音声はディスプレイの内蔵スピーカーから聞こえます。アクティブスピーカーをつないだときは、そのスピーカーから相手の音声が聞こえます。受話器を取る必要がないので、キーボードを操作していて手がふさがっているときでも話せます。

次のページにつづく

留守番電話として使う

本機は留守番電話として使用できるようにあらかじめ設定されています。電話がかかってくると、すでに設定されているメッセージまたはご自分で録音したメッセージで自動応答します。
ファックスのみに応答することなどもできます。
詳しくは、「Communication Center」のヘルプをご覧ください。

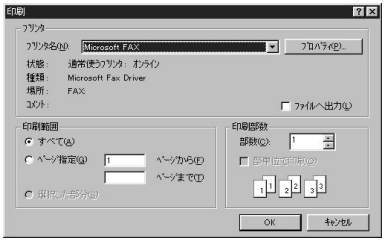
ファックスを送信する

本機でファックスを送信できます。本機で作成した文書を、そのままファックスとして送れるため、印刷する手間と紙を節約できます。
ここでは、ソフトウェアで作成した文書を直接ファックスで送る手順を説明します。
「電話／ファックスを準備する」（62ページ）の操作を行ってから、以下の手順に従って操作してください。

1 ソフトウェアを使って、ファックスで送りたい文書を作成する。

2 文書を作成したソフトウェアで、［印刷］（または［プリント］など文書を印刷するためのコマンド）を実行する。
「印刷」を実行するための画面が表示されます。

ワードパッドでの例



3 ［使用するプリンタ］をクリックして、［Communication Center Fax］を選ぶ。

［ファックス送信］が表示されます。

4 **相手先の電話番号を入力する。**

5 **［ファックス送信］をクリックする。**

ファックス送信が始まります。

送信をやめるときは、［キャンセル］をクリックします。

名前や電話番号などをファックスに記載して送信するには

送信シート情報に名前や電話番号をあらかじめ入力しておくと、ファックスを送信するときに自動的に入力した情報がファックスに記載されます。送信シート情報について詳しくは「Communication Center」のヘルプをご覧ください。

ファックスを受信する

ファックスを受信するときは、送られてきたファックスを画像データとして直接受け取るため、あとでファックスを見ながら必要な内容をパソコンに入力する手間が省けます。

本機は電話がかかってくると、自動的にファックスを受信します。

通話中でもファックスを受信できます。詳しくは、「Communication Center」のヘルプをご覧ください。

ご注意

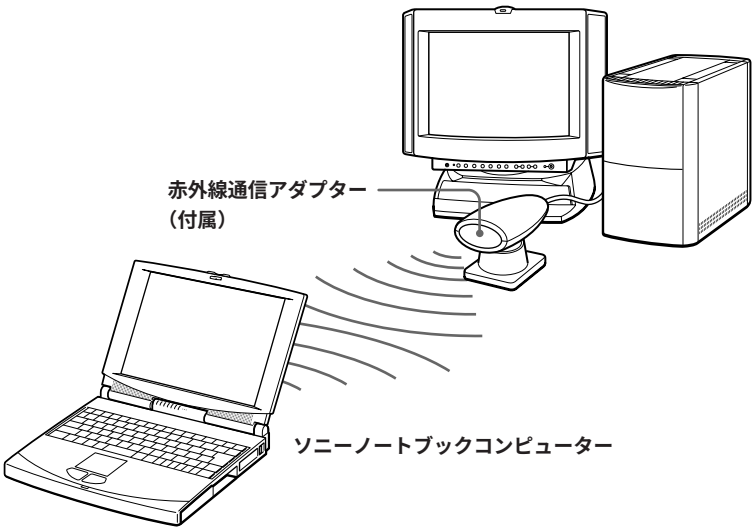
受け取ったファックスは画像データとして取り扱われます。そのため、ファックス中の文字をそのまま文字テキストとして利用することはできません。

赤外線（IrDA）でデータを交換する

本機に付属の赤外線通信アダプターを使って、IrDA対応の赤外線ポートの付いた他の機器とデータをやりとりできます。ケーブルをつながずにデータの送受信ができるため、ケーブルをつなぐ手間が省けます。
パソコンだけでなく、赤外線ポートを持っている機器であればデータをやりとりできます。例えば、ソニー製のデジタルスチルカメラDSC-F1／F2／F3などにもIrDA対応の赤外線ポートがついています。デジタルスチルカメラで撮影した画像データを本機に送信し、本機に付属の「PictureGear Lite」ソフトウェアを使って管理するという使いかたもできます。

赤外線通信アダプターの接続のしかたについて詳しくは、「赤外線通信アダプターをつなぐ」（80ページ）をご覧ください。

ノートパソコンとデータをやりとりするときは、下図のように配置してください。ソニー製ノートブックコンピューターを例に配置方法を示します。

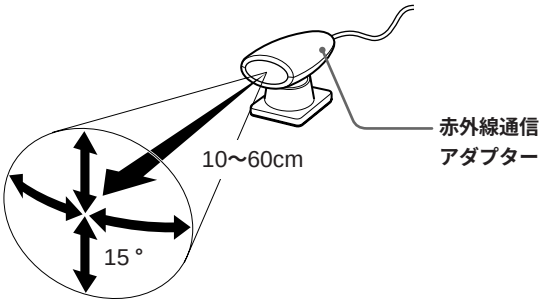


実際にデータをやりとりするには、付属の「TranXit」ソフトウェアを使います。操作方法について詳しくは、「TranXit」の取扱説明書をご覧ください。

ご注意

データを正しく送受信するために、赤外線でデータをやりとりするときは、以下の点にご注意ください。

- 通信を行う機器を近づけ過ぎない。
- 赤外線ポートは真正面で向き合うように配置する。（データ通信が可能な範囲は、距離が約10〜60cmで、中心からの角度が左右15度以内です。）



- 赤外線ポート間に物を置かない。
- 強い直射日光の当たる場所や、インバーター蛍光灯の下では赤外線通信を避ける。

赤外線ポートのない機器でも、別売りの赤外線通信アダプターを取り付けると、本機と赤外線でデータをやりとりできるようになるものもあります。
詳しくは、お持ちの機器を購入した販売店にご相談ください。

DV機器から静止画を取り込む

DV（DV規格のデジタルビデオ）機器で録画した映像から、お好みの場面を静止画として本機に取り込めます。また、本機で作成した画像や、いちどDV機器から取り込んだ静止画を編集した画像を、DV機器に録画できます。DV機器から静止画を取り込むには、付属の「DV静止画キャプチャー」ソフトウェアを使います。DV機器から静止画を取り込むには以下の流れに沿って行います。

DV機器を本機に接続する

DV機器の接続について詳しくは、「DV機器をつなぐ」（85ページ）をご覧ください。

「DV静止画キャプチャー」ソフトウェアを起動する

起動後は、「DV静止画キャプチャー」を使って静止画を取り込みます。
「DV静止画キャプチャー」の使いかたについて詳しくは、「DV静止画キャプチャー」の取扱説明書をご覧ください。

ビデオ編集をする（PCV-T710MRのみ）

自分で録画した映像をPCV-T710MRに読み込んで編集することができます。また、テレビ番組を本機のハードディスクに録画することもできます。ビデオ編集するには、PCV-T710MRに付属の「Slipclip」ソフトウェアを使います。ビデオ編集するには以下の流れに沿って行います。

自分で録画した映像を編集するとき

ビデオデッキ、ビデオカメラレコーダーを本機に接続する

ビデオデッキやビデオカメラレコーダーの接続について詳しくは、「ビデオ機器をつなぐ」（86ページ）をご覧ください。

「Slipclip」ソフトウェアを起動する

起動後は、「Slipclip」を使って編集します。「Slipclip」の使いかたについて詳しくは、「Slipclip」の取扱説明書をご覧ください。

テレビ番組をハードディスクに録画するとき

本機にアンテナをつなぐ

アンテナのつなぎかたについて詳しくは、「アンテナをつなぐ」（83ページ）をご覧ください。

「Slipclip」ソフトウェアを起動する

起動後は、「Slipclip」を使って操作します。「Slipclip」の使いかたについて詳しくは、「Slipclip」の取扱説明書をご覧ください。

音楽CD／ビデオCDを再生する

音楽CDやビデオCDを再生して楽しむことができます。音楽CDを再生して音楽を聞きながら、他のソフトウェアを操作することもできます。（一部ソフトウェアを除きます。）

再生するには付属の「Media Bar」ソフトウェアを使います。Media Barを使うとMIDIファイルなどの音声・動画ファイルを再生することもできます。「Media Bar」を使うには以下の流れに沿って行います。

画面上の［AV再生のセットアップ］をダブルクリックする

Media Barを設定するための画面が表示されます。

↓

画面の指示に従って操作する

↓

本機を再起動する

再起動すると、画面上部に「Media Bar」操作画面が表示されます。「Media Bar」の使いかたについては、「Media Bar」の取扱説明書をご覧ください。

テレビを見る（PCV-T710MRのみ）

PCV-T710MRにつないだディスプレイでテレビを見ることができます。テレビ番組を楽しみながら、他のソフトウェア（一部ソフトウェアは除く）の操作をすることもできます。

テレビを見るにはPCV-T710MRに付属の「Media Bar TV」ソフトウェアを使います。

テレビを見るには、以下の流れに沿って行います。

本機にアンテナをつなぐ

アンテナのつなぎかたについて詳しくは、「アンテナをつなぐ」（83ページ）をご覧ください。

「Media Bar TV」ソフトウェアを起動する

［スタート］メニューから［プログラム］にポインターを合わせ、［Media Bar］フォルダーから［Media Bar TV］をクリックします。

チューナーの設定をする

チューナーの設定について詳しくは、「Media Bar TV」のヘルプをご覧ください。

番組を選ぶ

操作について詳しくは、「Media Bar TV」のヘルプをご覧ください。

いろいろなソフトウェアを使う

本機は、さまざまな用途に応じたソフトウェアを付属しています。これまで説明してきた使いかたの他にも、幅広く本機を活用していただけます。ここでは、付属のソフトウェアの中から一部をご紹介します。

❑ 画像データを管理する

「PictureGear Lite」ソフトウェアを使います。

デジタルスチルカメラなどから読み込んだいろいろな種類の画像データをまとめて管理できます。

使いかたについて詳しくは、「PictureGear Lite」の取扱説明書をご覧ください。

❑ 仮想世界を散歩する

「Community Place Browser」ソフトウェアを使います。

インターネット上に点在する仮想世界を、現実の世界のように散歩します。また、「さぱり」などのマルチユーザー対応の仮想世界ではチャット（会話）も楽しめます。使いかたについて詳しくは、「Community Place Browser」の取扱説明書をご覧ください。

❑ 地図を見る

「Navin' You Lite」ソフトウェアを使います。

ハードディスクにプリインストールされている東京23区版の地図のほかに、ナビ研規格に準拠している地図ディスクを見たり、地図上の情報を検索することができます。

使いかたについて詳しくは、「Navin' You Lite」の取扱説明書をご覧ください。

このほかにも、以下のような使いかたができます。

- 画像を加工する
- インターネットのホームページを見る
- 辞書を使う
- カラオケで歌う

別冊の「付属ソフトウェア一覧」には、本機に付属のソフトウェアをまとめてご紹介しています。そちらもあわせてご覧ください。

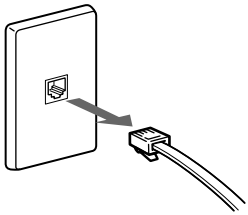
周辺機器を接続する

電話回線につなぐ

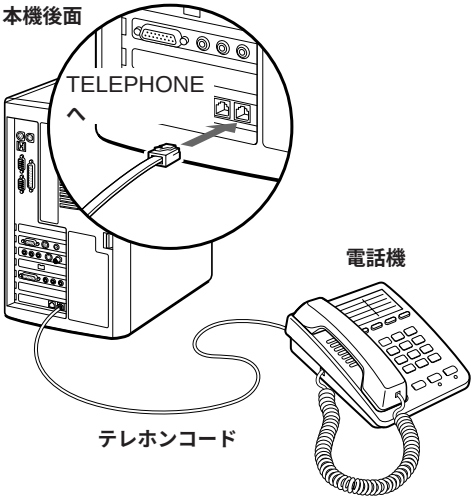
本機には、モデムが内蔵されています。付属のテレホンコードを使って本機と電話回線をつなぐと、パソコン通信やインターネットなどのデータ通信をしたり、ファックスを送受信できるようになります。

本機の後面パネルにはモジュラージャックが2つあります。

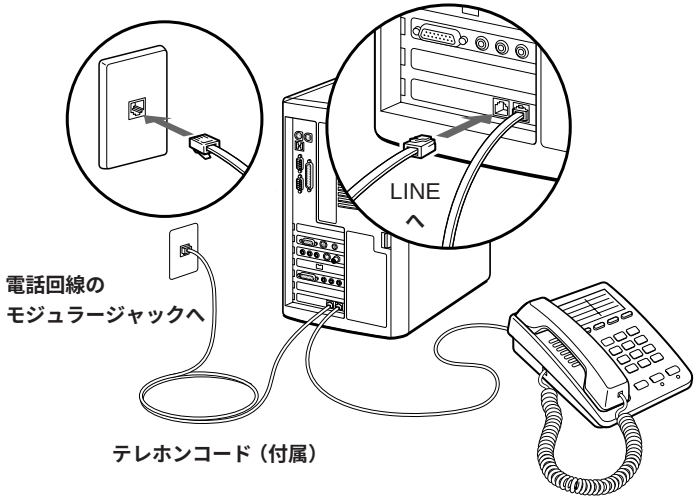
1 お使いの電話機のテレホンコードを電話回線のモジュラージャックから外す。



2 手順1で外したテレホンコードを本機のTELEPHONEジャックにカチッと音がするまで差し込む。



3 付属のテレホンコードの一方を本機のLINEジャックへ、もう一方を電話回線のモジュラージャックへ差し込む。

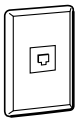
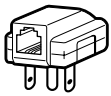
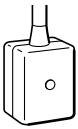
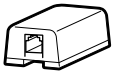
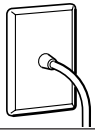


ご注意

- 使用可能な回線は、一般電話回線です。
- 接続後に、使用する電話、ファックス、通信などのソフトウェアで使用状況に合わせて設定しなければならない場合があります。詳しくは各ソフトウェアのヘルプをご覧ください。

電話回線のコンセントの種類

電話回線のコンセントは以下の4種類があります。設置場所のコンセントに合った方法で接続してください。

コンセントの型	接続に必要なソニーの別売りアクセサリー
モジュラー型 	不要（そのままつなぐことができます）
3ピンジャック型 	テレホンモジュラーアダプターTL-30 
直付け型ローゼット[1)] 	モジュラーローゼットTL-32CRなど 
埋め込み型[2)] 	テレホンモジュラージャックコンセントTL-31

[1)] 直付けタイプからモジュラージャックへの交換工事が必要です。NTT（局番なしの116番）へご依頼ください。

[2)] 電話工事担任者による取り付け工事が必要です。NTT（局番なしの116番）へご依頼ください。

ご注意

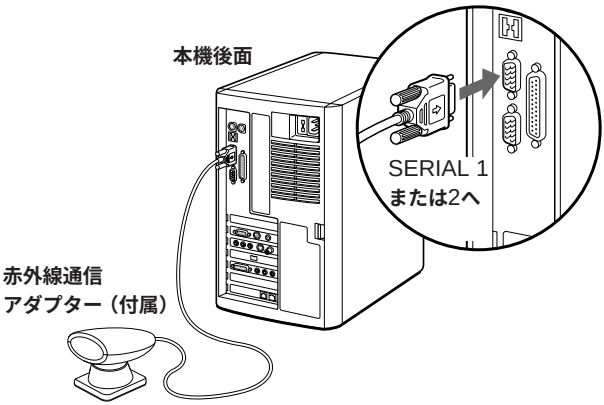
ビジネスホン、ホームテレホンなどの電話機やドアホン付きの電話機をお使いのときは、工事が必要となるものがあります。電話機を取り付けた業者にご相談ください。

赤外線通信アダプターをつなぐ

本機に付属の赤外線通信アダプターを使うと、赤外線データ通信を行うことができます。

ご注意

- すべての機器の電源を切ってから接続してください。
- 接続後は、周辺機器の電源を入れてから本機の電源を入れてください。



赤外線通信アダプターを使うには

本機にはSERIAL端子が2つあり、工場出荷時の設定でSERIAL 1端子が使えるようになっています。SERIAL 2端子につなぐときは、次ページの手順に従って本機側の設定をする必要があります。（SERIAL 1端子につなぐときは設定をする必要はありません。）

1 **［スタート］メニューから［設定］にポインターを合わせ、［コントロールパネル］をクリックする。**

「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

2 **［赤外線モニター］をダブルクリックする。**

「オプション」タブをクリックして、「次のポートで赤外線通信を使用可能にする」から「COM2」を選び、［OK］をクリックしてください。

ご注意

「TranXit」ソフトウェアを使う場合には、別途ソフトウェアの設定を行う必要があります。詳しくは「TranXit」ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

AV機器をつなぐ

本機にはいろいろなAV機器をつなぐことができます。ここでは機種別、用途別に接続例を紹介します。

PCV-T710MR**のみ**

こんなことがしたい	詳しくは
• ディスプレイでテレビ番組を見たい • テレビ番組を本機のハードディスクに録画したい	本機とアンテナ端子をつなぎます。アンテナ端子に直接本機をつなぐ場合と、すでにAV機器がアンテナ端子につながっている場合とで接続のしかたが異なります。接続のしかたについては「アンテナをつなぐ」(83ページ) をご覧ください。
• ビデオデッキの再生画像を本機につないだディスプレイで見たい • 本機に再生映像を読み込んで編集したい	本機とビデオデッキをつなぎます。接続のしかたについては「ビデオ機器をつなぐ」(86ページ) をご覧ください。
• ビデオカメラレコーダーで撮影した映像を本機につないだディスプレイで見たい • 本機に映像を読み込んで編集したい	本機とビデオカメラレコーダーを接続します。接続のしかたについては「ビデオ機器をつなぐ」(86ページ) をご覧ください。

PCV-T710MR、PCV-T510R**共通**

こんなことがしたい	詳しくは
デジタルビデオカメラレコーダーなどのDV機器から本機に静止画を取り込みたい	本機とデジタルビデオカメラレコーダーなどのDV機器をつなぎます。接続のしかたについては「DV機器をつなぐ」(85ページ) をご覧ください。
デジタルスチルカメラで撮影した画像を本機に読み込みたい	本機とデジタルスチルカメラをつなぎます。接続のしかたについては「デジタルスチルカメラを使う」(88ページ) をご覧ください。
ディスプレイに映る映像をテレビで見たい	本機とテレビを接続します。接続のしかたについては「テレビにつなぐ」(89ページ) をご覧ください。

アンテナをつなぐ（PCV-T710MRのみ）

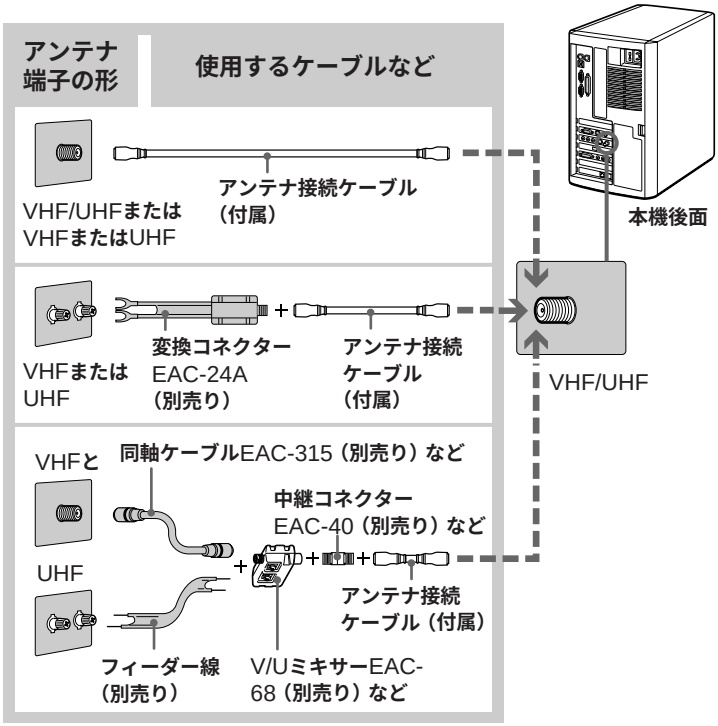
PCV-T710MRにはTVチューナーが内蔵されているので、アンテナを本機につないで、ディスプレイでテレビ番組を見ることができます。アンテナ接続ケーブル（付属）を使って本機につなぎます。
本機を直接壁のアンテナ端子につなぐ場合と、すでに他のAV機器がアンテナ端子につながっている場合とでは接続のしかたが異なります。

ご注意

- 本機およびディスプレイの電源を切ってから接続してください。
- 接続後は、周辺機器の電源を入れてから本機の電源を入れてください。

本機を直接壁のアンテナ端子につなぐ場合

アンテナのつなぎかたは、部屋のアンテナ端子の形や使用するケーブルによって異なります。下の例から最も近いものを選び、接続してください。
なお、いずれにも当てはまらない場合は、販売店にご相談ください。

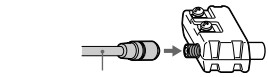


ご注意

フィーダー線は同軸ケーブルにくらべ雑音電波などの影響を受けやすく、信号が劣化します。できるだけ同軸ケーブルをご使用ください。
フィーダー線をご使用になる場合は本機からできるだけ離してください。

V/Uミキサーをつなぐには

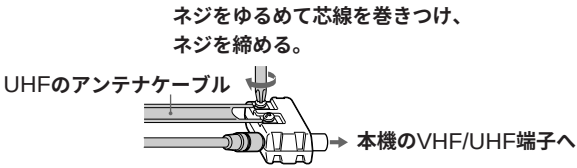
1 VHFのアンテナケーブルをV/Uミキサーにつなぐ。



VHFのアンテナケーブル

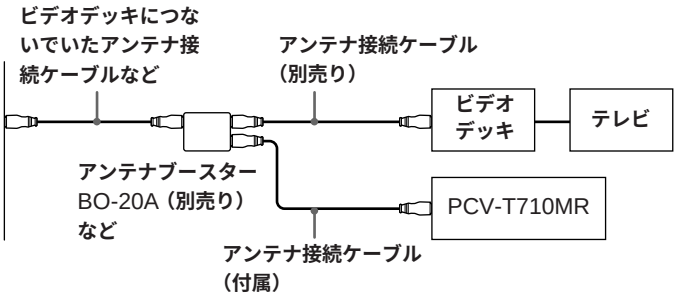
V/Uミキサー EAC-68など

2 UHFのアンテナケーブルをV/Uミキサーにつなぐ。



すでにAV機器が壁のアンテナ端子につながっている場合

アンテナブースター（別売り）を使って接続します。アンテナ端子とアンテナブースターのつなぎかたは、部屋のアンテナ端子の形や使用しているケーブルにより異なります。83ページの例から最も近いものを選び接続してください。



テレビを見たり、録画するには

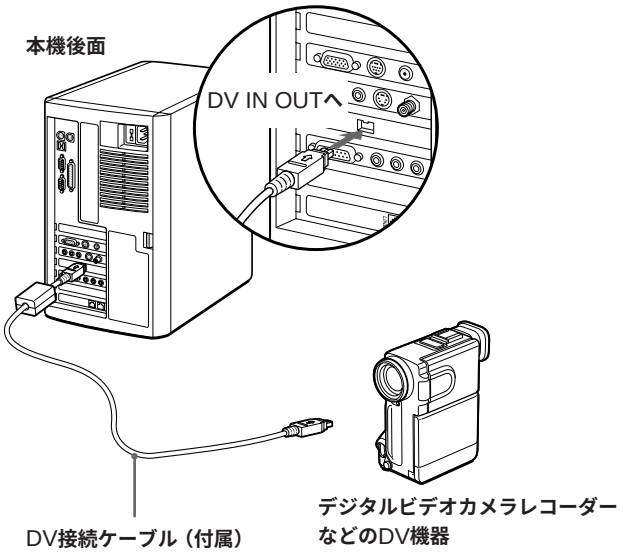
「テレビを見る」（75ページ）をご覧ください。また、付属の「Slipclip」ソフトウェアを使ってテレビ番組を録画することができます。テレビ番組の画像を「Slipclip」ソフトウェアで扱う方法については、「Slipclip」ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

DV機器をつなぐ

デジタルビデオカメラレコーダーなどのDV機器を本機につないで、静止画を取り込んだり、本機から静止画を送出してテープに録画できます。
DV接続ケーブル（付属）を使って、本機とDV機器をつなぎます。
DV機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

ご注意

- 本機とDV機器の電源を切ってから接続してください。
- DV接続ケーブルはノイズ防止用コアが根元に取り付けてある方のコネクターを本機に接続してください。
- 接続後は、周辺機器の電源を入れてから本機の電源を入れてください。



ビデオ機器をつなぐ（PCV-T710MRのみ）

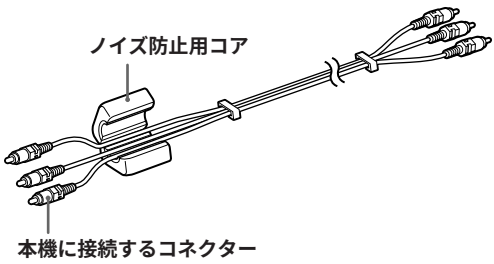
ビデオデッキやビデオカメラレコーダーをPCV-T710MRにつないで、ディスプレイでビデオデッキの再生画像を見たり、再生画像を読み込んで編集することができます。

映像／音声接続ケーブル（別売り）を使って、本機とビデオデッキまたはビデオカメラレコーダーをつなぎます。ビデオデッキまたはビデオカメラレコーダーにS映像出力端子がある場合は、本機のS映像入力端子とつなぐことにより、よりきれいな映像を本機に読み込めます。PCV-T710MRには前面および後面パネルにそれぞれ映像／音声入力端子とS映像入力端子があり、どちらの入力端子を使うこともできます。

ビデオデッキまたはビデオカメラレコーダーの取扱説明書もあわせてご覧ください。

ご注意

- 本機とビデオデッキまたはビデオカメラレコーダーの電源を切ってから接続してください。
- 映像／音声接続ケーブルは付属のノイズ防止用コアを本機側に接続するコネクターの根元の近いところに取り付けてからご使用ください。

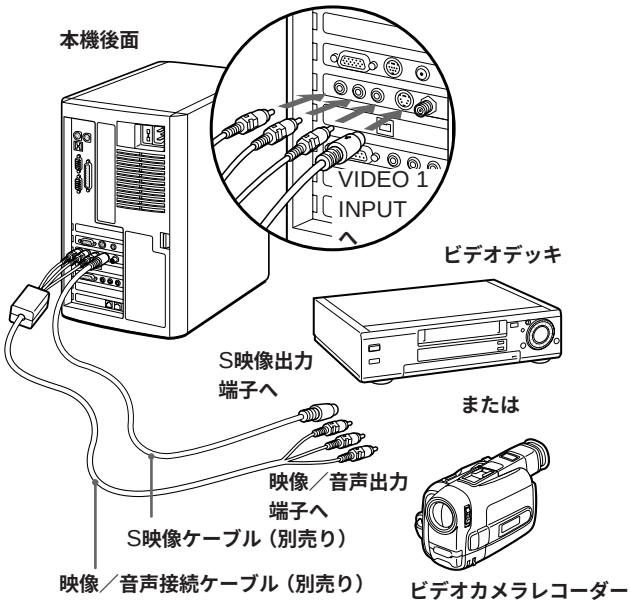


- 接続後は、周辺機器の電源を入れてから本機の電源を入れてください。
- S映像入力端子を使うときは、映像入力端子にケーブルをつなぐ必要はありません。

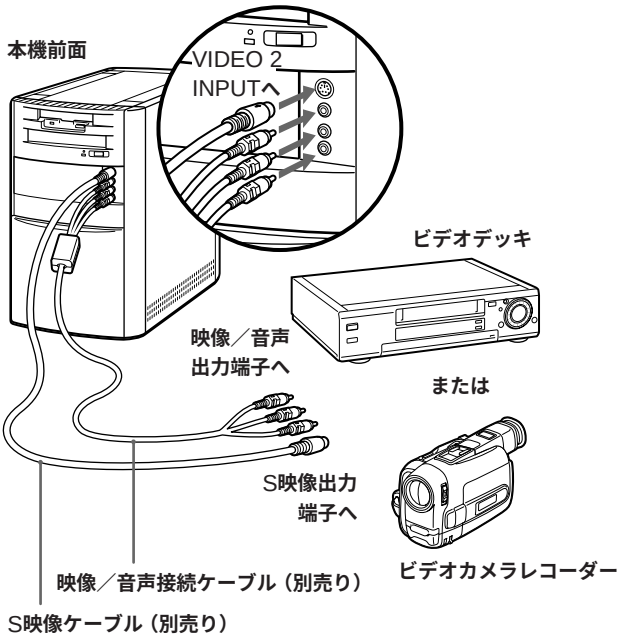
ビデオデッキの映像を見たり編集するには

付属の「Slipclip」ソフトウェアを使います。ビデオデッキの映像を「Slipclip」ソフトウェアで扱う方法については、「Slipclip」ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

後面パネルの端子を使うとき



前面パネルの端子を使うとき



デジタルスチルカメラを使う

デジタルスチルカメラで撮影した画像を本機に取り込めます。ここではソニーデジタルスチルカメラDSC-F1／F2／F3などと、他の機種をお使いのときの一般的なご注意を説明します。

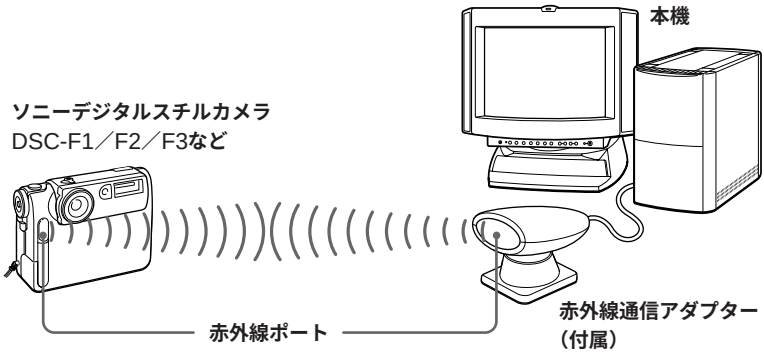
ご注意

接続のしかたや画像の読み込みかたは、デジタルスチルカメラによって異なります。詳しくはデジタルスチルカメラの取扱説明書をご覧ください。

ソニーデジタルスチルカメラDSC-F1／F2／F3などを使う

設置する

DSC-F1／F2／F3などには赤外線通信機能があるので、ケーブル接続は必要ありません。本機に付属の赤外線通信アダプターとDSC-F1／F2／F3などの赤外線ポートを真正面で向き合うように配置します。



赤外線通信アダプターの接続のしかたについては、「赤外線通信アダプターをつなぐ」（80ページ）をご覧ください。

画像を取り込む

付属の「PictureGear Lite」ソフトウェアを使って、画像を取り込みます。

操作方法について詳しくは、「PictureGear Lite」ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

他のデジタルスチルカメラをつなぐ

DSC-F1／F2／F3など以外のデジタルスチルカメラから撮影した画像を取り込むには、デジタルスチルカメラと本機のSERIAL 1または2端子をケーブルでつなぐなどの方法があります。接続するケーブルや画面を取り込むためのソフトウェアは、お使いのデジタルスチルカメラ専用品をお使いください。

テレビにつなぐ

ディスプレイの代わりにテレビをつないでパソコンの画像を表示することができます。

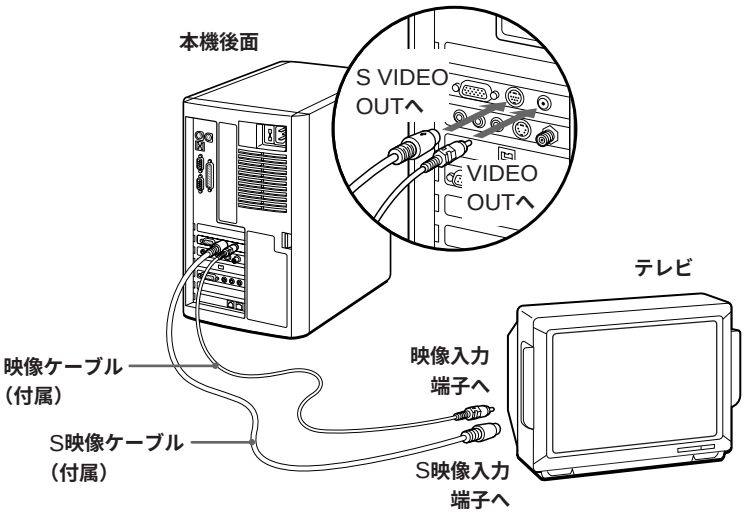
映像ケーブル（付属）を使って、本機とテレビをつなぎます。接続してから、テレビの入力切り換えを「ビデオ」に合わせます。

本機側で画面の解像度を640 × 480ドットまたは800 × 600ドットに変更し、テレビ出力を有効にします。解像度の変更、テレビ出力の設定について詳しくは、「ディスプレイの設定を変更する」の中の「ディスプレイの詳細」（146ページ）をご覧ください。

ご注意

- テレビの映像表示能力はディスプレイに比べて解像度や色再現能力が低く、ディスプレイと同じ画質は得られません。
- すべての機器の電源を切ってから接続してください。
- 接続後は、周辺機器の電源を入れてから本機の電源を入れてください。
- 本機にテレビをつないだときは、テレビ側から音声は出ません。音声は本機に接続したスピーカーから出ます。
- 本機にテレビをつないだときに、ディスプレイの画面表示の位置やサイズがずれることがあります。
- 本機が省電力モードに入っているときは、テレビには何も映りません。省電力モードについて詳しくは、「ディスプレイの設定を変更する」の中の「スクリーンセーバー」（141ページ）または「Powerメニュー（電源管理に関する設定）」の中の「Power Management（省電力機能）」（131ページ）をご覧ください。

次のページにつづく

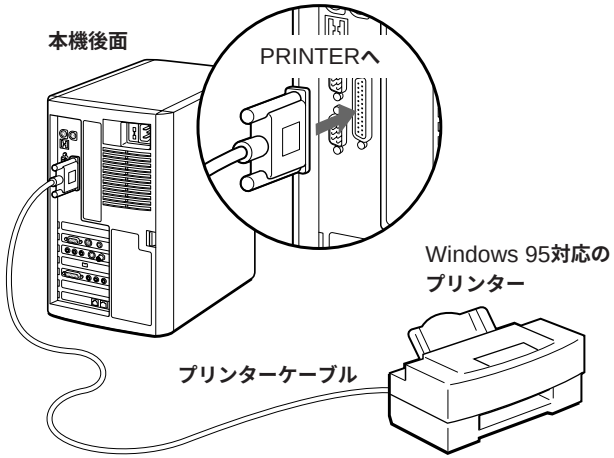

本機後面
S VIDEO
OUTへ
VIDEO
OUTへ
テレビ
映像ケーブル
（付属）
映像入力
端子へ
S映像ケーブル
（付属）
S映像入力
端子へ

プリンターをつなぐ

Windows 95に対応しているプリンターを本機につないで、作成した書類などを印刷できます。
プリンターケーブルを使って本機につなぎます。

ご注意

- すべての機器の電源を切ってから接続してください。
- 接続後は、周辺機器の電源を入れてから本機の電源を入れてください。
- Windows 95に対応していないプリンターを本機につないでも、正常に動作しません。



プリンターを使用するには

プリンターを使用するには、次の準備が必要です。

- プリンターに付属のドライバーを本機にインストールする。
  詳しくはプリンターおよびWindows 95の取扱説明書をご覧ください。

ドライバーとは

プリンターなど、パソコンの周辺機器の動作を制御するためのソフトウェアのことです。ここでは、プリンターのドライバーを本機にインストールすることにより、本機からプリンターの動作をコントロールできるようになります。

ジョイスティック／MIDI機器をつなぐ

ジョイスティックをつないでゲームをよりリアルに楽しんだり、MIDI（Musical Instrument Digital Interface）に対応した電子楽器をつないで音楽を楽しめます。

ご注意

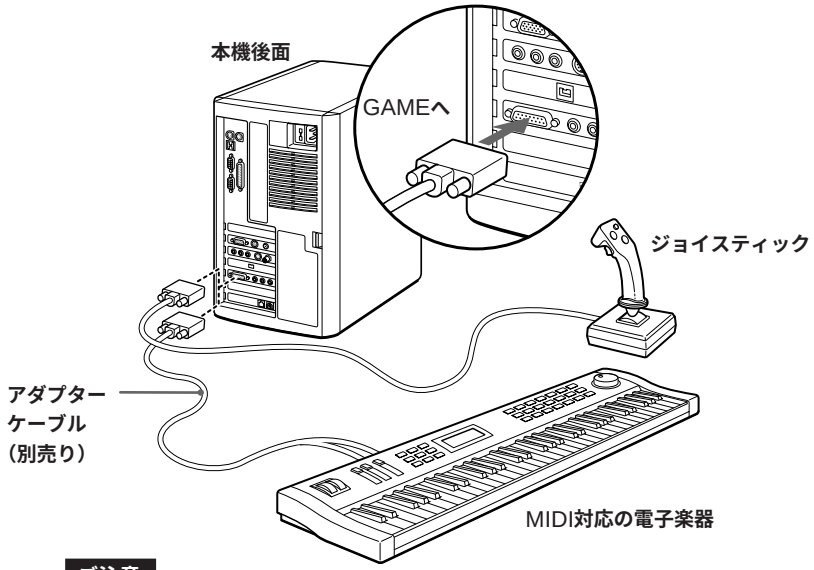
- すべての機器の電源を切ってから接続してください。
- 接続後は、周辺機器の電源を入れてから本機の電源を入れてください。

ジョイスティックとは

ゲームなどでよく使われる操作用の機器です。方向をコントロールする柄の部分と、操作をコントロールするボタンから成っています。
ジョイスティックを使うと、ゲームをよりリアルに楽しむことができます。ジョイスティックをつなぐときは、ジョイスティックの取扱説明書もあわせてご覧ください。

MIDI機器とは

MIDIとは、電子楽器間で情報をやりとりするために決められた通信規格のことです。MIDIに対応した電子機器をつなぐことで、本機からMIDI機器をコントロールして、自動演奏を楽しむことができます。MIDI機器をつなぐときは、電子楽器の取扱説明書もあわせてご覧ください。



ご注意

MIDIに対応していない電子楽器はつなげません。

リファレンス編

第2章

ここでは、本機に拡張ボード、メモリーやデバイスを増設する方法や、本機のハードウェアとしての設定状態を変更する方法を説明しています。ここからの情報は、本機をさらにパワーアップしてお使いになるときに必要になるもので、通常お使いになる場合には特に操作する必要はありません。本機の操作やパソコンについて習熟されている方がお読みください。

本体を拡張する

拡張ボードを増設する

本機では拡張ボードと呼ばれる別売り品を装着することで、さまざまな機能を拡張し、よりご自分にあった作業環境を構築することができます。

拡張ボードの種類

本機では「PCI」または「ISA」という規格に対応した拡張ボードを取り付けることができます。拡張ボードをお買い求めの際は、Windows 95に対応しているかどうかの他、PCIまたはISA規格に対応していることをご確認ください。

PCV-T710MRでは空きスロット（拡張ボードを増設できる場所）が1か所あり、PCI拡張ボードかISA拡張ボードのどちらかを1枚取りつけることができます。

PCV-T510Rでは空きスロットが2ヶ所あり、下のどちらかの組み合わせで合計2枚の拡張ボードを取り付けることができます。

- PCI拡張ボード2枚
- PCI拡張ボード1枚、ISA拡張ボード1枚

プラグアンドプレイについて

Windows 95では、より簡単に拡張ボードの増設ができるように、「プラグアンドプレイ」という方式を採用しています。プラグアンドプレイに対応した拡張ボードを使うと、ボードを取り付けた後の設定は自動的に行われるので、ご自分でめんどうな設定をする必要がありません。

リソースについて

拡張ボードは一般的にそれぞれ専用の割り込み番号（IRQ）、メモリー、DMA、I／Oポートなどの「リソース」（資源）を使用します。パソコン本体が使用しているリソースと同じものを割り当てることはできないので、ボードと本機のリソースの設定を考慮の上、リソースの割り当てを決めなければなりません。

なお、プラグアンドプレイに対応した拡張ボードは本機が使用しているリソースを避けるように自動的にリソースが設定されます。本機で使用しているリソースを変えるには、「Advancedメニュー（システム構成の詳細の設定）」の「Resource Configuration（リソースの設定）」（121ページ）をご覧ください。

現在使用中のリソースを確認するには、以下の手順に従います。

1 **［マイコンピュータ］を右クリックする。**
ショートカットメニューが表示されます。

2 **［プロパティ］をクリックする。**
「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

3 **［デバイスマネージャ］タブをクリックする。**
「デバイスマネージャ」ウィンドウが表示されます。

4 **［コンピュータ］をダブルクリックする。**
「コンピュータのプロパティ」ウィンドウに現在使用中のリソースが表示されます。

拡張ボード取り付けの流れ

以下の流れに沿って、拡張ボードを増設します。

本機の電源を切る

電源の切りかたについて詳しくは「電源を切るには」（19ページ）をご覧ください。

拡張ボードを取り付ける

拡張ボードの取り付けかたについて詳しくは、「拡張ボードを取り付ける」（97ページ）をご覧ください。

本機の電源を入れる

電源の入れかたについて詳しくは「電源を入れる」（18ページ）をご覧ください。

ドライバーの設定、インストールを行う

プラグアンドプレイ対応の拡張ボードの場合にはメッセージが表示されるので、拡張ボードの取扱説明書なども参照の上、指示に従って操作してください。
プラグアンドプレイに対応していない拡張ボードの場合には、拡張ボードの取扱説明書をご覧ください。

ドライバーとは

どのような周辺機器がどのように接続されているかをパソコン側に知らせ、周辺機器を正しく動かすために必要なソフトウェアです。拡張ボードを増設したときには、ドライバーも設定し直す必要があります。

拡張ボードを取り付ける

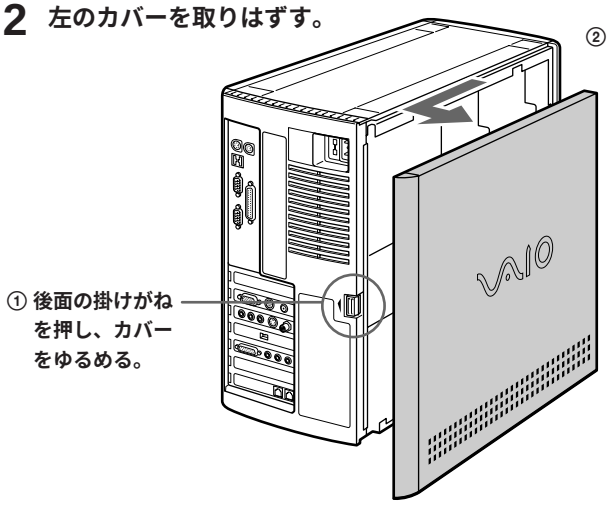
以下の手順に従って拡張ボードを取り付けます。

取り付けるときの注意

- 拡張ボードの取り付けや取りはずしは、必ず本機および周辺機器の電源を切った状態で行ってください。電源を入れたまま拡張ボードを取り付けたり取りはずしたりすると、拡張ボードや本機、周辺機器が破損することがあります。
- 拡張ボードの部品には直接手を触れないでください。人体の静電気によって部品が故障することがあります。拡張ボードを触る前には、金属製のものに触れて体内の静電気を放電してください。
- じゅうたんの上など、静電気の発生しやすいところに拡張ボードを放置しないでください。静電気の影響で拡張ボードの部品が壊れてしまうことがあります。
- コネクター部に直接手を触れないようにご注意ください。
- 拡張ボード内部には精密な電子部品があります。落としたり、強い衝撃を与えないようにご注意ください。
- 拡張ボードを本機から取りはずすときは、必ず本機の拡張ボードの取り扱いかたに従ってください。無理に引き抜くと拡張ボードや本機の故障の原因になります。
- 拡張ボードを水で濡らさないでください。

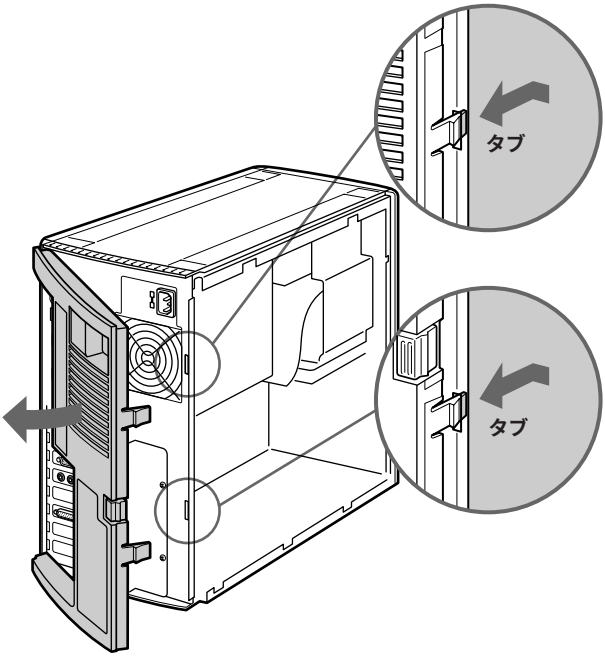
1 **本機と周辺機器の電源を切り、すべての接続ケーブルを取りはずす。**

2 **左のカバーを取りはずす。**

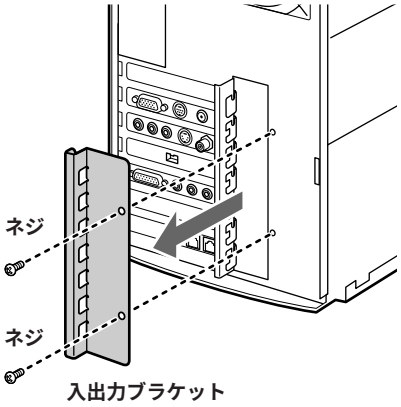


次のページにつづく

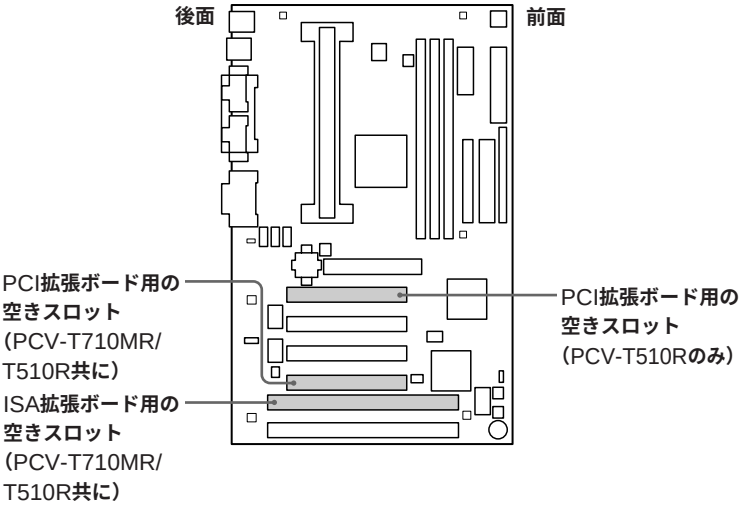
3 タブを押し、後面のカバーを取りはずす。



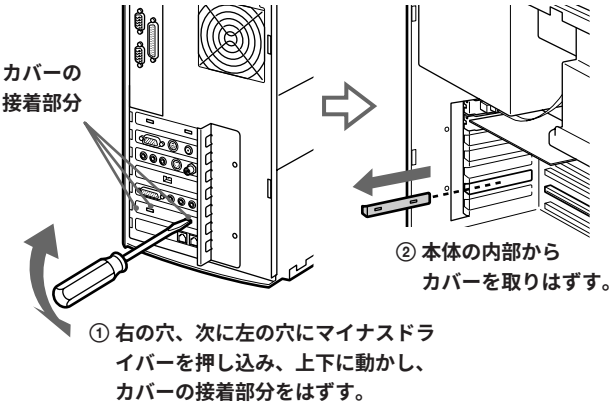
4 ネジをはずし、入出力ブラケットを取りはずす。



本機の内部基板は下の図のようになっています。



5 拡張ボードを取り付けるスロットのカバーを取りはずす。



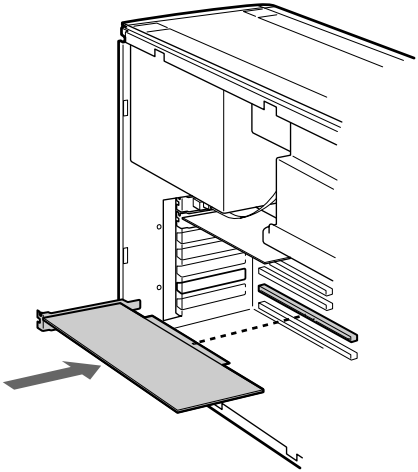
ご注意

- カバーの接着部分をはずすときには、ゆっくりと行い、カバーなどがゆがまないように作業してください。
- 内部の基板を傷つけないようにご注意ください。
- カバーの接着部分は多少突起しています。カバーをはずした後に突起部分に触れ手を切らないようにご注意ください。
- PCV-T510R専用PCI拡張ボード用の空きスロットのカバーは接着されていないため、①の作業を行う必要はありません。

次のページにつづく

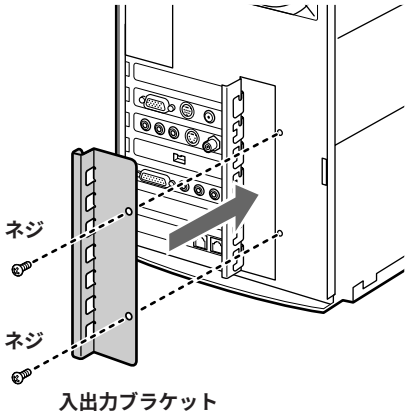
6 拡張ボードを取り付ける。

詳しくは、拡張ボードの取扱説明書をご覧ください。



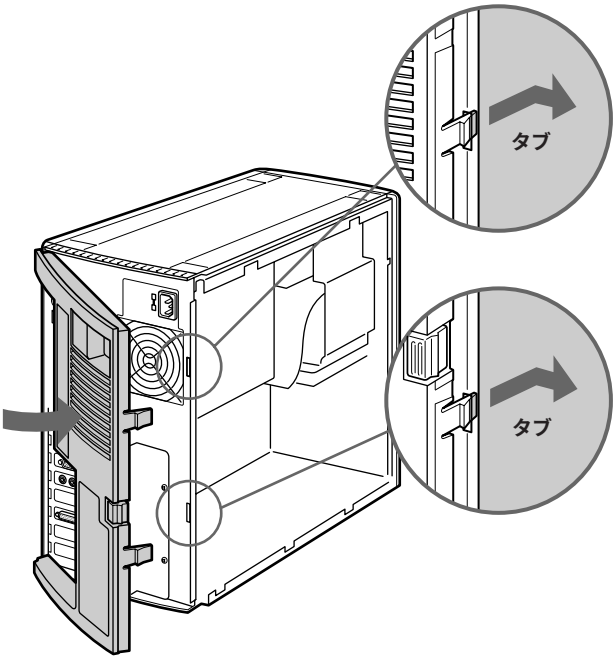
拡張ボードを取り付けるときは、本機を横に倒して行うと作業がしやすくなります。

7 入出力ブラケットを取り付けて、ネジをしめる。



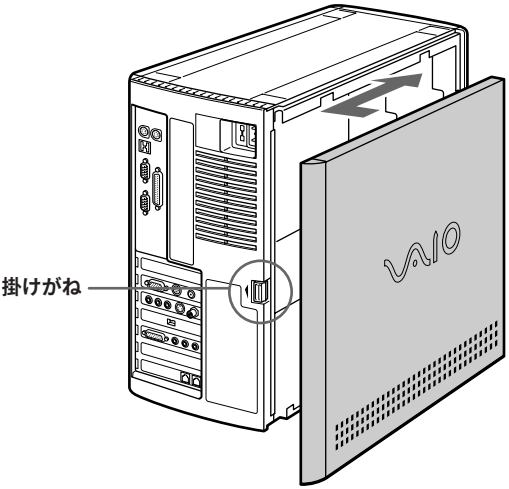
8 **後面のカバーを取り付ける。**

タブがカチッと音がするまで、カバーを押し込みます。



9 **左のカバーを取り付ける。**

カバーを元の位置に戻し、掛けがねがカチッと音がするまで押し込みます。



次のページにつづく

10 手順1ではずした周辺機器を接続し、本機の電源を入れる。

プラグアンドプレイ対応の拡張ボードを取り付けた場合は、Windows 95を起動すると、「新しいハードウェアが検出されました。必要なソフトウェアをインストールしています。」というメッセージが表示されるので、画面の指示とボードの取扱説明書に従って操作します。

プラグアンドプレイに対応していない拡張ボードを取り付けた場合は、ボードの取扱説明書を参照して、ドライバーのインストールを行ってください。

拡張ボードを取りはずすには

取り付けとは逆の手順で取りはずします。取りはずしの作業は、本機と周辺機器の電源を切り、すべての接続ケーブルを取りはずしてから行ってください。

メモリーを増設する

メモリーを増設すると、データの処理速度や複数のアプリケーションソフトウェアを同時に起動したときの処理速度が向上します。

ご注意

- メモリーの増設は注意深く行う必要があります。取り付けかたや取りはずしかたを誤ると、本機の故障の原因になります。電気的な専門知識が必要な作業ですので、販売店などに取り付けを依頼されることをおすすめします。
- メモリー増設の際には、本機内部のケーブルに指などを引っかけてはずさないように注意してください。
- メモリー増設の際は、本機内部の部品や基板などの角で手や指をけがしないように注意深く作業してください。
- メモリーの増設についてのご相談やご質問は、ITテクニカルレスポンスセンター修理窓口までご連絡ください。

RAMボードを取り付ける

別売のRAMボードを取り付けることにより、メモリーを増設します。
本機に取り付けられるのはDIMM（PCVA-MM32D/MM64Dなど）という種類のRAMボードです。
本機にはRAMボードを取り付けるスロットが3つあり、標準では32Mバイトの RAMボードが1つ（PCV-T510R）または2つ（PCV-T710MR）装着されています。標準で装着されているRAMボードを取りはずし、64Mバイトの RAMボードを3つ取り付けることにより、最大192Mバイトまでメモリーを増設できます（RAMボードの取りはずしかたについて詳しくは、107ページをご覧ください）。
RAMボードの取扱説明書もあわせてご覧ください。

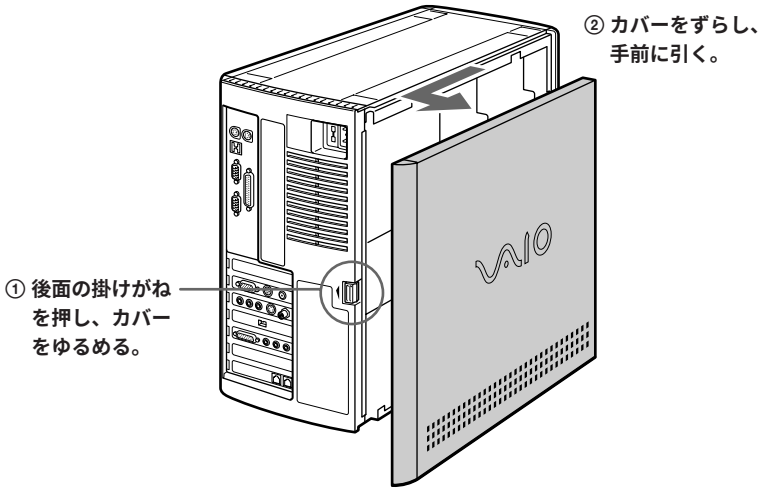
RAMボード取り扱い上のご注意

- 静電気でRAMボードが破壊しないように、RAMボードを取り扱うときは、次のことをお守りください。
  - メモリーを増設するときは、静電気の起こりやすい場所（カーペットの上など）では作業しないようにしてください。
  - 静電気を体から逃がすため、本体の金属部に触れてから作業を始めてください。
  - RAMボードは静電気防止袋に入っています。取り付け直前まで袋から出さないでください。
- RAMボードを保管するときは、静電気防止袋またはアルミホイルで覆ってください。

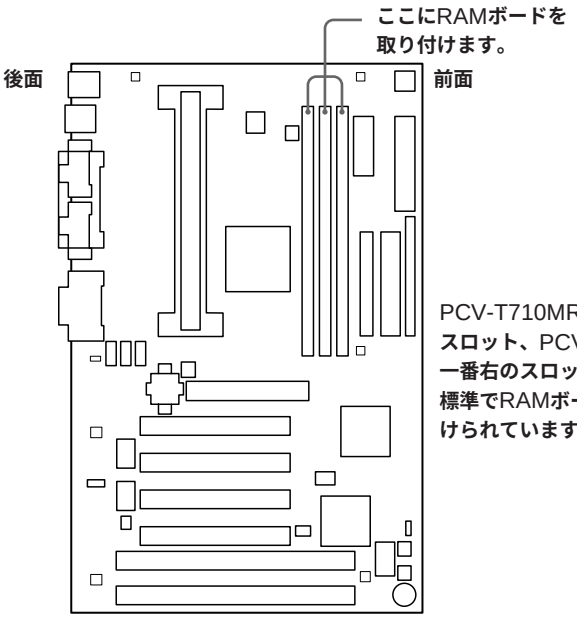
1 **本機と周辺機器の電源を切り、すべての接続ケーブルを取りはずす。**

2 **しばらくしてから、本機の左のカバーを取りはずす。**

電源を切ったすぐあとは、本機の内部が熱くなっており、やけどの可能性があります。本機が冷えるのを待ってから作業を行ってください。



本機の内部基板は下のようになっています。



PCV-T710MRは右側2つのスロット、PCV-T510Rは一番右のスロットにすでに標準でRAMボードが取り付けられています。

3 RAMボードを梱包から取り出す。

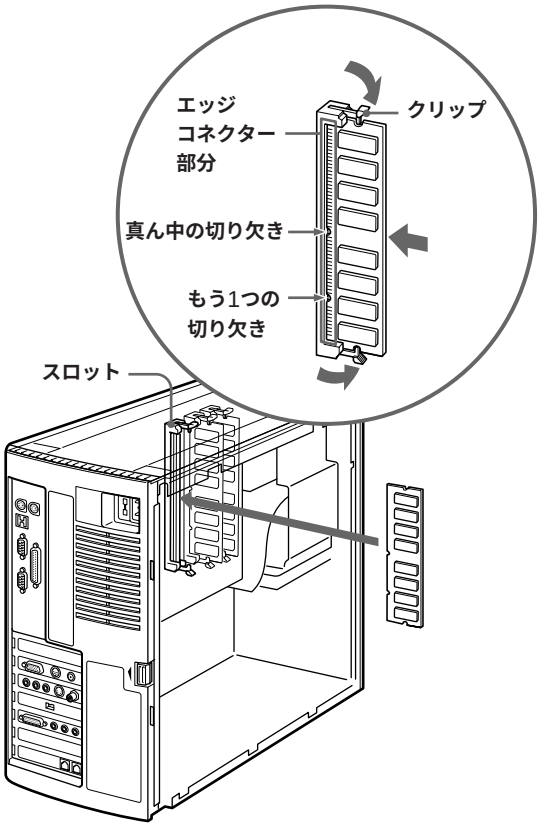
本機の金属部分に触れて体の静電気を逃がしてから、RAMボードを静電気防止袋から取り出します。

4 RAMボードを取り付ける。

RAMボードにはエッジコネクター部分の真ん中に切り欠きがあり、その切り欠きによって分けられたエッジの片方にだけもう1つ切り欠きがあります。

❶ RAMボードのエッジコネクター部分のもう1つの切り欠きがある方を本機の下側にしてスロットに合わせる。

❷ クリップが起き上がり、固定されるまでRAMボードを垂直にスロットへ押し込む。

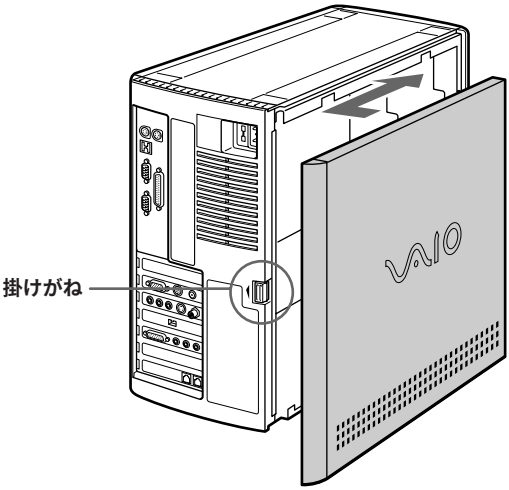


RAMボードを取り付けるときは、本機を横に倒して行うと作業がしやすくなります。

次のページにつづく

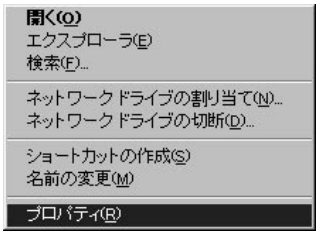
5 **左のカバーを取り付ける。**

カバーを元の位置に戻し、掛けがねがカチッと音がするまで押し込みます。



6 **手順1ではずした周辺機器を接続し、本機の電源を入れる。**

7 **［マイコンピュータ］を右クリックして、［プロパティ］をクリックする。**



「システムのプロパティ」が表示されます。

8 **［パフォーマンス］タブをクリックして、「メモリ」の項目が増設後のメモリー容量になっていることを確認する。**

メモリーの容量が正しければ、メモリーの増設は完了しました。
メモリーの容量が増えていないときは、本機の電源を切っていったんRAMボードを取りはずし、もう一度正しく増設の手順を繰り返してください。

RAMボードを取りはずす

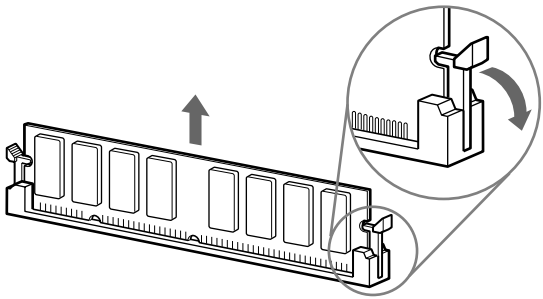
1 **本機と周辺機器の電源を切り、すべての接続ケーブルを取りはずす。**

2 **本機の左のカバーを取りはずす。**

電源を切ったすぐあとは、本機の内部が熱くなっており、やけどの可能性があります。本機が冷えるのを待ってから行ってください。

3 **RAMボードを取りはずす。**

RAMボード両端のクリップを外側に押し、RAMボードをはずし、スロットからゆっくり抜き取ります。



4 **左のカバーを取り付ける。**

デバイスを増設する

本機の前面のドライブベイにハードディスクドライブなどの増設ディスクドライブやその他の拡張用のデバイスを2つまで増設することができます。

ご注意

- デバイスの増設は注意深く行う必要があります。取り付けかたや取りはずしかたを誤ると、本機の故障の原因になります。電気的な専門知識が必要な作業ですので、販売店などに取り付けを依頼されることをおすすめします。
- デバイス増設の際には、本機内部のケーブルに指などを引っかけてはずさないように注意してください。
- デバイス増設の際は、本機内部の部品や基板などの角で手や指をけがしないように注意深く作業してください。
- デバイスの増設についてのご相談やご質問は、ITテクニカルレスポンスセンター修理窓口までご連絡ください。
- ドライブベイは5.25インチサイズです。
- 増設する機器によっては本機で動作しないものがあります。
  増設について詳しくは、販売店または増設機器メーカーにお問い合わせください。

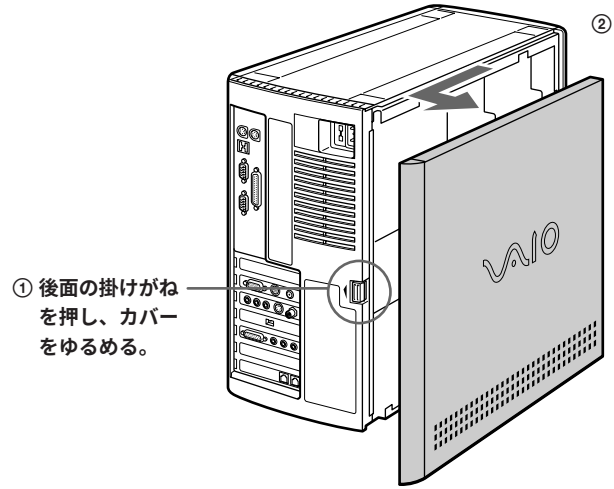
デバイスを取り付ける

デバイスを取り付ける際には、本機の前面パネルおよび天板を取りはずす必要があります。以下の手順にしたがってデバイスを取り付けます。
増設するデバイスの取扱説明書もあわせてご覧ください。

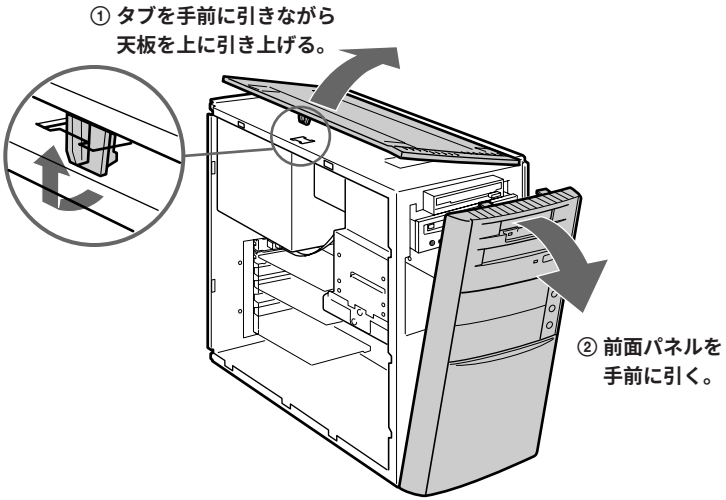
1 本機と周辺機器の電源を切り、すべての接続ケーブルを取りはずす。

2 しばらくしてから、本機の左のカバーを取りはずす。

電源を切ったすぐあとは、本機の内部が熱くなっており、やけどの可能性があります。本機が冷えるのを待ってから作業を行ってください。



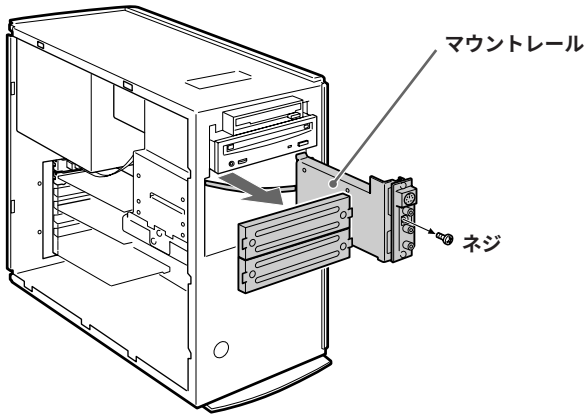
3 本機の天板と前面パネルを取りはずす。



次のページにつづく

4 ドライブベイのふたを取りはずす。

マウントレールをネジをはずしてから手前に取り出すと、2枚のドライブベイのふたが自然に手前にはずれます。

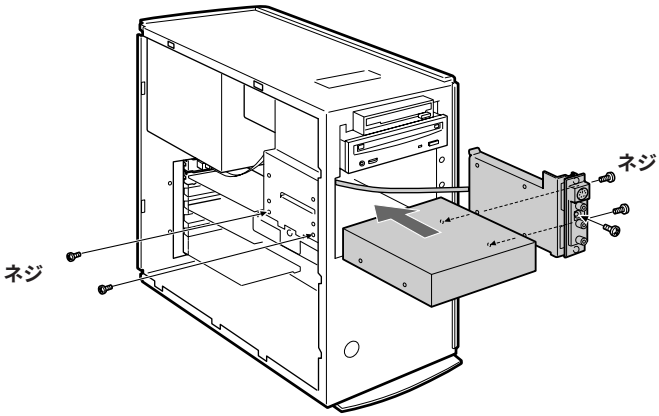


ご注意

PCV-T710MRでマウントレールが充分引き出せない場合は、マウントレール上の基板のコネクターからケーブルをいったんはずしてから作業してください。

5 増設するデバイスを取り付ける。

本機のドライブベイに増設するデバイスをネジで固定します。
取り付けかたについて詳しくは、増設する機器の取扱説明書をご覧ください。

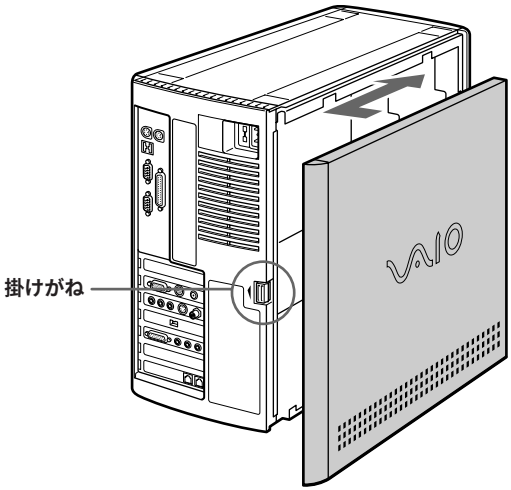


6 前面パネルと天板を取り付ける。

取りはずしと逆の手順で取り付けます。

7 **左のカバーを取り付ける。**

カバーを元の位置に戻し、掛けがねがカチッと音がするまで押し込みます。



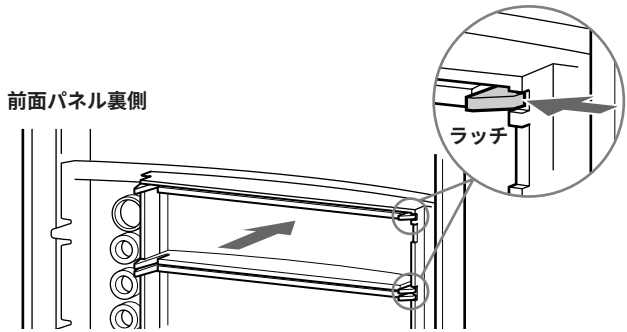
デバイスを取りはずすには

取り付けとは逆の手順で取りはずします。取りはずしの作業は、本機と周辺機器の電源を切り、すべての接続ケーブルを取りはずしてから行ってください。

前面パネルのベイカバーを取りはずす

CD-ROMドライブなど、前面からディスクなどを挿入する機器を増設したときは、ベイカバーを前面パネルから取りはずす必要があります。

本機から前面パネルをはずした後、前面パネルの裏側から、取りはずすベイカバーのラッチを内側に押し込み、ベイカバーの中央部を外側に押すとベイカバーがはずれます。



BIOSセットアップメニューを使う

BIOSセットアップメニューの概要

BIOSセットアップとは

お買い上げになった時点で、本機のシステム構成はバッテリーでバックアップされた内部のメモリー（CMOSタイプのRAM）に標準装備として記憶されています。本機を通常お使いの場合、システム構成を変更する必要はありません。

以下の場合には、BIOSセットアップメニューを使ってシステム構成の設定を行います。

- 拡張ボードを増設し、リソースの設定が必要なとき
- 省電力機能を設定するとき

ご注意

本機の起動時に、繰り返しエラーが発生する場合は、本機内部のバッテリーが消耗している可能性があります。その場合は、ご自分で設定した値をCMOS RAMメモリーに記憶できません。バッテリーの交換については、ITテクニカルレスポンスセンター修理窓口へお問い合わせください。

BIOSセットアップメニューの特長

ここではBIOSセットアップメニューの特長を説明します。

❑ リソースの自動設定

PCI拡張ボードかプラグアンドプレイ対応ISA拡張ボードをスロットに取り付けた後にシステムを起動すると、自動的に各ボードの割り込みレベル、I／O空間や他のリソースが設定されます。BIOSセットアップメニューであらかじめ空きになっている割り込みレベルが拡張ボードに割り当てられます。

❑ プラグアンドプレイに対応していないISA拡張ボードへの対応

プラグアンドプレイに対応していないISA拡張ボードは自動的に設定されません。このため、ISA拡張ボードが使用するリソースはBIOSセットアップメニューや、拡張ボードなどに付属しているISAコンフィグレーションユーティリティなどを使って設定を行います。

❑ 省電力モード（スタンバイモード）

本機ではAPM（Advanced Power Management:パワーマネージメント）機能による省電力モード（スタンバイモード）に対応しています。スタンバイモードでは、CPUの省電力機能を使用したり、ハードディスクの回転を止めることによって、電力消費を減らします。
スタンバイモードに入るには以下の方法があります。

- BIOSセットアップメニューで指定した時間、キーボードやマウスを操作しなかったとき
- オペレーティングシステムからの指示（Windows 95のサスペンドメニューなど）があったとき

スタンバイモード中であっても、外部からの割り込みやFAX着信などのようなサービス要求には対応します。キーボードやマウスなどの操作でスタンバイモードから復帰し、ディスプレイの電源を復活します。

BIOSセットアップメニューを起動する

本機の電源投入後、「Press F3 for boot screen」というメッセージが画面右下に表示されたらF3キーを押します。画面が変わり、「Press F1 to enter SETUP」というメッセージが表示されたらF1キーを押します。

BIOSセットアップメニューが起動し、Main（メイン）メニュー画面が表示されます。

ご注意

「Press F1 to enter SETUP」というメッセージが画面に表示されている間にF1キーを押さなかった場合には、Windows 95が起動します。

BIOSセットアップメニューの構成

BIOSセットアップメニューは、以下の6つのメニュー画面から構成され、セットアップ画面上部のメニューバーに表示されます。

❑ Main（**メイン**）
ハードウェア資源の割り当てを行う画面です。

❑ Advanced（**アドバンスト**）
より詳細にシステム構成を設定する画面です。

❑ Security（**セキュリティ**）
パスワードやセキュリティの設定を行う画面です。

❑ Power（**パワー**）
電源管理に関する設定を行う画面です。

❑ Boot（**ブート**）
起動のオプションや電源供給に関する設定を行う画面です。

❑ Exit（**エグジット**）
変更した設定を保存したり、BIOSセットアップメニューを終了させる画面です。

それぞれのメニューの設定項目の中には、さらにサブメニューがあるものがあります。

BIOSセットアップメニューでのキー操作

BIOSセットアップメニューでは、以下のキーを使って操作します。

なまえ	機能
←／→キー	• メニュー画面を選ぶときに押します。 • 設定項目の設定値を変更するときに押します。
↑／↓キー	設定項目を選ぶときに押します。選ばれた設定項目は反転表示されます。
Enter（エンター）キー	• 選んだ設定項目の設定値の選択肢（ポップアップメニュー）を表示するときに押します。 • 選んだ設定値を決定するときに押します。 • サブメニューがある設定項目を選んだときに押すと、サブメニューを表示します。
Esc（エスケープ）キー	• サブメニューや設定項目のポップアップメニューから前の画面に戻るときに押します。 • 6つのメニュー画面のいずれかが表示されているとき押すと、変更した設定を保存せずにBIOSセットアップメニューを終了します。
Home（ホーム）キー／Page Up（ページアップ）キー	一番上の設定項目を選ぶときに押します。
End（エンド）キー／Page Down（ページダウン）キー	一番下の設定項目を選ぶときに押します。
F5キー／ー（マイナス）キー	設定項目に対し前の設定値を選ぶときに押します。
F6キー／＋（プラス）キー	設定項目に対し次の設定値を選ぶときに押します。
F9キー	現在のメニュー画面上で、設定値を初期値に戻すときに押します。
F10キー	変更した設定を保存して、BIOSセットアップメニューを終了するときに押します。

ご注意

- BIOSの設定の変更はマウスを使って行うことはできません。
- 不都合が発生した場合以外はF9キーを使わないでください。F9キーを使って設定される値は工場出荷時の設定とは異なります。

Mainメニュー（ハードウェア資源の割り当て）

Main（メイン）メニューではシステムの時計の設定やハードウェア資源の割り当てを行います。

設定項目の表記について

- 「*」が付いている設定項目は、他の設定項目の設定内容やハードウェアの構成によっては表示されなかったり、変更できないことがあります。
- 「**」が付いている設定項目は、他の設定項目を変更すると対応する設定値を表示します。
- 「***」が付いている設定項目は変更できません。
- 下線が引いてある設定値が本機の工場出荷時の設定です。

Advancedメニュー、Securityメニュー、Powerメニュー、Bootメニュー、Exitメニューも同じ表記をしています。

以下の設定項目が表示されます。

❑ Processor Type***（CPUの種類）

CPUの種類を表示します。

❑ Processor Speed***（CPUの処理速度）

CPUの処理速度（動作周波数）を表示します。

❑ Cache RAM***（キャッシュメモリーの容量）

セカンダリ（L2）キャッシュメモリーの容量を表示します。

❑ Total Memory***（メモリーの総容量）

本機内部に装着されているメモリーの総容量を表示します。

❑ BIOS Version***（BIOSのバージョン）

BIOSのバージョンを表示します。

❑ Language***（言語）

English（US）以外選べません。

❑ System Time（時刻）

現在の時刻を設定します。時刻の表示は「時：分：秒」の順になっています。TabキーまたはEnterキーで時、分、秒の間を移動し、F5／F6キーで数値を変更するか、数字キーで数値を直接入力します。

❑ System Date（日付）

現在の日付を設定します。日付の表示は「月／日／年」の順になっています。 TabキーまたはEnterキーで月、日、年の間を移動し、F5／F6キーで数値を変更するか、数字キーで数値を直接入力します。

❑ Floppy Options（フロッピーディスクドライブの設定）

本機のフロッピーディスクドライブの構成について設定します。Enterキーを押すとサブメニューが表示されます。

Floppy Optionsのサブメニュー

- Diskette A（フロッピーディスクドライブA）
  フロッピーディスクドライブAの容量とサイズを指定します。
  – Disabled: フロッピーディスクドライブAを使わない。
  – 360KB, 5¼"
  – 1.2MB, 5¼"
  – 720KB, 3½"
  – 1.44/1.25MB, 3½"
  – 2.88MB, 3½"

- Diskette B（フロッピーディスクドライブB）
  フロッピーディスクドライブBの容量とサイズを指定します。
  – Disabled: フロッピーディスクドライブBを使わない。
  – 360KB, 5¼"
  – 1.2MB, 5¼"
  – 720KB, 3½"
  – 1.44/1.25MB, 3½"
  – 2.88MB, 3½"

- Floppy Write Protect（フロッピーディスクの書き込み保護）
  フロッピーディスクドライブの書き込み保護機能について設定します。
  – Disabled: フロッピーディスクの読み込み／書き込みができる。
  – Enabled: フロッピーディスクの読み込みのみできる。

❑ Primary IDE Master*（プライマリIDEマスター）

マザーボードのプライマリIDEのマスターに接続されている機器を表示します。何も接続されていないときは「None」と表示します。Enterキーを押すとサブメニューが表示されます。

❑ Primary IDE Slave*（プライマリIDEスレーブ）

マザーボードのプライマリIDEのスレーブに接続されている機器を表示します。何も接続されていないときは「None」と表示します。Enterキーを押すとサブメニューが表示されます。

❑ Secondary IDE Master*（セカンダリIDEマスター）

マザーボードのセカンダリIDEのマスターに接続されている機器を表示します。何も接続されていないときは「None」と表示します。Enterキーを押すとサブメニューが表示されます。

❑ Secondary IDE Slave*（セカンダリIDEスレーブ）

マザーボードのセカンダリIDEのスレーブに接続されている機器を表示します。何も接続されていないときは「None」と表示します。Enterキーを押すとサブメニューが表示されます。

Primary IDE Master／Primary IDE Slave／Secondary IDE Master／Secondary IDE Slave**共通のサブメニュー**
各設定項目について、以下のサブメニューの設定項目があります。

- Type（種類）
  接続するデバイスの種類を指定します。
  – None: デバイスを使用しない。（「Secondary IDE Slave」のみ「None」が工場出荷時の設定です。）
  – ATAPI Removable: ATAPIのリムーバブルディスクを使用する。
  – CD-ROM: CD-ROMを使用する。
  – IDE Removable: IDEリムーバルディスクを使用する。
  – User: ハードディスクを手動で設定するときに選ぶ。
  – Auto: ハードディスクが自動的に設定される。「Cylinders」、「Heads」、「Sectors」、「Multi-Sector Transfers」、「LBA Mode Control」、「Transfer Mode」、「Ultra DMA」の設定を変更することはできない。

- Cylinders*（シリンダー数）
  「Type」が「Auto」に設定されているときは、ハードディスクのシリンダー数が表示されます。「User」に設定されているときは、接続されているハードディスクの正確なシリンダー数を入力します。
- Heads*（ヘッド数）
  「Type」が「Auto」に設定されているときは、ハードディスクの読み／書きヘッドの数が表示されます。「User」に設定されているときは、接続されているハードディスクの正確なヘッド数を入力します。
- Sectors*（セクター数）
  「Type」が「Auto」に設定されているときは、ハードディスクの1シリンダー当たりのセクター数が表示されます。「User」に設定されているときは、接続されているハードディスクの正確なセクター数を入力します。
- Maximum Capacity** ***（総容量）
  シリンダー数、ヘッド数、セクター数から算出されたハードディスクの総記憶容量を表示します。
- Multi-Sector Transfers*（マルチセクター転送）
  ディスクから転送される一回あたりのセクター数を設定します。
  – Disabled: マルチセクター転送を行わない。
  – 2 Sectors: 2セクターを転送する。
  – 4 Sectors: 4セクターを転送する。
  – 8 Sectors: 8セクターを転送する。
  – 16 Sectors: 16セクターを転送する。
- LBA Mode Control*（LBAモードの制御）
  論理ブロックアドレス（LBA）モード動作について設定します。
  – Disabled: LBAモードを使用しない。
  – Enabled: LBAモードを使用する。

ご注意

フォーマットを終えたハードディスクに対して「LBA Mode Control」の設定を変更しないでください。ディスクのデータ破壊の原因となります。

- Transfer Mode*（転送モード）
  ドライブとメモリ間のデータ転送の方法を指定します。
  – Standard: 標準
  – Fast PIO 1
  – Fast PIO 2
  – Fast PIO 3
  – Fast PIO 4
  – FPIO 3 & Bus Mastering
  – FPIO 4 & Bus Mastering
- Ultra DMA*（DMAモード）
  ディスクのUltra DMAモードについて設定します。
  – Disabled: Ultra DMA を使用しない。
  – Mode 0
  – Mode 1
  – Mode 2

Advancedメニュー（システム構成の詳細の設定）

Advanced（アドバンスト）メニューではより詳細にシステム構成の設定を行います。以下の設定項目が表示されます。

❑ Plug & Play O/S（プラグアンドプレイOS）

プラグアンドプレイOSを使用するかどうかを設定します。

– No: プラグアンドプレイOSを使用しない。全てのデバイスをBIOSが設定する。
– Yes: プラグアンドプレイOSを使用する。OSがデバイスを設定する。

❑ Reset Configuration Data（構成データのリセット）

次回の起動時にシステム構成データを消去するかどうかを設定します。

– No: 消去しない。
– Yes: 消去する。

❑ Memory Cache（メモリーキャッシュ）

メモリーキャッシュの動作を設定します。

– Disabled: メモリーキャッシュを動作させない。
– Enabled: メモリーキャッシュを動作させる。

❑ Resource Configuration（リソースの設定）

プラグアンドプレイに対応していないISA拡張ボードのためのメモリー領域や割り込み番号の設定をします。

Enterキーを押すとサブメニューが表示されます。

Resource Configuration**のサブメニュー**

- Memory Reservation（メモリーの予約）
  プラグアンドプレイに対応していないISA拡張ボードが使うメモリー領域を予約します。
  Enterキーを押すとサブメニューが表示されます。
  – C800 - CBFF
  – CC00 - CFFF
  – D000 - D3FF
  – D400 - D7FF
  – D800 - DBFF
  – DC00 - DFFF
    – Available: メモリー領域を使用できるようにする。
    – Reserved: ISA拡張ボードのためにメモリー領域を予約する。
  – Memory hole
    – Disabled: 全メモリー領域を使用できるようにする。
    – Conventional: 512KB～640KBを予約する。
    – Extended: 15MB～16MBを予約する。

- IRQ Reservation（割り込み番号の予約）
  プラグアンドプレイに対応していないISA拡張ボードが使う割り込み番号を予約します。
  Enterキーを押すとサブメニューが表示されます。
  – IRQ3
  – IRQ4
  – IRQ5
  – IRQ7
  – IRQ9
  – IRQ10
  – IRQ11
  – IRQ14
  – IRQ15
    使用可能なIRQのみ表示されます。
    – Available: 割り込み番号を使用できるようにする。
    – Reserved: ISA拡張ボードのために予約する。（「IRQ5」のみ「Reserved」が工場出荷時の設定です。）
  IRQの次に表示された「*」は割り込み番号の予約が重複していることを示します。

❑ Peripheral Configuration（各種インターフェースの設定）

本機に装備されている各種インターフェースを設定します。Enterキーを押すとサブメニューが表示されます。

Peripheral Configurationのサブメニュー

- Serial port A（SERIAL 1端子）
  SERIAL 1 端子の設定をします。
  – Disabled: SERIAL 1端子を使用しない。
  – Enabled: SERIAL 1端子を使用する。
  – Auto: 空いているポート資源のうち最初のものを自動的に設定する。通常はCOM1、アドレス3F8h、割り込み番号IRQ4となります。「*」は他のデバイスとの衝突を示します。
- Base I/O address*（SERIAL 1端子のI／Oアドレス）
  SERIAL 1端子のI／Oアドレス資源の設定をします。
  – 3F8
  – 2F8
  – 3E8
  – 2E8
- Interrupt*（SERIAL 1端子の割り込み番号）
  SERIAL 1端子の割り込み番号を設定します。
  – IRQ 3
  – IRQ 4
- Serial port B（SERIAL 2端子）
  SERIAL 2 端子の設定をします。
  – Disabled: SERIAL 2端子を使用しない。
  – Enabled: SERIAL 2端子を使用する。
  – Auto: 空いているポート資源のうち最初のものを自動的に設定する。通常はCOM2、アドレス2F8h、割り込み番号IRQ3となります。「*」は他のデバイスとの衝突を示します。
- Mode*（SERIAL 2端子のIRモード）
  SERIAL 2端子の赤外線モードを設定します。
  – Normal
  – IrDA
  – ASK-IR

- Base I/O address*（SERIAL 2端子のI／Oアドレス）
  SERIAL 2端子のI／Oアドレス資源を設定します。
  – 3F8
  – 2F8
  – 3E8
  – 2E8
- Interrupt*（SERIAL 2端子の割り込み番号）
  SERIAL 2端子の割り込み番号を設定します。
  – IRQ 3
  – IRQ 4
- Parallel port（PRINTER端子）
  PRINTER端子の設定をします。
  – Disabled: PRINTER端子を使用しない。
  – Enabled: PRINTER端子を使用する。
  – Auto: アドレス378h、割り込み番号IRQ7を自動的に設定する。「*」は他のデバイスとの衝突を示します。
- Mode*（PRINTER端子の動作モード）
  PRINTER端子の動作モードを選択します。
  – Output Only: AT互換モード
  – Bi-directional: PS/2互換双方向モード
  – EPP: 高速双方向モード（Extended Parallel Port mode）
  – ECP: 高速双方向モード（Enhanced Capabilities Port mode）
- Base I/O address*（PRINTER端子のI/Oアドレス）
  PRINTER端子のI/Oアドレス資源を設定します。
  – 378
  – 278
  – 3BC
  – 228
- Interrupt*（PRINTER端子の割り込み番号）
  PRINTER 端子の割り込み番号を設定します。
  – IRQ 5
  – IRQ 7

- Floppy disk controller（フロッピーディスクコントローラ）
  フロッピーディスクコントローラを動作させるかどうかを設定します。
  – Disabled: 動作させない。
  – Enabled: 動作させる。
- IDE controller（IDEコントローラ）
  IDEコントローラの動作を設定します。
  – Disabled: 動作させない。
  – Primary: プライマリIDEのみ動作させる。
  – Secondary: セカンダリIDEのみ動作させる。
  – Both: プライマリIDE、セカンダリIDE共に動作させる。
- Legacy USB Support（旧式USBのサポート）
  旧式USBのサポートについて設定します。
  – Disabled: サポートしない。
  – Enabled: サポートする。

❑ Keyboard Configuration（キーボードの設定）

キーボードの設定をします。
Enterキーを押すとサブメニューが表示されます。

Keyboard Configurationのサブメニュー

- Numlock（NumLockキー）
  システムを起動したときの、キーボードのNumLockキーの入／切を設定します。
  – Auto: 自動設定。
  – On: NumLockキーが入った状態でシステムを起動する。
  – Off: NumLockキーを切った状態でシステムを起動する。
- Key Click（キークリック）
  本機では無効です。（「Disabled」に設定してください。）

- Keyboard auto-repeat rate（キーボードのオートリピートの速度）
  キーボードのオートリピートの速度（字数／秒）を選択します。
  – 30/sec
  – 26.7/sec
  – 21.8/sec
  – 18.5/sec
  – 13.3/sec
  – 10/sec
  – 6/sec
  – 2/sec
- Keyboard auto-repeat delay（キーボードのオートリピートの遅延時間）
  キーボードのオートリピートが始まるまでの遅延時間（秒）を設定します。
  – 1/4 sec
  – 1/2 sec
  – 3/4 sec
  – 1 sec

❑ Video Configuration（ビデオの設定）

ビデオ関連の設定をします。
Enterキーを押すとサブメニューが表示されます。

Video Configurationのサブメニュー

- Palette Snooping（パレットスヌーピング）
  PCIグラフィックデバイスとISAグラフィックカードの両方がシステムに存在する場合、パレットを共通にするかどうかを設定します。
  – Disabled: パレットを共通にしない。
  – Enabled: パレットを共通にする。

❑ DMI Event Logging（DMIイベントの記録）

DMIイベントの記録の設定をします。
Enterキーを押すとサブメニューが表示されます。

DMI Event Loggingのサブメニュー

- Event log capacity***（イベント記録の容量）
  イベント記録のための空きがあるかどうかを表示します。
- Event log validity***（イベント記録の有効性）
  イベント記録が有効かどうかを表示します。
- View DMI event log（DMIイベント記録の表示）
  Enterキーを押すと、DMIイベント記録を表示します。
- Clear all DMI event logs（全DMIイベント記録の消去）
  システムの再起動後にDMIイベント記録を消去するかどうかを設定します。
  – No: 消去しない。
  – Yes: 消去する。
- Event Logging（イベントの記録）
  DMIイベントの記録をするかどうかを設定します。
  – Disabled: 記録しない。
  – Enabled: 記録する。
- ECC Event Logging*（ECCイベントの記録）
  ECCイベントの記録をするかどうかを設定します。「Disabled」に設定してください。
- Mark DMI events as read*（DMIイベントを既読に設定）
  全てのDMIイベントを読まれたものとして設定します。

Securityメニュー（パスワード、セキュリティの設定）

Security（セキュリティ）メニューではパスワードやセキュリティの設定を行います。

ご注意

- Securityメニューで設定するパスワードは電源投入直後やBIOSセットアップメニューに入るときに使われるものであり、Windows 95で設定するパスワードとは異なります。
- 設定したパスワードを忘れないようにしてください。パスワードを設定すると、Windows 95を起動する前やBIOSセットアップメニューに入る前にパスワードを入力するメッセージが出るようになります。パスワードを忘れてしまうと、Windows 95を起動したり、BIOSセットアップメニューに入ることができなくなります。

以下の設定項目が表示されます。

❑ User Password Is** ***（ユーザーパスワード）

ユーザーパスワードが設定されているかどうかを表示します。「Set User Password」でパスワードを設定したときには「Set」、設定していないときは「Clear」と表示されます。

❑ Supervisor Password Is** ***（管理者パスワード）

管理者パスワード（BIOSセットアップメニューを使うためのパスワード）が設定されているかどうかを表示します。「Set Supervisor Password」でパスワードを設定したときには「Set」、設定していないときは「Clear」と表示されます。

❑ Set User Password（ユーザーパスワードの設定）

ユーザーパスワードを設定します。
以下の手順に従ってパスワードを設定します。

1 **「Set User Password」の項目でEnterキーを押す。**
パスワードを入力するダイアログボックスが表示されます。

2 **キーボードを使って［Enter New Password］テキストボックスにパスワードを入力し、Enterキーを押す。**
7文字まで英数字を入力できます。

3 **確認のため、［Confirm New Password］テキストボックスにもう1度パスワードを入力し、Enterキーを押す。**
「Changes have been saved.」というメッセージが表示され、入力したパスワードが確定されます。
何かキーを押して、元の画面に戻ります。

パスワードの入力を中止するには
手順2または3のときにEscキーを押します。

パスワードを変更するには
「Set User Password」を選び、Enterキーを押すと、現在のパスワードと新しいパスワードを入力するダイアログボックスが表示されます。
［Enter Current Password］テキストボックスに現在のパスワードを入力した後、上の手順2以降の操作を行ってください。

パスワードを使用するのを止めるときは
パスワードを変更する手順で、［Enter New Password］と［Confirm New Password］のテキストボックスに何も入力せず、Enterキーを押します。
「Changes have been saved.」というメッセージが表示され、パスワードが消去されます。
何かキーを押して、元の画面に戻ります。

❑ Set Supervisor Password（管理者パスワードの設定）

管理者パスワードを設定します。設定方法は「Set User Password」の場合と同じです。入力できる英数字は7文字までです。

❑ Unattended Start（**ユーザーパスワードの保護状態**）

ユーザーパスワードの入力がどの時点で要求されるかを設定します。

- Disabled: ユーザーパスワードが入力されるまでシステムは起動しない。
- Enabled: システムは起動するが、ユーザーパスワードが入力されるまでキーボードがロックされる。また、フロッピーディスクから起動するときにパスワードを要求される。

Powerメニュー（電源管理に関する設定）

Power（パワー）メニューでは電源管理に関する設定を行います。以下の設定項目が表示されます。

❑ Power Management（省電力機能）

BIOSによる省電力機能を使用するかどうかを設定します。

– Disabled: 省電力機能を使用しない。
– Enabled: 省電力機能を使用する。

❑ Fan Always On*（ファンの動作）

省電力動作中のファンの動作を設定します。

– Yes: ファンを回す。
– No: ファンを止める。

❑ Inactivity Timer*（待ち時間）

キーボード操作が中断されてから、本機がスタンバイモードに入るまでの待ち時間（分）を選びます。

– Off: スタンバイモードに入らない。
– 1 Minute
– 2 Minutes
– 4 Minutes
– 6 Minutes
– 8 Minutes
– 12 Minutes
– 16 Minutes
– 30 Minutes

❑ Hard Drive*（ハードディスク）

スタンバイモードとサスペンドモードでハードディスクの電源を制御するかどうかを設定します。

– Disabled: 制御しない。
– Enabled: 制御する。

❑ VESA Video Power Down* (ビデオ信号の制御)

スタンバイモードとサスペンドモード中にVESA省電力モードに入るかどうかを設定します。

– Disabled: VESA省電力モードに入らない。
– Enabled: VESA省電力モードに入る。

Boot メニュー（起動オプション、電源供給関連の設定）

Boot（ブート）メニューでは、起動のオプションや電源供給に関する設定を行います。以下の設定項目が表示されます。

❑ Restore On AC/Power Loss（電源断後の動作）

本機に通電中、電源断が発生した場合のその後の動作について設定します。

– Stay Off: 電源ボタンが押されるまで電源が再投入されない。
– Last State: 電源断が発生する前の状態に復帰する。
– Power On: 電源復帰後、自動的に本機の電源が入る。

❑ On Modem Ring（モデム着信時の動作）

電源断時、接続されたモデムに着信が検知された場合の動作について設定します。

– Stay Off: システムの電源を投入しない。
– Power On: システムの電源を投入する。

❑ On LAN

本機では無効です。（「Stay Off」に設定してください。）

❑ On PME

本機では無効です。（「Stay Off」に設定してください。）

❑ QuickBoot Mode（クイックブートモード）

本機の起動時に一部のテストを省略し起動時間を短縮するかどうかを設定します。

– Disabled: 省略しない。
– Enabled: 省略する。

❑ Scan User Flash Area（ユーザーフラッシュ領域のスキャン）

本機の起動時にフラッシュROM内のユーザープログラムを検索するかどうかを設定します。

– Disabled: 検索しない。
– Enabled: 検索する。

❑ First Boot Device（起動順位1位のデバイス）、Second Boot Device（起動順位2位のデバイス）、Third Boot Device（起動順位3位のデバイス）、Fourth Boot Device（起動順位4位のデバイス）

起動するデバイスの優先順位を設定します。
以下の手順に従い、優先順位を設定します。

1 **↑または↓キーを押してデバイスを選ぶ。**

2 **F5またはF6キーを押して、リストの中の順位を変更する。**
リストに表示されるデバイスは以下の通りです。
– ATAPI CD-ROM Drive: ATAPI CD-ROMドライブ
– Removable Devices: リムーバブルデバイス（フロッピーディスクドライブなど）
– Hard Drive: ハードディスク
– Network Boot: ネットワーク
（工場出荷時の順位は上記のようになっています。）

❑ Hard Drive（ハードディスク）

使用可能なドライブをリストで表示します。
Enterキーを押すとサブメニューが表示されます。

Hard Drive**のサブメニュー**

接続されたハードディスクからの起動の優先順位を設定します。
以下の手順に従い、優先順位を設定します。

1 **↑または↓キーを押してデバイスを選ぶ。**

2 **F5またはF6キーを押して、リストの中の順位を変更する。**

❑ Removable Devices（リムーバブルデバイス）

使用可能なリムーバブルデバイスをリストで表示します。
Enterキーを押すとサブメニューが表示されます。

Removable Devicesのサブメニュー

接続されたリムーバブルデバイスからの起動の優先順位を設定します。
以下の手順に従い、優先順位を設定します。

1 **↑または↓キーを押してデバイスを選ぶ。**

2 **F5またはF6キーを押して、リストの中の順位を変更する。**

Exitメニュー（BIOSセットアップメニューの終了）

Exit（エグジット）メニューでは変更した設定を保存したり、BIOSセットアップメニューを終了させます。
以下の設定項目が表示されます。

❑ Exit Saving Changes（変更の保存とメニューの終了）

変更した設定をCMOSに保存してBIOSセットアップメニューを終了します。Enterキーを押すと、「Save configuration changes and exit now?」というメッセージが表示されます。Enterキーをもう1度押すと、変更した設定が保存され、メニューが終了します。変更の保存とメニューの終了を止めるときは、Escキーを押します。BIOSセットアップメニュー中の任意の時点でF10キーを押しても同様に動作します。

❑ Exit Discarding Changes（変更の破棄とメニューの終了）

変更した設定を保存しないでBIOSセットアップメニューを終了します。Enterキーを押すと、「Discard configuration changes and exit now?」というメッセージが表示されます。Enterキーをもう1度押すと、変更した設定が保存されずにメニューが終了します。変更の破棄とメニューの終了を止めるときは、Escキーを押します。
6つのメニュー画面のいずれかが表示されているときにEscキーを押しても同様に動作します。

❑ Load Setup Defaults（初期設定値への復帰）

BIOSセットアップメニューの中のすべての設定項目を初期設定値に戻します。初期設定値はROM内に格納されています。
Enterキーを押すと、「Load default configuration now?」というメッセージが表示されます。Enterキーをもう1度押すと、すべての設定項目が初期設定に戻ります。初期設定に戻すのを止めるときは、Escキーを押します。
BIOSセットアップメニュー中の任意の時点でF9キーを押しても同様に動作します。

ご注意

不都合が発生した場合以外はこの機能は使わないでください。この機能によって設定される値は工場出荷時の設定とは異なります。

❑ Load Custom Defaults（カスタムデフォルト値の復帰）

BIOSセットアップメニューの設定を、カスタムデフォルト値からロードします。

Enterキーを押すと、「Load default configuration now?」というメッセージが表示されます。Enterキーをもう1度押すと、すべての設定項目がカスタムデフォルト値に戻ります。カスタムデフォルト値に戻すのを止めるときは、Escキーを押します。

❑ Save Custom Defaults（カスタムデフォルト値の保存）

CMOSに保存されたBIOSの設定値が破壊された時に使用されるカスタムデフォルト値として、現在のBIOSセットアップメニューの設定を保存します。

Enterキーを押すと、「Save configuration changes now?」というメッセージが表示されます。Enterキーをもう1度押すと、現在の設定がカスタムデフォルト値として保存されます。保存を止めるときは、Escキーを押します。

❑ Discard Changes（変更の破棄）

BIOSセットアップメニューの中でその時点までに行った変更を破棄し、前回保存時の設定に戻します（BIOSセットアップメニューは終了しません）。システム起動時のCMOSの値を再度読み込むことによって行います。Enterキーを押すと、「Load previous configuration now?」というメッセージが表示されます。Enterキーをもう1度押すと、すべての変更した設定項目が前回保存時の設定に戻ります。変更の破棄を止めるときは、Escキーを押します。

Windowsの設定を変更する

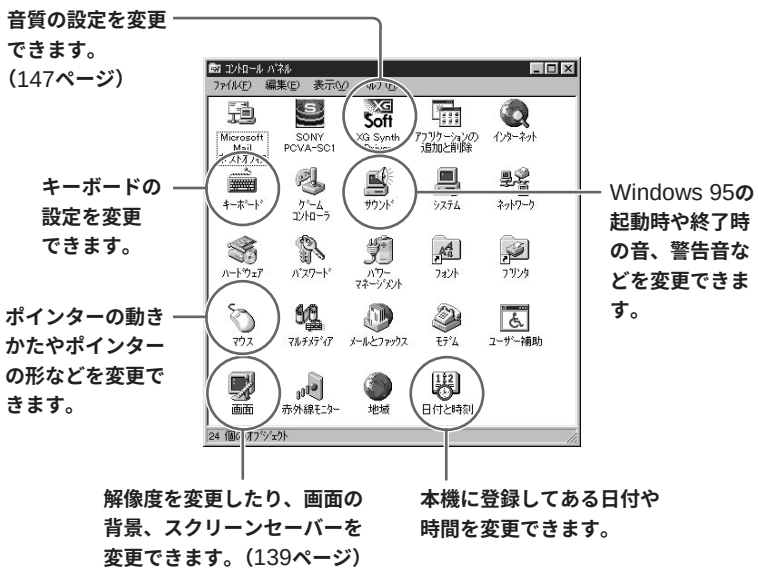
操作環境を自分の好みに合わせる

本機の操作環境を自分の好みに合わせて変えることができます。例えば、画面の解像度を変えて表示するウィンドウや文字の大きさを変えたり、画面の背景やスクリーンセーバー（電源を入れたままでコンピューターを長時間使わないときに画面の焼き付きを防ぐために現れる画像）などを変えて、自分に合った環境で使うことができます。操作環境の変更は、Windows 95のコントロールパネルで行います。

コントロールパネルとは

操作環境やハードウェアの環境を設定するためにWindows 95に標準で装備されているツールです。

コントロールパネルを開くには、［スタート］メニューから［設定］にポインターを合わせ、［コントロールパネル］をクリックします。
設定したい項目のアイコンをダブルクリックして項目のウィンドウを開き、設定を変えます。



ディスプレイの設定を変更する

画面の背景、ウィンドウの枠の色、ディスプレイの解像度などの設定を変更するには以下の手順に従ってください。

1 **［スタート］メニューから［設定］にポインターを合わせ、［コントロールパネル］をクリックする。**
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

2 **［画面］をダブルクリックする。**
「画面のプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。

3 **［背景］、［スクリーンセーバー］、［デザイン］、［調整］、［パン］、［色］、［ディスプレイの詳細］の設定画面をそれぞれ選び、各種の設定を行う。**
設定画面を選ぶときは、それぞれの画面のタブをクリックします。

4 **設定が終了したら、［OK］または［更新］をクリックする。**
手順3で変更した設定が反映されます。

次のページにつづく

各画面の設定項目については、以下のページをご覧ください。

❑ **背景（140ページ）**
画面の背景について設定する画面です。

❑ **スクリーンセーバー（141ページ）**
スクリーンセーバー、省電力機能について設定する画面です。

❑ **デザイン（142ページ）**
ウィンドウやメニューの枠の色について設定する画面です。

❑ **調整（143ページ）**
映像出力信号の調整を行う画面です。

❑ **パン（144ページ）**
パン操作のためのキーを設定する画面です。

❑ **色（145ページ）**
ディスプレイの色の補正を行うための画面です。

❑ **ディスプレイの詳細（146ページ）**
解像度や画面上の文字のサイズなどについて設定する画面です。

背景

❑ **模様**
表示したい模様をクリックして選ぶ。
[模様の編集]: クリックすると、選んだ模様を編集するウィンドウを開く。

❑ **壁紙**
表示したい壁紙をクリックして選ぶ。

[参照]: クリックすると、壁紙にできる画像ファイルを検索するウィンドウを開く。

表示位置: ラジオボタンをクリックして、壁紙の表示位置を選ぶ。

全体: 壁紙が画面全体に表示される。

中央: 壁紙が画面の中央に表示される。

スクリーンセーバー

❑ スクリーンセーバー

ドロップダウンリスト: 使用するスクリーンセーバーをリストから選ぶ。

[設定]: クリックすると、選んだスクリーンセーバーを設定するウィンドウが開く。

[プレビュー]: クリックすると、設定したスクリーンセーバーを画面全体に表示する。

パスワードによる保護: チェックボックスをクリックすると、スクリーンセーバーをパスワードで保護する。

[パスワードの変更]: クリックすると、スクリーンセーバーを保護するパスワードを設定する。

実行までの待ち時間: 本機を何分間使わなかったらスクリーンセーバーを画面に表示するかを選ぶ。

❑ ディスプレイの省電力機能

低電力スタンバイ: チェックボックスをクリックしてから時間を選ぶと、設定した時間、マウスやキーボードを使わない場合に、ディスプレイが低電力で動作し、電力の浪費を防ぐ。

次のページにつづく

電源断: チェックボックスをクリックしてから時間を選ぶと、設定した時間、マウスやキーボードを使わない場合に、ディスプレイの電源が自動的に切れる。

スクリーンセーバーが設定されているときは、スクリーンセーバー実行後、「実行での待ち時間」で設定した時間が経過すると、省電力機能が実行されます。

デザイン

❑ 配色

ドロップダウンリスト: 画面に表示されるウィンドウやメニューの枠の色をリストから選ぶ。

[登録]: クリックすると、作成した配色を名前をつけて登録するウィンドウを開く。

[削除]: 名前をつけて登録した配色を削除する。

❑ 指定する部分

ドロップダウンリスト:「配色」の設定を有効にする部分を選ぶ。

サイズ: 指定する部分の大きさを選ぶ。

色: 指定する部分の色を選ぶ。

❑ フォント

ドロップダウンリスト: 画面に表示されるウィンドウやメニューの文字の種類をリストから選ぶ。

サイズ: 文字の大きさを選ぶ。

色: 文字の色を選ぶ。

B: クリックすると、文字が太くなる。

I: クリックすると、文字が斜体になる。

調整

映像出力信号の調整を行う画面です。

❑ ここをクリックすると、テストパターンを行います

クリックすると、6つの画面のパターンを表示する。

❑ 出力デバイス

調整を行うディスプレイをドロップダウンリストから選ぶ。

❑ 調整

位置: 矢印をクリックして、画面表示の位置を移動する。
サイズ: 矢印をクリックして、画面表示サイズを拡大または縮小する。
クリックすると、一時的にディスプレイの電源が切れます。

❑ モニタのモード

解像度: 現在選ばれている画面の解像度を表示する。
色数: 現在選ばれている画面の色数（各ピクセルのビット数）を表示する。
水平周波数: 現在の水平周波数を表示する。
垂直周波数: 現在の垂直周波数を表示する。

❑ 同期

水平: 水平同期の極性を変更する。
垂直: 垂直同期の極性を変更する。
合成: クリックすると、コンポジット同期信号を出力する。
変更すると、一時的にディスプレイの電源が切れます。

❑ [初期設定]

クリックすると、「調節」のすべての設定値を推奨値または初期状態に戻すためのウィンドウを開く。

次のページにつづく

❑ **[リフレッシュレート変更]**

クリックすると、それぞれの解像度で使用する周波数を設定するウィンドウを開く。

パン

「パン」とは、仮想デスクトップ使用中に表示される画面を上下左右に動かすことです。パンするには、上下左右、それぞれに画面を動かすためのキーの組み合わせを「ホットキーコントロール」であらかじめ設定しておき、実際の画面上で設定したキーを同時に押します。

❑ **ホットキーコントロール**

名前: キーの組み合わせ（ホットキー）を割り当てる動作をクリックして選ぶ。

値:「名前」で選んだ動作に対応するキーの組み合わせを設定する。

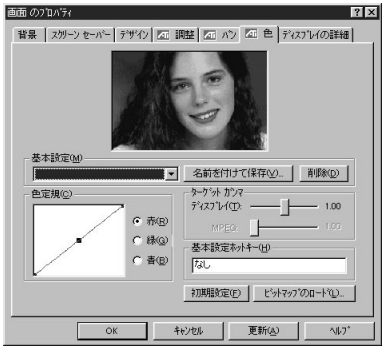
説明:「名前」で選んでいる動作の説明を表示する。

❑ **[初期設定]**

キーの組み合わせを初期設定の組み合わせに戻す。

色

ディスプレイの色の補正を行うための画面です。グラフィックの編集をするときなどに画面に表示される色を調整できます。



❑ 基本設定

ドロップダウンリスト:「色」の設定値の組み合わせをリストから選ぶ。
[名前を付けて保存]: 現在の設定値の組み合わせを保存する。
[削除]: 指定した設定値の組み合わせを削除する。

❑ 色定規

色を構成する3要素である赤、緑、青の発色を調整する。赤、緑、青それぞれのラジオボタンをクリックし、定規をドラッグして調整します。

❑ ターゲットガンマ

スライダーを動かして、ディスプレイのカラー照度とコントラストを調整する。値が高いほどカラー照度とコントラストは高くなります。
(MPEGのスライダーは本機では使用できません。)

❑ 基本設定ホットキー

現在の設定値の組み合わせを呼び出すキーの組み合わせ(ホットキー)指定する。

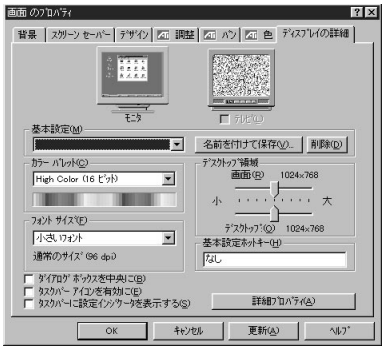
❑ [初期設定]

「色」のすべての設定値を初期状態に戻す。

❑ [ビットマップのロード]

画面上部に表示されるビットマップの画像を変更する。

ディスプレイの詳細



❑ テレビ

テレビを本機につないだとき「テレビ」のチェックボックスをクリックすれば、テレビ出力が有効になる。(「テレビ」のチェックボックスはディスプレイの解像度が640 × 480または800 × 600のときのみ選べます。ディスプレイの解像度は「デスクトップ領域」で選択します。)

❑ 基本設定

ドロップダウンリスト:「ディスプレイの詳細」の設定値の組み合わせをリストから選ぶ。

[名前を付けて保存]: 現在の設定値の組み合わせを保存する。

[削除]: 指定した設定値の組み合わせを削除する。

❑ カラーパレット

ドロップダウンリスト: 画面の表示色数をリストから選ぶ。

ご注意

本機ではHigh Color (16ビット) での動作を確認しています。

❑ フォントサイズ

ドロップダウンリスト: 画面に表示される文字の大きさの大小をリストから選ぶ。(解像度が640 × 480ドットより大きい場合のみ選べます。解像度について詳しくは、「デスクトップ領域」をご覧ください。)

❑ デスクトップ領域

画面: スライダーをずらして画面の解像度を設定する。

デスクトップ: スライダーをずらして仮想デスクトップの大きさを設定する。

ご注意

本機では画面解像度が1024 × 768での動作を確認しています。

❑ **基本設定ホットキー**

現在の設定値の組み合わせを呼び出すキーの組み合わせ（ホットキー）を指定する。

❑ **ダイアログボックスを中央に**

チェックボックスをクリックすると、画面に表示されるメッセージ（ダイアログボックス）が画面の中央で開くように設定する。仮想デスクトップサイズを設定しているときに便利です。

❑ **タスクバーアイコンを有効に**

チェックボックスをクリックすると、グラフィックドライバーのヘルプ画面を開くアイコンをWindows 95のタスクバーに表示する。

❑ **タスクバーに設定インジケータを表示する**

チェックボックスをクリックすると、設定インジケーターをWindows 95のタスクバーに表示する。

❑ **［詳細プロパティ］**

グラフィックアダプターとディスプレイの種類の変更を行うウィンドウを開く。

音質の設定を変更する

MIDIに対応した音楽データやゲームのBGMなどの音質を設定します。

1 **［スタート］メニューから［設定］にポインターを合わせ、［コントロールパネル］をクリックする。**

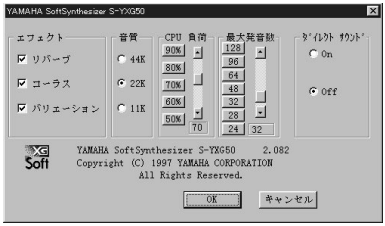
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

2 **[XG Synth Driver] をダブルクリックする。**

「YAMAHA SoftSynthesizer S-YXG50」ダイアログボックスが表示されます。

次のページにつづく

3 各種の設定を行う。



❑ エフェクト

各種エフェクト効果の入／切ができます。

リバーブ: チェックボックスをチェックすると、残響効果を加える。

コーラス: チェックボックスをチェックすると、奥行きや厚みといった音響効果を加える。

バリエーション: チェックボックスをチェックすると、さまざまな音響効果を加える。

❑ 音質

ラジオボタンをクリックして、再生する音声のサンプリング周波数（音声波形のきめ細かさ）を選ぶ。値が大きいほど音質が良くなります。

❑ CPU負荷

CPUの占有率をクリックして選ぶ。値が大きいほど音質が良くなります。

❑ 最大発音数

最大発音数をクリックして選ぶ。

❑ ダイレクトサウンド

ラジオボタンをクリックして、マイクロソフト社のダイレクトサウンドの使用を入／切する。ダイレクトサウンドに対応したゲームを使用する場合は「On」を選ぶ。

4 設定が終了したら、[OK] をクリックする。

手順3で変更した設定が反映されます。

モデムのATコマンド表

本機に内蔵されているモデムは、ATコマンドというコマンド体系を採用しています。ここでは、本機に内蔵されているモデムへ送るATコマンドとレジスターの機能の一覧を示します。

コマンド一覧

一覧の見方

- コマンド欄のpは数値型のパラメーター、qqは文字型のパラメーターを示します。
- パラメーター欄で□で囲まれている値が初期値です。初期値は本機の電源を入れた直後のハードウェア上の値です。

コマンド	働き	パラメーター
+++	回線を接続したままエスケープモードに移行する。	—
A/	直前に実行したコマンドを再実行する。	—
ATA	アンサーモードで回線に接続する（強制着信）。	—
ATBp	使用する通信規格を設定する。	0：ITU-T V.22規格（1200bps） [1]：BELL 212A規格（1200bps） 15：ITU-T V.21規格（300bps） [16]：BELL 103J規格（300bps）
AT&Bp	オートリトレインを設定する。	[1]：オートリトレイン有効
AT%B	最後に失敗した呼び出しの電話番号を表示する。	—
ATCp	キャリア送信を設定する。	[1]：通常送信キャリア切り換え

次のページにつづく

コマンド	働き	パラメーター
AT&Cp	キャリア検出（CD）信号の動作を設定する。	0 :常にON [1] :相手モデムのキャリアにしたがう。
AT-Cp	データ呼出しトーンを設定する。（V.25モードのときのみ）	[0] :データ呼出しトーン無効 1 :データ呼出しトーン有効
AT%Cp	データ圧縮モードを設定する。	0 :データ圧縮モードを使用しない。 1 :MNP5のデータ圧縮モードを使用する。 2 :V.42bisのデータ圧縮モードを使用する。 3 :V.42bis/MNP5のデータ圧縮モードを使用する。
ATDqq	指定した電話番号をダイヤル発信する。	0-9、#、＊: 電話番号 ,（カンマ）: ポーズ ;（セミコロン）: ダイヤル終了後コマンド待ち ！ :0.5秒のオンフック P :パルス式ダイヤルを指定 T :トーン式ダイヤルを指定 @ :無音の検出 S=p :AT&Zpコマンドで記憶させた番号をダイヤル（p=0～3） W :ダイヤルトーンの検出 L :直前の番号を再ダイヤル V :スピーカーホンモードでダイヤル ^ :データ呼出しトーン送信無効 $:ボングトーン検出
AT&Dp	データターミナルレディ（DTR、ER）信号によるモデムの動作を設定する。	0 :常にONとみなす。 1 :接続中にOFFになると回線を接続したままコマンド待ち [2] :ONからOFFになると回線切断 3 :ONからOFFになると回線切断してソフトリセット
ATEp	コマンドのエコーバックの有無を設定する。	0 :エコーバックしない。 [1] :エコーバックする。
ATFp	ローカルエコーバックの有無を設定する。	[1] :ローカルエコーバックしない。

コマンド	働き	パラメーター
AT&Fp	工場出荷時の設定にリセットする。	0 : すべての設定を工場出荷時の設定に戻す。
AT&Gp	ガードトーンに関する設定をする。	[0] : ガードトーンなし 1 : 550Hzのガードトーン 2 : 1800Hzのガードトーン
AT¥Gp	モデムポートのフロー制御を設定する。	[0] : フロー制御する。
ATHp	電話回線を切断／接続する。	[0] : 回線を切断（オンフック） 1 : 回線を接続（オフフック）
ATIp	製品情報を表示する。	0 : 既定スピードと製品バージョンを表示 1 : ROMのチェックサムを表示 2 : ROMのチェック結果を表示 3 : 既定スピードと製品バージョンを表示 4 : 製品バージョンを表示 9 : 国別コードを表示
AT&Jp	補助リレーのオプション設定をする。	[0] : 補助リレーは常に開く。
AT¥Jp	DTEデータ速度の自動調節を設定する。	[0] : ターミナルスピード一定 1 : DTEとモデム間のスピード調節をする。
AT&Kp	送信データのフロー制御方式を指定する。	0 : フロー制御しない。 [3] : RTS/CTS信号によるフロー制御をする。 4 : XON/XOFFによるフロー制御をする。
AT¥Kp	ブレーク信号受信時のモデム動作設定する。	[5] : データに続けてリモートモデムにブレーク信号を送出する。
ATLp	内蔵スピーカーの音量を調節する。	0 : 小 1 : 小 [2] : 中 3 : 大

次のページにつづく

コマンド	働き	パラメーター
ATMp	内蔵スピーカーの動作を設定する。	0 :常にOFF [1] :キャリア検出までON 2 :オフフック中、常にON 3 :ダイヤル開始後からキャリア検出までON
AT&Mp	非同期通信するかどうか指定する。	[0] :非同期通信する。
ATNp	フォールバックを設定する。	0 :ハンドシェーク時にフォールバックしない。 [1] :ハンドシェーク時にフォールバックする。
AT¥Np	エラー訂正に関する設定をする。	0 :バッファモード（エラー訂正しない） 1 :ダイレクトモード 2 :MNP（エラー訂正あり）モードで接続、失敗したら回線を切断 [3] :V.42（エラー訂正あり）モードで接続、失敗したらMNPモードで接続、さらに失敗したらバッファモードで接続 4 :V.42（エラー訂正あり）モードで接続、失敗したら回線を切断 5 :¥N3と同じ 7 :¥N3と同じ
ATOp	エスケープモードから通信状態に復帰する。	[0] :通信状態に復帰 1 :オートリトレイン後通信状態に復帰 3 :レート再交渉後通信状態に復帰
ATP	ダイヤル信号をパルス方式に設定する。	—
AT&Pp	パルス式ダイヤルのダイヤルスピードを設定する。	0 :10pps [1] :10pps 2 :20pps
ATQp	リザルトコードを表示するかどうか指定する。	[0] :表示する。 1 :表示しない。

コマンド	働き	パラメーター
AT&Qp	データ通信形式を選択する。	0 :非同期通信モード [5] :エラー訂正モード 6 :&Q0と同じ 8 :MNP通信エラー訂正モード 9 :V.42またはMNP通信エラー訂正モード
AT¥Qp	DTE（パソコン）とDCE（モデム）間のフロー制御を設定する。	0 :フロー制御しない。 1 :XON/XOFFによるフロー制御をする。 [3] :RTS/CTS信号からDTEへのハードフロー制御をする。
AT&Sp	データセットレディ（DSR、DR）信号の動作を設定する。	[0] :常にON 1 :接続確立時でON、切断時でOFF
ATT	ダイヤル信号をトーン方式に設定する。	—
AT&Tp	モデムと回線のテストをする。	0 :テストを中止する。 1 :ローカルアナログループバックテスト 3 :ローカルデジタルループバックテスト 6 :リモートデジタルループバックテスト
AT¥Tp	無通信時における回線切断タイマを設定する。	P :0～255（単位：分） （0のときはタイマは動作しない）
ATVp	リザルトコードの表示形式を設定する。	0 :数値コードで表示 [1] :文字列で表示
AT&Vp	アクティブなプロファイルを表示するかどうかを設定する。	0 :アクティブなプロファイルを表示する。
AT¥Vp	プロトコルリザルトコードを設定する。	0 :表示しない。 [1] :DCE（モデム）スピードの後にプロトコルリザルトコードを追加する。 2 :¥V1と同じ

次のページにつづく

コマンド	働き	パラメーター
ATWp	リザルトコードのオプションを設定する。	0 :CONNECTリザルトコードはDTEスピード、プロトコルリザルトコード無効 1 :CONNECTリザルトコードはDTEスピード、プロトコルリザルトコード有効 [2] :CONNECTリザルトコードはDCEスピード、プロトコルリザルトコード有効
AT&Wp	現在の設定状態を不揮発性メモリーに保存する。	[0] :プロファイル0に書き込む。
ATXp	リザルトコードの表示内容を設定する。	0 :通信速度表示なし、ビジー、ダイヤルトーン検出なし 1 :通信速度表示あり、ビジー、ダイヤルトーン検出なし 2 :通信速度表示あり、ビジートーン検出なし、ダイヤルトーン検出あり 3 :通信速度表示あり、ビジートーン検出あり、ダイヤルトーン検出なし [4] :通信速度表示あり、ビジー、ダイヤルトーン検出あり 5 :X4と同じ 6 :X4と同じ 7 :通信速度表示なし、ビジー、ダイヤルトーン検出あり
AT¥Xp	XON/XOFF透過を設定する。	[0] :透過しない。 1 :透過する。
ATYp	ロングスペース受信時の動作を設定する。	[0] :ロングスペースで回線を切断しない。
AT&Yp	電源を入れたときのメモリを設定する。	[0] :電源を入れたとき、プロファイル0の内容でモデムを設定する。
ATZp	モデムをリセットする。	[0] :不揮発性メモリーの設定値でリセット

コマンド	働き	パラメーター
AT&Zp=qq	電話番号を不揮発性メモリーに保存する。（保存した電話番号にダイヤルするときはDコマンドのSpパラメーターを使用する。）	[p] : メモリー番号（0～3の数値） qq : 電話番号
–SSE	DSVDを設定する。	[0] : DSVD無効 1 : DSVD有効

レジスターの機能一覧

レジスター	機能	設定値の範囲
S0	自動着信までの呼び出し音の回数を設定	0～255　初期値0 0：自動着信無効
S1	リングの回数カウント（読み出しのみ）	0～255　初期値0
S2	エスケープコードの設定	0～255　初期値43（＋）
S3	CR（復帰）コードの設定	0～127　初期値13
S4	LF（改行）コードの設定	0～127　初期値10
S5	BS（バックスペース）コードの設定	0～32、127　初期値8
S6	ダイヤルトーン検出待ち時間（秒単位）の設定	2～65　初期値2（2秒）
S7	キャリア検出待ち時間（秒単位）の設定	1～255　初期値50（50秒）
S8	カンマ（,）によるポーズ時間（秒単位）の設定	0～65　初期値2（2秒）
S10	自動切断までの時間（100ミリ秒単位）の設定	1～254　初期値20（2秒）
S11	DTMFダイヤル速度（1ミリ秒単位）の設定	50～150　初期値95（0.095秒）
S12	エスケープコード入力間隔と識別時間（ガードタイム、20ミリ秒単位）の設定	0～255　初期値50（1秒）
S30	無通信回線切断タイマー（秒単位）の設定	0～255　初期値0（0秒）
S32	呼び出し音ボリュームの設定	初期値16
S33	呼び出し音回数の設定	0～5　初期値0
S35	V.25データ呼び出しトーンの設定	初期値0 0：無効 1：有効

レジスター	機能	設定値の範囲
S36	フォールバックの設定	初期値7 0、2：回線を切断する。 1、3：非同期通信モードで接続する。 4、6：MNPモードで接続、失敗したら回線を切断する。 5、7：MNPモードで接続、失敗したら非同期通信モードで接続する。
S37	ダイヤル回線レートの設定	初期値0 0 ：最大モデムスピード 2 ：1200bpsと75bps 3 ：300bps 5 ：1200bps 6 ：2400bps 7 ：4800bps 8 ：7200bps 9 ：9600bps 10：12000bps 11：14400bps 12：16800bps 13：19200bps 14：21600bps 15：24000bps 16：26400bps 17：28800bps 18：31200bps 19：33600bps

次のページにつづく

レジスター	機能	設定値の範囲
S38	56Kダイヤル回線レートの設定	初期値1 0 ：56K通信無効 1 ：最大モデムスピード（自動選択） 2 ：32000bps 3 ：34000bps 4 ：36000bps 5 ：38000bps 6 ：40000bps 7 ：42000bps 8 ：44000bps 9 ：46000bps 10：48000bps 11：50000bps 12：52000bps 13：54000bps 14：56000bps 15：58000bps 16：60000bps
S48	LAPMエラー訂正の設定	初期値7 7 ：ネゴシエーション有効 128：ネゴシエーション無効（強制フォールバック）
S89	スリープモードタイマー（秒単位）の設定	0、5～255　初期値10（10秒）
S90	内線状態の設定	0：内線オンフック 1：内線オフフック
S91	送信レベル（dB単位）の設定（日本のみ）	6～15　初期値15（15dB）

その他

第3章

使用上のご注意

本機の取り扱いについて

- 衝撃を加えたり、落としたりしないでください。記録したデータが消失したり、本機の故障の原因となります。
- 直射日光が当たる場所、暖房器具の近くなど、異常な高温になる場所には置かないでください。故障の原因となることがあります。
- クリップなどの金属物を本機の中に入れないでください。
- 振動する場所や不安定な場所では使用しないでください。
- ほこりが多い場所では使用しないでください。
- 湿気が多い場所では使用しないでください。
- 風通しが悪い場所では使用しないでください。

結露について

結露とは空気中の水分が金属の板などに付着し、水滴となる現象です。本機を寒い場所から急に暖かい場所に持ち込んだときや、冬の朝など暖房を入れたばかりの部屋などで、本機の表面や内部に結露が起こることがあります。そのままご使用になると故障の原因となります。結露が起きたときは、結露がなくなるまで電源を入れずに放置してください。

ハードディスクの取り扱いについて

ハードディスクは、フロッピーディスクに比べて記憶密度が高く、データの書き込みや読み出しに要する時間も短いという特長があります。その一方、本来はほこりや振動に弱い装置でもあります。また、フロッピーディスク同様に磁気を帯びた物に近い場所での使用は避けなければなりません。

ハードディスクにはほこりや振動からデータを守るための安全機構が組み込まれていますが、記憶したデータを失ってしまうことのないよう、次の点に特にご注意ください。

- 振動する場所や不安定な場所では使用しないでください。
- 電源を入れたまま、本機を動かさないでください。
- データの書き込み中や読み込み中は、電源を切ったり再起動したりしないでください。
- 急激な温度変化 (毎時10℃以上の変化) のある場所では使用しないでください。

何らかの原因でハードディスクが故障した場合、データの修復はできませんのでご注意ください。

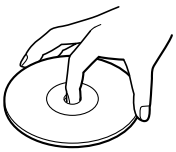
バックアップを取る

ハードディスクは非常に多くのデータを保存することができますが、その反面、ひとたび事故で故障すると多量のデータが失われ、取り返しのつかないことになります。万一のためにも、ハードディスクの内容は定期的にバックアップを取ることをおすすめします。ソフトウェアはオリジナルがCD-ROMやフロッピーディスクにありますので、バックアップが必要なのはデータなどです。ハードディスクのバックアップ、バックアップの内容の戻しかたについて詳しくは、Windows 95のヘルプをお読みください。

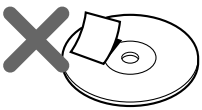
CD-ROM／CD-Rディスクの取り扱いについて

CD-ROM／CD-Rディスクに記録されているデータなどを保護するため、次のことにご注意ください。

- ディスクは外縁を支えるようにして持ちます。CD-Rは記録面が汚れると、データの書き込みができなくなります。記録面には触れないでください。



- 紙などを貼ったり、傷つけたりしないでください。

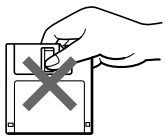


- ほこりやちりの多いところ、直射日光の当たるところ、暖房器具の近く、湿気の多いところには保管しないでください。
- ディスクに液体をこぼさないでください。
- 大切なデータを守るため、ディスクは必ずケースなどに入れて保管してください。

フロッピーディスクの取り扱いについて

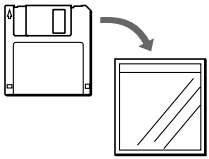
フロッピーディスクに記録されているデータなどを保護するため、次のことにご注意ください。

- テレビやスピーカー、磁石などの磁気を帯びたものに近づけないでください。フロッピーディスクに記録されているデータが消えてしまうことがあります。
- 直射日光のあたる場所や、暖房器具の近くに放置しないでください。フロッピーディスクが変形し、使用できなくなります。
- 手でシャッターを開けてディスクの表面に触れないでください。フロッピーディスクの表面の汚れや傷により、データの読み書きができなくなることがあります。



次のページにつづく

- フロッピーディスクに液体をこぼさないでください。
- 大切なデータを守るため、フロッピーディスクは必ずケースなどに入れて保管してください。



トレイアダプターとキャディの取り扱いについて

- トレイアダプターやキャディを落としたり、強い衝撃を与えたりしないでください。
- トレイアダプターやキャディはCD-ROM／CD-Rドライブに挿入されると自動的にシャッターが開くようになっています。シャッターを手で開けないでください。
- トレイアダプターやキャディは工場出荷時に精密に調整してありますので、分解しないでください。
- 本機を移動するときは、CD-ROM／CD-Rドライブ内にトレイアダプターやキャディを入れたままにしないでください。必ず取り出してください。
- ほこりやちりの多いところ、直射日光の当たるところ、暖房器具の近く、湿気の多いところには保管しないでください。

コンピューターウイルスについて

コンピューターウイルスとは、コンピューターの中のファイルやプログラムに悪影響を与えるプログラムのことです。ほとんどがいたずら半分で作成されたものですが、下記の「コンピューターウイルスに侵入されると...」に見られるような被害が起きてしまいます。
コンピューターウイルスは他のプログラムと異なり、それ自体が増殖し、データのコピーなどを通じて他のコンピューターにも悪影響を及ぼしていきます。

コンピューターウイルスに侵入されると...

- 意味不明なメッセージや、ウイルスが侵入したことを知らせるメッセージが画面上に表示される。
- ファイルがかってに消去される。
- ハードディスク上の情報が意味のないものに書き換えられる。
- 画面上に意味のないものが表示される。
- ハードディスク上の空き容量が急に小さくなる。

コンピューターウイルスを侵入させないためには

- 見知らぬ人から送られてきた、またはネットワーク経由で入手した文書は必ずウイルスチェックをしてください。

- コンピューターウイルスはフロッピーディスクなどを介して広がることがありますので、他人のフロッピーディスクなどを使うときはご注意ください。フロッピーディスクなどのデータを共有する場合は、共有する人を限定してください。

ウイルスが侵入して被害を受けてしまったときに備えて、日頃から作成した文書の控えをとる習慣をつけましょう。

ソフトウェアの不正コピー禁止について

本機に付属のソフトウェアは、ライセンスあるいはロイヤリティ契約のもとに供給されています。これらのソフトウェアを不正にコピーすることは法律で禁止されています。
また、店頭で購入したソフトウェアを人に貸したり、人からソフトウェアを借りてコピーして使うことは原則として禁じられています。ソフトウェアの使用許諾契約書をよくお読みのうえ、お使いください。

データのバックアップについて

ハードディスクドライブに保存している文書などのデータは、定期的にバックアップをとるようおすすめします。データの損失については、一切責任を負いかねます。

ソフトウェアと周辺機器の動作について

一般的にWindows 95用、DOS/V用、PC/AT互換機用などと表記している市販ソフトウェアや周辺機器の中には、本機で使用できないものがあります。
ご購入に際しては、販売店または各ソフトウェアおよび周辺機器の販売元にご確認ください。
市販ソフトウェアおよび周辺機器を使用された場合の不具合や、その結果生じた損失については、一切責任を負いかねます。

お手入れ

本機やディスプレイのお手入れ

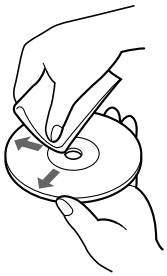
本機やディスプレイについたゴミやほこりなどは、乾いた布で軽く拭き取ってください。

ご注意

- 本機やディスプレイの電源を切ってからお手入れをしてください。
- 濡れたもので本機やディスプレイを拭かないでください。内部に水が入ると故障の原因となります。
- アルコールやシンナーなど揮発性のものは、表面の仕上げを傷めますので使わないでください。化学ぞうきんをお使いになるときはその注意書に従ってください。

CD-ROMディスクのお手入れ

- 指紋やほこりによるディスクの汚れは、読み取りエラーの原因になります。いつもきれいにしておきましょう。
- ふだんのお手入れは、柔らかい布でディスクの中心から外の方向へ軽く拭きます。



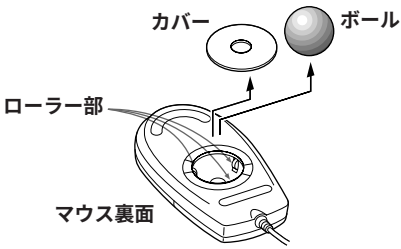
- 汚れがひどいときは、水で少し湿らせた布で拭いたあと、さらに乾いた布で水気を拭き取ってください。
- ベンジンやレコードクリーナー、静電気防止剤などはディスクを傷めることがありますので、使わないでください。

CD-Rディスクのお手入れ

- CD-Rディスクは、データを記録する前には絶対にクリーナーで拭かないでください。ほこりなどの汚れは、ブロワーを使って吹き飛ばしてください。
- ベンジンやシンナー、静電気防止剤などはディスクを傷めることがありますので、使わないでください。
- CD-Rの未記録部分にキズやほこりがあると正しいデータが記録できないことがあります。取り扱いには充分ご注意ください。

マウスを掃除する

マウスは長く使っていると、内部にゴミやほこりなどがたまり、画面上のポインターが思うように動かなくなります。この場合は、マウスの裏面のカバーを取りはずし、ボールを取り出して内部を掃除します。



- 乾いた布で内部のゴミやほこりなどを取り除いてから綿棒でローラー部のゴミをこすり取ってください。
- 表面のゴミやほこりなどは、乾いた布で軽く拭き取ってください。

ご注意

- 本機の電源を切り、マウスを本機から取りはずしてからマウスを掃除してください。
- 濡れたものでマウスを拭かないでください。内部に水が入ると故障の原因となります。
- アルコールやシンナーなど揮発性のものは、表面の仕上げを傷めますので使わないでください。化学ぞうきんをお使いになるときはその注意書に従ってください。

キーボードを掃除する

キーボードは長く使っていると、キーが汚れたり、キーの間にゴミやほこりがたまります。キーの間にゴミやほこりがたまると、キーを押しても目的の文字を入力できなくなったり、押したキーがへこんだまま元に戻らなくなることがあります。この場合は、キーボードを掃除します。

- 表面のゴミやほこりなどは、乾いた布で軽く拭き取ってください。
- キーの側面は、綿棒でこすり取ってください。
- キーの間は、エア・スプレーなどでゴミやほこりを散らしてください。

ご注意

- 本機の電源を切り、キーボードを本機から取りはずしてからキーボードを掃除してください。
- 濡れたものでキーボードを拭かないでください。内部に水が入ると故障の原因となります。
- アルコールやシンナーなど揮発性のものは、表面の仕上げを傷めますので使わないでください。化学ぞうきんをお使いになるときはその注意書に従ってください。

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品は保証書が添付されていますので、お買い上げの際、お買い上げ店からお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より3ヶ月間です。カスタマー登録していただいたお客様は1年間になります。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この取扱説明書をもう1度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときはITテクニカルレスポンスセンターへご連絡ください

ITテクニカルレスポンスセンターについては、添付の「VAIOサービス・サポートのご案内」をご覧ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。
詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料で修理させていただきます。

修理について

当社ではパーソナルコンピューターの修理は引取修理を行っています。
当社指定業者がお客様宅に修理機器をお引き取りにうかがい、修理完了後にお届けします。詳しくは添付の「VAIOサービス・サポートのご案内」をご覧ください。

データのバックアップのお願い

修理に出すまえに、ハードディスクなどの記録媒体のプログラムおよびデータは、お客様にてバックアップされますようお願いいたします。弊社の修理により、ハードディスクなどのプログラムおよびデータが万一消去あるいは変更された場合に関しても、弊社は一切の責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
なお、ハードディスクなどの記録媒体そのものの故障の場合には、プログラムおよびデータの修復はできません。

交換部品の所有権について

修理によって交換された旧部品は、弊社の所有となりますので、あらかじめご了承ください。

部品の保有期間について

当社ではパーソナルコンピューターの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後最低8年間保有しています。この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。保有期間が経過したあとも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、お買い上げ店か、ITテクニカルレスポンスセンター修理窓口にご相談ください。

ご相談になるときは次のことをお知らせください。

- **型名：**PCV-T710MRまたはPCV-T510R
- **製造番号：**
- **故障の状態：できるだけ詳しく**
- **購入年月日：**

主な仕様

プロセッサー

Pentium® II 266 MHzプロセッサー
（PCV-T710MR）
Pentium® II 233 MHzプロセッサー
（PCV-T510R）

2次キャッシュ

512Kバイト

メインメモリー

標準64Mバイト（PCV-T710MR）
標準32Mバイト（PCV-T510R）
最大192Mバイトまで拡張可能

拡張メモリースロット

168ピン DIMM × 3（空き1）（PCV-T710MR）
168ピン DIMM × 3（空き2）（PCV-T510R）

グラフィックアクセラレーター

ATI 3D RAGE™ PRO

ビデオメモリー

4Mバイト

表示モード

1,280 × 1,024ドット（1677万色）
1,152 × 864ドット（1677万色）
1,024 × 768ドット（1677万色）
848 × 480ドット（1677万色）
800 × 600ドット（1677万色）
720 × 480ドット（1677万色）
640 × 480ドット（1677万色）

フロッピーディスクドライブ

3.5インチ、1.44Mバイト／1.2Mバイト／720Kバイト

ハードディスクディスクドライブ

6.4Gバイト（PCV-T710MR）
4.3Gバイト（PCV-T510R）

CD-ROM／CD-Rドライブ

読み出し8倍速、書き込み2倍速、CD-R FS対応（ATAPI）

MPEG1 リアルタイムエンコーダーボード ビデオキャプチャー機能（PCV-T710MRのみ）

TVチューナー付き（1〜62チャンネル、ステレオ、2か国語）S-ビデオ、コンポジット入力端子
圧縮モードを選択可能
“High” 2.38Mbps／320 × 240／30fps
“Normal”（ビデオCD相当）1.41Mbps／352 × 240／30fps
“Long” 478Kbps／160 × 112／30fps
“Network” 124.4Kbps／112 × 80／10fps
静止画 704 × 480
MPEG1オーディオ（Layer 2）対応

外部接続端子（前面）（PCV-T710MRのみ）

VIDEO 2 INPUT

S VIDEO
ミニDIN4ピン（1）

VIDEO
ピンジャック（1）

AUDIO L/R
ピンジャック（左・右）（2）

外部接続端子（後面）

KEYBOARD
PS／2、ミニDIN6ピン（1）

MOUSE
PS／2、ミニDIN6ピン（1）

SERIAL 1／2
RS-232C、D-SUB9ピン（2）

PRINTER
セントロニクス社インターフェース準拠、
D-SUB25 ピン（1）

次のページにつづく

USB
4ピン (2)
LINE IN
ステレオミニジャック (1)
PHONES
ステレオミニジャック (1)
MIC
モノラルミニジャック (1)
GAME
D-SUB15ピン (1)
MONITOR
VGAタイプ、15ピン
VIDEO 1 INPUT (PCV-T710MR**のみ**)
S VIDEO
ミニDIN4ピン (1)
VIDEO
ピンジャック (1)
AUDIO L/R
ピンジャック (左・右) (2)
VIDEO OUT
ピンジャック (1)
S VIDEO OUT
ミニDIN4ピン (1)
VHF/UHF (PCV-T710MR**のみ**)
VHF／UHF1軸、75Ω F型コネクター (1)
DV IN OUT
4ピン特殊コネクター、IEEE1394準拠 (1)
LINE
モジュラージャック (1)
TELEPHONE
モジュラージャック (1)

拡張スロット

PCV-T710MR　PCI/ISA × 1
PCV-T510R　PCI/ISA × 1、PCI × 1

オーディオ機能

OAK OTI-610 (AC97準拠)

内蔵ファックスモデム

56,000bps (K56Flex) ／14,400bps (ファックス時)、ボイス機能対応、ハンズフリー電話機能対応

キーボード

OADG準拠、109キーボード

電源・その他

電源
AC 100V±10% (50／60 Hz)
消費電力
最大220W
動作温度
5℃～40℃ (温度勾配10℃／時以下)
動作湿度
30%～80% (結露のないこと)
保存温度
–20℃～60℃ (温度勾配10℃／時以下)
保存湿度
20%～90% (結露のないこと)
外形寸法
本体: 約225 × 367.9 × 451.5 mm (幅／高さ／奥行き)
キーボード: 約480 × 37 × 190 mm (幅／高さ／奥行き、最大突起部を含まず)
質量
本体: 約13.2 kg
キーボード: 約1.65 kg

付属品

「付属品を確認してください」をご覧ください。

仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますがご了承ください。

高調波電流規制について
この装置の本体およびディスプレイは、高調波ガイドライン適合品です。

リカバリーCDで本機を再セットアップする

ここでは付属のProduct Recovery CD-ROM（以降、リカバリーCDと略します）を使って、本機を再セットアップする方法を説明します。

リカバリーCDとは

リカバリーCDには、工場出荷時のハードディスク中のすべてのファイルが保存されています。誤ってハードディスクを初期化してしまったり、プリインストールされているソフトウェアを消してしまった場合には、リカバリーCDを使ってハードディスクの内容を工場出荷時の状態に戻すことができます。

リカバリーCDを使うと、次のことができます。

- ハードディスクを初期化したうえで、すべてのファイルを復元する。
- ハードディスクを初期化せずに、すべてのファイルを復元する。

ご注意

- このリカバリーCDは本機でのみ使用できます。他の製品では動作しません。
- このリカバリーCDで再セットアップできるのは、本機に標準で付属されているソフトウェアのみです。ご自分でインストールしたソフトウェアや作成したデータを復元することはできません。
- ご自分で変更された設定は、再セットアップ後はすべて初期値に戻ります。 再セットアップ後に、もう1度設定し直してください。
- ハードディスクを初期化した場合、それ以前にハードディスク上にあったファイルはすべて消えてしまいます。また、ハードディスクを初期化しない場合でも、ハードディスク上のファイルが保存されることを保証するものではありません 。再セットアップを行う前に、大切なデータは必ずフロッピーディスクに保存するなどして、バックアップをとっておいてください。
- ハードディスクを初期化せずにすべてのファイルを復元した場合、システムが正常に動作しないことがあります。このような場合は、もう一度再セットアップを行って、ハードディスクを初期化してから、すべてのファイルを復元してください。
- リカバリーCDで再セットアップしたあと、続いてWindows 95のセットアップを行う必要があります。その際、付属のMicrosoft Windows 95ファーストステップガイドの表紙に記載されている、Product IDが必要になります。
  Microsoft Windows 95ファーストステップガイドは大切に保管してください。

再セットアップする

再セットアップする前に、フロッピーディスクがフロッピーディスクドライブに入っていないことを確認してください。
以下の手順に従って再セットアップします。

1 **付属のリカバリーCDをCD-ROM／CD-Rドライブに入れる。**
入れかたについて詳しくは、「CD-ROM／CD-Rを使う」（35ページ）をご覧ください。

2 **Windows 95が起動している場合は終了し、本機の電源を切る。**
Windows 95の終了のしかた、電源の切りかたについて詳しくは、「電源を切るには」（19ページ）をご覧ください。

3 **30秒ほど待ってから、電源スイッチを押して本機の電源を入れる。**
しばらくするとCD-ROM／CD-Rドライブから起動し、リカバリーCD上のプログラムが動作します。

4 **画面の指示に従って操作する。**

ご注意

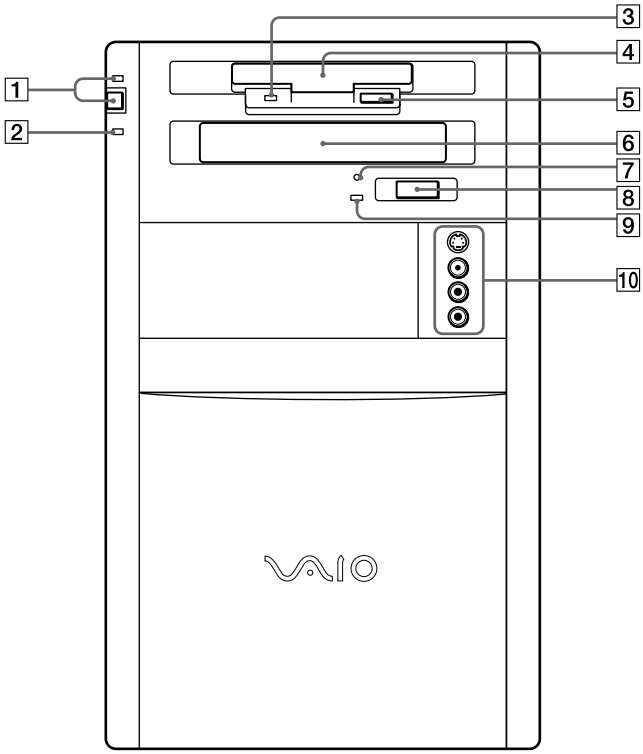
BIOSセットアップメニューのBootメニューで、「First Boot Device」を「ATAPI CD-ROM Drive」以外に設定しているときは、システムの起動を試みる最初のドライブがCD-ROMではないため、手順3を行っても、リカバリーCDが起動しません。この場合は、BIOSセットアップメニューで「First Boot Device」を「CD-ROM」に設定してください。詳しくは、「Bootメニュー（起動オプション、電源供給関連の設定）」（133ページ）をご覧ください。

各部の名称と働き

詳しい説明は、（ ）内のページをご覧ください。

前面

イラストは前面上部パネルを下までおろした状態です。下の図はPCV-T710MRです。



1 電源ボタンとランプ（電源ランプ）（18ページ）

本機の電源を入れるときに押します。電源が入っている間は、ランプが点灯します。

2 ランプ（ハードディスクアクセスランプ）

ハードディスクにアクセスしてデータを読み込んだり、書き込んだりするときにオレンジ色に点灯します。

次のページにつづく

3 **フロッピーディスクドライブアクセスランプ（53ページ）**
フロッピーディスクにアクセスしてデータを読み込んだり、書き込んだりするときに点灯します。

4 **フロッピーディスクドライブ（52ページ）**
3.5インチのフロッピーディスクにデータを読み込んだり、書き込んだりします。

5 **フロッピーディスクイジェクトボタン（53ページ）**
フロッピーディスクを取り出すときに押します。

6 CD-ROM／CD-R**ドライブ（36、41、45ページ）**
CD-ROMのデータを読み込んだり、CD-Rにデータを書き込んだりします。

7 **マニュアルイジェクト穴（39、44ページ）**
CD-ROMイジェクトボタンを押してもCD-ROMを取り出せないときに使います。

8 CD-ROM**イジェクトボタン（38、43ページ）**
CD-ROMを取り出すときに押します。

9 CD-ROM／CD-R**ドライブアクセスランプ（38、43ページ）**
CD-ROM、CD-Rにアクセスしてデータを読み込んだり、書き込んだりするときに点灯します。

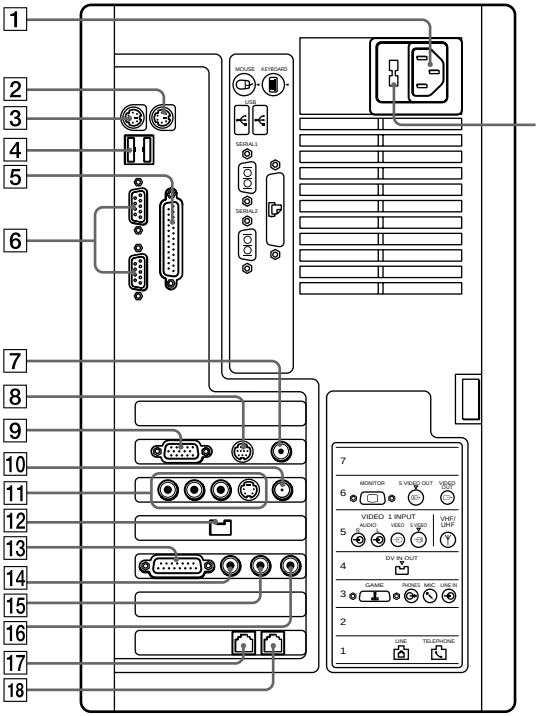
10 VIDEO 2 INPUT **（映像入力2）端子（87ページ）（PCV-T710MRのみ）**
ビデオデッキ、ビデオカメラレコーダーなどとつなぎます。

S VIDEO **（S映像入力）**:
ビデオデッキ、ビデオカメラレコーダーなどのS映像出力端子とつなぎます。よりきれいな映像を本機で見たり編集することができます。

VIDEO **（映像入力）**:
ビデオデッキ、ビデオカメラレコーダーなどの映像出力端子とつなぎます。映像を本機で見たり編集するときに使います。

AUDIO L／R **（音声入力）**:
ビデオデッキ、ビデオカメラレコーダーなどの音声出力端子とつなぎます。

後面



安全のため、
このスイッチはさわらないでください。

1 AC INPUT（AC**電源入力**）**端子**
付属の電源コードをつなぎ、AC電源につなぎます。

2 KEYBOARD（**キーボード**）**端子**
付属のキーボードをつなぎます。

3 MOUSE（**マウス**）**端子**
付属のマウスをつなぎます。

4 USB（Universal Serial Bus）**端子**
USB規格に対応した機器をつなぎます。（本機では現在サポートするUSB機器はありません。）

5 PRINTER（**プリンター**）**端子**（91**ページ**）
別売りのプリンターやスキャナーなどをつなぎます。

6 SERIAL 1／2（**シリアル** 1／2）**端子**（80**ページ**）
赤外線通信アダプターなどをつなぎます。

7 VIDEO OUT（**映像出力**）**端子**（90**ページ**）
テレビなどの映像入力端子とつなぎます。

次のページにつづく

8 S VIDEO OUT（S**映像出力**）**端子**（90**ページ**）
テレビなどのS映像入力端子とつなぎます。

9 MONITOR（**モニター**）**端子**
ディスプレイをつなぎます。

10 VHF／UHF（**アンテナ**）**端子**（83**ページ**）（PCV-T710MR**のみ**）
アンテナをつなぎます。

11 VIDEO 1 INPUT（**映像入力**1）**端子**（86**ページ**）（PCV-T710MR**のみ**）
ビデオデッキ、ビデオカメラレコーダーなどとつなぎます。
S VIDEO（S**映像入力**）:
ビデオデッキ、ビデオカメラレコーダーなどのS映像出力端子とつなぎます。よりきれいな映像を本機で見たり編集することができます。
VIDEO（**映像入力**）:
ビデオデッキ、ビデオカメラレコーダーなどの映像出力端子とつなぎます。映像を本機で見たり編集するときに使います。
AUDIO L／R（**音声入力**）:
ビデオデッキ、ビデオカメラレコーダーなどの音声出力端子とつなぎます。

12 DV IN OUT（**デジタル入／出力**）**端子**（85**ページ**）
デジタルビデオカメラレコーダーなどのDV機器とつなぎます。

13 GAME（**ゲーム**）**端子**（92**ページ**）
ジョイスティックやMIDI機器をつなぎます。

14 PHONES（**ヘッドホン**）**端子**
別売りのスピーカーや本機専用のソニーマルチメディアコンピューターディスプレイCPD-220VSのHEADPHONES端子とつなぎます。

15 MIC（**マイクロホン**）**端子**
別売りのマイクや本機専用のソニーマルチメディアコンピューターディスプレイCPD-220VSのMICROPHONE端子とつなぎます。

16 LINE IN（**ライン入力**）**端子**
オーディオ機器とつなぎます。

17 LINE（**電話回線**）**ジャック**（78**ページ**）
壁の電話回線とつなぎます。

18 TELEPHONE（**電話機**）**ジャック**（77**ページ**）
電話機をつなぎます。

キーボードショートカット

Windowsキーとの主な組み合わせと機能

キー操作の表記

例：Windowsキーを押しながらFキーを押す。➡ ⊞ +F

組み合わせ	機能
⊞+F1	Windowsのヘルプを表示します。
⊞+Tab	タスクバーに表示されているボタンの選択を切り換えます。
⊞+E	エクスプローラー[1] を表示します。
⊞+F	「ファイルやフォルダ」の検索ウィンドウを表示します。 ［スタート］メニューから［検索］を選んだときと同じです。
⊞+Ctrl+F	「ほかのコンピュータ」の検索ウィンドウを表示します。 ［スタート］メニューから［検索］を選んだときと同じです。
⊞+M	表示されているすべてのウィンドウを最小化します。
Shift+⊞+M	最小化されているすべてのウィンドウを元のサイズに戻します。
⊞+R	「ファイル名を指定して実行」ウィンドウを表示します。 ［スタート］メニューから「ファイル名を指定して実行…」を選んだときと同じです。
⊞+Pause	「システムのプロパティ」ウィンドウを表示します。 「コントロールパネル」の［システム］アイコンをダブルクリックしたときと同じです。

[1] コンピューターの内容（ファイルやフォルダー）をツリー図で表示します。作成したファイルなどがコンピューターのどこに保存されているか、一目で確認できます。

故障かな？と思ったら

ITテクニカルレスポンスセンターにご相談になる前にもう一度チェックしてみてください。それでも具合が悪いときはお買い上げ店またはITテクニカルレスポンスセンターにご相談ください。

ご注意

接続し直すときは、かならず「電源を切るには」（19ページ）の手順にしたがい、いったん電源を切ってください。

症状	原因／対策
電源が入らない。	• 本機の電源コードがしっかりコンセントに差し込まれているか確認する。 • すべてのケーブルがしっかり接続されているか確認する。
画面に何も表示されない。	• 本機とディスプレイの電源コードがしっかりコンセントに差し込まれているか確認する。 • 本機とディスプレイを正しく接続する。 • 本機とディスプレイの電源スイッチが入っているか確認する。 • ディスプレイの明るさボタンとコントラストボタンで調整する。詳しくはディスプレイの取扱説明書をご覧ください。
画像が乱れる。	ラジオなど、近くに磁気を発生するものや磁気を帯びているものがある場合は、ディスプレイから離す。
画質が悪い。	ディスプレイの調整ボタンで画質を調整する。詳しくはディスプレイの取扱説明書をご覧ください。
画像の両端が欠ける。	ディスプレイの調整ボタンで設定する。詳しくはディスプレイの取扱説明書をご覧ください。
表示サイズ、 表示位置がおかしい。	ディスプレイの調整ボタンで設定する。詳しくはディスプレイの取扱説明書をご覧ください。

症状	原因／対策
CD-ROMの再生時、音がとぎれる。	• CD-ROMをCD-ROM/CD-Rドライブに入れてください。 • CD-ROMが正しくトレイに置かれているか確認する。CD-ROMは文字が書いてある面を上にして置きます。 • CD-ROMの再生面を柔らかい布できれいにふき、汚れをとる。 • 結露している。しばらく待って電源を入れ直してから、もう一度再生してみる。
CD-Rが取り出せない。	CD-RはCD-ROMイジェクトボタンでは取り出せません。取り出しかたについては49ページをご覧ください。
CD-ROMが取り出せない。	38ページまたは43ページをご覧ください。
画面上のポインターが動かない。	• 本機とマウスが正しく接続されているか確認する。 • マウスの内部が汚れている。マウスを掃除する。(164ページ) • ⊞キーを押して［スタート］メニューを表示させ、↑キーまたは↓キーを押して［Windowsの終了］を選び、Enterキーを押す。 • 上記の操作で電源を切れない場合は、CtrlキーとAltキーを押しながらDeleteキーを押し、本機を再起動する。 • CD-ROMを再生しているときなどに、ポインターが動かなくなってしまった場合は、CtrlキーとAltキーを押しながらDeleteキーを押し、再生中のCD-ROMを強制的に終わらせ、本機を再起動する。
電源を入れた後、「No System disk or disk error. Replace and press any key when ready.」というメッセージが出て、ハードディスクを立ち上げられない。	フロッピーディスクがフロッピーディスクドライブに入っているときは、イジェクトボタンを押し、取り出す。 その後、キーボードで何らかのキーを押す。

次のページにつづく

症状	原因／対策
「マイコンピュータ」から フロッピーディスクを 選んで初期化しようとした ができない。	• フロッピーディスクが書き込み禁止になっている。タブを動かして書き込み可能にする。（54ページ） • フロッピーディスクがフロッピーディスクドライブにきちんと入っているか確認する。 • 「アプリケーションが使用中です」というメッセージが出たときは、フロッピーディスクの内容がウィンドウで表示されている。ウィンドウ表示されているときは初期化できないので、フロッピーディスクのウィンドウを閉じる。
「ディスクがいっぱいです」 というメッセージが 表示され、ファイルなど をフロッピーディスクに 保存できない。	フロッピーディスクの容量の空きがない。容量の空きが充分にある、別のフロッピーディスクを使って、保存し直す。
「書き込み禁止」という メッセージが表示された。	フロッピーディスクが書き込み禁止になっている。タブを動かして書き込み可能にする。（54ページ）
スピーカーから 音が出ない。	• 本機専用のディスプレイをお使いの方は、ディスプレイのケーブルが本機にしっかり接続されているか確認する。 • ディスプレイのミュートボタンが「ON」になっていないか確認する。 • ディスプレイの内蔵スピーカーの音量が最小になっている。音量ボタンで音量を上げる。 • アクティブスピーカーを接続している場合は、スピーカーのオーディオケーブルが本機にしっかり接続されているか確認する。 • アクティブスピーカーの音量が最小になっている。音量つまみで音量を上げる。詳しくは、スピーカーに付属の取扱説明書をご覧ください。
日本語が入力できない。	「文字を入力する」（27ページ）をご覧ください。

症状	原因／対策
入力した文字が表示されない。	文字を入力したいソフトウェアのウィンドウが前面に出ていない。（画面上では薄い色のウィンドウになります。）ウィンドウのどこかをクリックするか、AltキーとTabキーを同時に押して目的のアプリケーションソフトウェアを前面に出し、使える状態にする。
URLで使われる半角の「~」が入力できない。	MS-IME97ツールバーで「直接入力」または「半角英数」を選び、Shiftキーを押しながら「 ^ 」を押す。 MS-IME97ツールバーについて詳しくは、「文字を入力する」（27ページ）をご覧ください。
全角の「〜」が入力できない。	MS-IME97ツールバーで「全角ひらがな」を選び、ひらがなで「から」と入力し、「〜」が選ばれるまでスペースキーを押す。 MS-IME97ツールバーについて詳しくは、「文字を入力する」（27ページ）をご覧ください。
マウスがマウスパッドの端まで来てしまい、これ以上動かせない。	マウスを持ち上げてマウスパッドの中央に戻す。
ハードディスクから起動できない。	• フロッピーディスクドライブに、フロッピーディスクが入っていないか確認する。 • CD-ROM／CD-Rドライブにリカバリーが入っていないか確認する。
誤ってハードディスクを初期化してしまった。	リカバリーCDを使って、本機を再セットアップする必要があります。「リカバリーCDで本機を再セットアップする」（169ページ）をご覧ください。
ハードディスクの内容を誤って消してしまった。	リカバリーCDを使って、本機を再セットアップする必要があります。「リカバリーCDで本機を再セットアップする」（169ページ）をご覧ください。
「CMOS BATTERY FAILED」というメッセージが表示される。	本機内のバッテリーが消耗しているため、バッテリーを交換する必要があります。バッテリーの交換については、ITテクニカルレスポンスセンター修理窓口へお問い合わせください。

次のページにつづく

症状	原因／対策
「ERROR 8100: Memory Decreased in Size」というメッセージが表示される。	本機内のメモリー容量を減らした場合、メモリーの容量が減少したことを知らせるためにこのメッセージが表示されますが、故障ではありません。
画面上のすべてのものが動かなくなってしまった。	• CtrlキーとAltキー、Deleteキーを同時に押して、本機を再起動する。 • 上記の操作を行っても本機を再起動できない場合は、電源をいったん切ってから入れ直す。
赤外線で通信できない。	• 赤外線アダプターのケーブルが本機のSERIAL1または2端子にしっかり差し込まれているか確認する。 • 本機の赤外線通信ドライバーが正しく設定されているか確認してください。コントロールパネルの「赤外線モニター」ダイアログボックスで赤外線アダプターをつないだSERIAL端子に合った設定を行ってください。（80ページ） • 本機と通信する機器の赤外線ポートが赤外線アダプターと真正面に向き合っているか確認してください。間に障害物があるときは取り除いてください。コントロールパネルの「赤外線モニター」ダイアログボックスの「状況」タグを見て通信する機器が認識されているか確認してください。
インターネットまたはパソコン通信ができない。	• テレホンコードがしっかり差し込まれているか確認する。 • TELEPHONEジャックにつないだ電話機の受話器を取り、発信音がするかどうか確認する。

索引

五十音順

ア

アンテナ　83
インターネット
　インターネットサービスプロバイダー　57
　インターネットとは　56
　インターネットを始める　59
音楽CD　74

カ

外部スピーカー　66、67
外部マイク　66、67
拡張ボード
　拡張スロット　94、99
　種類　94
　増設する　94
　取り付ける　97
　取りはずす　102
　プラグアンドプレイ　94、121
　リソース　95
　ISA拡張ボード　94
　PCI拡張ボード　94
キーボード
　キーボードショートカット　175
　キーボードを掃除する　165
　キーボードを使う　24
　用語解説　16
キャディ
　キャディを使う　41
　取り扱いについて　162
クリック
　クリック　22
　ダブルクリック　22
　右クリック　23
結露　162
コントロールパネル　80、138
コンピューターウイルス　162

サ

サイバーショット
　サイバーショットから画像を取り込む　88
　サイバーショットを使う　88
省電力機能
　スタンバイモード　113、131
　ディスプレイ　141
ジョイスティック　92
初期化　54
スタンバイモード　113、131
スピーカー
　アクティブスピーカー　66、67
　内蔵スピーカー　66、67
赤外線
　赤外線通信アダプター　70、80、88
　赤外線データ通信　70、88
　赤外線データ通信の設定を変更する　80
　赤外線ポート　70、88
接続
　アンテナ　83
　ジョイスティック　92
　赤外線通信アダプター　80
　デジタルスチルカメラ　88
　テレビ　89
　電話回線　77
　ビデオカメラレコーダー　86
　ビデオデッキ　86
　プリンター　91
　DV機器　85
　MIDI機器　92
操作環境の変更
　音質の設定変更　147
　コントロールパネル　138
　ディスプレイの設定変更　139

次のページにつづく

ソフトウェア
不正コピー禁止について 163
用語解説 16
ワードパッド 27
Adobe PhotoDeluxe 13
Communication Center 62
Community Place Browser 76
DV静止画キャプチャー 72
Internet Explorer 58、59
Media Bar 13、74
Media Bar TV 75
Navin' You Lite 76
Netscape Communicator 58、59
PictureGear Lite 13、70、76、88
Slipclip 13、73、84、87
TranXit 70
YAMAHA
SoftSynthesizer S-YXG50 147

タ

ダブルクリック 22
ディスプレイ
お手入れ 164
省電力機能 141
ディスプレイの設定変更 139
用語解説 16
ディスプレイの設定
色 145
スクリーンセーバー 141
調整 143
ディスプレイの詳細 146
デザイン 142
背景 140
パン 144
デジタルスチルカメラ
デジタルスチルカメラから画像を取り込む 88
デジタルスチルカメラを使う 88
データ
書き込み禁止にする 54
バックアップをとる 2、161、163
やりとりする 70
テレビ
テレビをつなぐ 89
テレビを見る 75
デバイス
増設する 108
取り付ける 108
取りはずす 111
電源
電源を入れる 18
電源を切る 19
電話
電話を受ける 67
電話をかける 66
電話を準備する 62
留守番電話として使う 68
電話回線
コンセントの種類 79
電話回線につなぐ 77
ドライバー 91
ドライブベイ 108
ドラッグする 23
トレイアダプター
取り扱いについて 162
トレイアダプターを使う 36

ナ

日本語入力 27

ハ

ハードディスク
取り扱いについて 160
バックアップをとる 2、161、163
用語解説 16
パスワード
管理者パスワード 128
設定する 129
変更する 129
ユーザーパスワード 128
パソコン通信
パソコン通信とは 60
パソコン通信を楽しむ 60
バックアップをとる 2、161、163
ヒストリー機能 47
ビデオカメラレコーダー 86
ビデオデッキ 86
ビデオ編集 73
ビデオCD 74
ファックス
ファックスを受信する 69
ファックスを準備する 62
ファックスを送信する 68

フォーマット
CD-R 35、45
CD-R FS 45
プラグアンドプレイ
プラグアンドプレイとは 94
BIOSセットアップの変更 121
フリーズ 50
プリンター 91
フロッピーディスク
入れる 52
使用できるフロッピーディスク 55
初期化する 54
データを書き込み禁止にする 54
取り扱いについて 161
取り出す 53
BIOSセットアップの変更 117
フロッピーディスクドライブ 52
プロバイダー 58
ベイカバー 111
ポインター 21
ポイントする 22

マ
マウス
マウスを掃除する 164
マウスを使う 21
用語解説 16
マイク 66、67
右クリック 23
メモリー
増設する 103
取り付ける 103
取りはずす 107
用語解説 15
文字入力 27
モジュラージャック 77
モデム
電話回線につなぐ 77
用語解説 16
ATコマンド 149

ラ
リカバリーCD 169
リソース 95、121
リフレッシュレートの変更 144
留守番電話 68

ワ
ワードパッド 27

アルファベット順

A
Adobe PhotoDeluxe 13
ATコマンド 149
AV機器
アンテナ 83
デジタルスチルカメラ 88
テレビ 75、89
ビデオカメラレコーダー 73、86
ビデオデッキ 73、86
DV機器 72、85

B
BIOSセットアップメニュー
キー操作 115
起動する 114
終了する 115、136
特長 113
メニュー構成 114
Advancedメニュー 121
BIOSセットアップとは 112
Bootメニュー 133
Exitメニュー 136
Mainメニュー 116
Powerメニュー 131
Securityメニュー 128

C
Communication Center 62
Community Place Browser 76
CD-R
入れる 41
お手入れ 164
使用できるディスク 44
取り扱いについて 161
取り出す 49
フォーマット 35、45
CD-R FS
ディスクの取り出し 49
ヒストリー機能 47
ファイルの操作 46
フォーマット 45
フリーズ 50
ヘルプを見る 46、48、51

次のページにつづく

CD-ROM
入れる 36、41
お手入れ 164
使用できるディスク 44
取り扱いについて 161
取り出す 38、43
CD-ROM／CD-Rドライブ 36、41、45
CPU 15

D
DIMM 103
DV機器 72、85

I
IDE 118
Internet Explorer 58、59
IrDA 70
ISA拡張ボード 94

M
Media Bar 13、74
Media Bar TV 75
MIDI機器 92

N
Navin' You Lite 76
Netscape Communicator 58、59

P
PCI拡張ボード 94
PictureGear Lite 13、70、76、88

S
Slipclip 13、73、84、87

T
TranXit 70

V
V/Uミキサー 84

W
Windows 95 18、138